

文部科学省委嘱事業「家庭教育に関する活性化方策の推進」事業

子育てサークルの活動に関する調査

報告書

平成13年3月

子育てサークル研究会
(国立女性教育会館内)

はじめに

都市化、核家族化など社会環境の変化の中で、子育てや家庭教育の充実が大きな課題となり、行政や民間で多方面から支援のあり方が問われています。そうした中、子育て中の人たちが子どもとともに活動する「子育てサークル」が全国各地でつくられ、地域で多くの人を巻き込む広がりのある活動として注目されるようになってきました。

そこで国立女性教育会館内に子育てサークル研究会を置き、文部科学省の委嘱（「家庭教育に関する活性化方策の推進」事業）を受けて、地域における家庭教育支援としてどのような実践が展開されているのかを把握するために、子育てサークルを対象としてその活動内容、行政との関係、サークル活動の成果や抱えている課題などについて、アンケート調査を実施いたしました。本報告書はその結果をまとめたものです。

今回の調査に回答していただいた子育てサークルは規模も成り立ちも多様であり、全国各地域で、工夫に満ちた活動や交流を活発に展開しています。多くのサークルが現在、行政支援を受けていますが、今後も「場の支援」「情報支援」「相談支援」など、多方面からの支援を期待しています。

また、サークル活動者が子育てサークルに加入した動機はさまざまですが、サークル活動を通し、多くの人や、子どもにも配偶者や家族の関係にも、そして自分自身にも、成長やプラスの変化があったことを感じています。

こうした調査結果から、子育てサークルは子育て活動の場として、エンパワーメントの場として、そして地域のネットワークの核として、ますますその役割が広がり、重要になっていくことが予想されます。

本報告書では、各問ごとの分析結果に加え、調査のまとめとして、新しいサークル像の検討をいたしました。また、サークルの皆様にご記入いただいたサークル活動の現状や、お寄せいただいた多数の自由意見については、できるだけ数多く掲載し、『全国の子育てサークルの今』の声を浮き彫りにできるよう、工夫をいたしました。

この報告書が、これからの子育てや家庭教育支援を考える上での参考資料として、行政や企業、子育てネットワークや各サークルなど子育てサークルにかかわる皆様方に、幅広くご活用いただけると幸いです。

最後になりましたが、調査の実施に当たりご協力をいただきました多くの皆様に、心から感謝申し上げます。

平成13年3月

子育てサークル研究会（国立女性教育会館内）アンケート調査メンバー

研究会代表（国立女性教育会館長）	大野 曜
十文字学園女子大学講師・国立女性教育会館客員研究員	安達 一寿
群馬大学助教授・国立女性教育会館客員研究員	結城 恵
国立女性教育会館 事業課主任研究官	中野 洋恵
国立女性教育会館 情報交流課専門職員	宮沢 紀美

子育てサークル研究会（国立女性教育会館内）アンケート調査メンバー

研究会代表（国立女性教育会館長）

大野 曜

十文字学園女子大学講師・国立女性教育会館客員研究員

安達 一寿

群馬大学助教授・国立女性教育会館客員研究員

結城 恵

国立女性教育会館事業課主任研究官

中野 洋恵

国立女性教育会館情報交流課専門職員

宮沢 紀美

目次

はじめに

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の概要	3
3 回収結果	8
4 調査主体及び調査実施	8
第2章 メンバー調査結果	9
1 回答者のプロフィール	11
(1) 居住地	
(2) 男女比	
(3) 年代	
(4) 結婚の経験	
(5) 夫婦の働き方と収入	
(6) 最終学歴	
(7) 職業と働き方	
(8) 仕事の経験と今後の就労意向	
(9) 生活時間	
2 家族と子どもについて	18
(1) 家族構成	
(2) 子どもの人数と年齢	
(3) 子どもの子育てサークルへの加入状況	
(4) 子どもを預かってくれる所	
(5) 男の子と女の子の育て方に対する考え方	
3 サークルにおける活動状況	23
(1) サークルの加入期間	
(2) サークル活動に参加する頻度	
(3) サークルに加入したきっかけ	
(4) サークルに加入した理由	
(5) メンバーとの情報交換の手段	
(6) サークルでの活動内容	
(7) サークルでの役割分担	
(8) サークルの加入数	
(9) サークルをやめた経験	

4	サークルメンバー・家族に対する意識	36
	(1) 他のメンバーとの接し方について	
	(2) サークルでの意見交換について	
	(3) サークル加入による自分自身の変化	
	(4) サークル加入による配偶者や家族関係の変化	
	(5) サークル加入による子どもの変化	
	(6) サークル活動を成立させる条件	
5	活動意向	42
	(1) 今後の活動意向	
	(2) 設立したいサークルのタイプ	
6	日ごろの子育ての困りごと	45
	(1) 子育てのなかで感じる問題点	
	(2) 育児の困りごとに対処するための情報源	
7	子育てサークルに関する意見(自由回答)	47
第3章	リーダー調査結果	59
1	サークルの概要	61
	(1) サークルの規模(メンバー数)	
	(2) サークルのメンバー構成	
	(3) 発足時期	
	(4) サークル拠点地の人口規模等	
	(5) サークル拠点地の地域の状況	
	(6) メンバーの居住地域	
	(7) サークルの特徴	
	(8) サークル開催の頻度	
	(9) 1回あたりの活動時間	
	(10) 活動場所	
2	サークルの運営について	68
	(1) 分担している仕事または係りの状況	
	(2) サークルの方針の決め方	
	(3) 活動資金の収集について	
	(4) 情報源	
	(5) 他のサークルとの交流	
	(6) サークルの雰囲気	

3	リーダー自身について	82
	(1) サークル運営についての自己評価	
	(2) リーダーに求められる資質	
	(3) サークルをとりまく環境についての考え方	
4	行政支援について	85
	(1) 相談する行政窓口	
	(2) 行政からの支援の有無	
	(3) 支援を受けている先	
	(4) 支援を受けている内容	
	(5) 行政支援の満足度	
	(6) 行政担当者の理解度	
	(7) 行政支援のあり方について	
	(8) その他必要な行政支援	
5	サークルの現状と課題(自由回答)	101
第4章	全体結果のまとめ	111
1	全体結果	113
2	自由意見	115
第5章	今後の子育てサークル支援に向けて	117
1	子育てサークル像を検討するためのタイプ分析	119
	(1) リーダー像の考察	
	(2) メンバー像の考察	
	(3) サークル像の考察	
2	子育てサークルの全体像と今後の方向	125
	(1) 子育てサークルの全体像	
	(2) 子育てサークルの今後の方向と行政支援のあり方	
資料編	調査票及び集計結果	129

第 1 章 調査概要

第2章 メンバー調査結果

(メンバー自身、サークルでの活動について)

< 図表のみかた >

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体(2,195)の場合はN、それ以外の場合にはnと表記しています。
- 2 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)があります。
- 3 居住地別、年代別などは、不明の方がいたため、合計が全体とは一致しません。
- 4 居住地別の「区」は、東京23区を指します。
- 5 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%を超えることがあります。
- 6 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されています。
また、棒グラフは、原則として回答割合の多い順に並べかえています。
調査票を巻末の資料編に掲載しましたので、ご参照ください。

第3章 リーダー調査結果

(サークルの概要、リーダー自身について)

< 図表のみかた >

- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体(571)の場合はN、それ以外の場合にはnと表記しています。
- 2 %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)があります。
- 3 サークル規模別、拠点地域別などは、不明の方がいたため、合計が全体とは一致しません。
- 4 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%を超えることがあります。
- 5 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されています。
また、棒グラフは、原則として回答割合の多い順に並べかえています。
調査票を巻末の資料編に掲載しましたので、ご参照ください。

第 4 章 全体結果のまとめ

第5章 今後の子育てサークル 支援に向けて

資料編 調査票及び集計結果

文部科学省委嘱事業「家庭教育に関する活性化方策の推進」事業

子育てサークル活動に関する調査
報告書

平成 13 年 3 月

発行：子育てサークル研究会（国立女性教育会館内）

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

TEL 0493(62)6711（代表）

調査実施機関：株式会社 生活構造研究所

〒102-0083 東京都千代田区麹町二丁目 6 番地 5 麹町 E.C.K ビル

TEL 03(5275)7861

1 調査の目的

社会全体での子育て支援が必要とされている現在、子育て中の人子どもを連れて、同じように子育てをしている人たちと一緒に活動する「子育てサークル」の動きが各地で活発になってきている。この「子育てサークル」の活動は、子育て経験者等が子育て中の人の相談相手となって子育てを支援する「子育て支援サークル」や「児童健全育成団体」などとあわせ、地域での子育て支援の重要な役割を担うことが期待されている。

本調査は、全国の「子育てサークル」のリーダー及びメンバーを対象にアンケートを行い、各サークルの活動状況、サークルの問題点を探るとともに、メンバーやリーダーの意識・生活等も探り、今後の子育てネットワークのあり方や行政支援のあり方について検討する基礎資料とする目的で実施した。

<参考>子育てサークルとは

「子育て中の親たちが子どもを連れて集まり、子ども同士遊ばせながら、学習や情報交換をしたり、運動会やクリスマスなどの行事を共同で実施したりする」サークル

平成10年版厚生白書（厚生省）より

2 調査の概要

(1) 調査対象

対象者及びサンプル数

全国の子育てサークル 1,000 （リーダー1,000 人及びメンバー5,000 人）

対象都道府県

まず、全国の47 都道府県を、「合計特殊出生率」と「30～34 歳の女性の労働力率」をもとに、下記の4 グループに分類した。

Aグループ	合計特殊出生率(*1)と30～34歳女性の労働力率(*2)が全国平均より高い	30 県
Bグループ	合計特殊出生率が全国平均より低く、30～34歳女性の労働力率が全国平均より高い	2 都県
Cグループ	合計特殊出生率と30～34歳女性の労働力率が全国平均より低い	8 府県
Dグループ	合計特殊出生率が全国平均より高く、30～34歳女性の労働力率が全国平均より低い	7 県

(*1)合計特殊出生率（1人の女性が一生の間に産む子どもの数）：平成10年人口動態統計による

（参考）国立社会保障・人口問題研究所ホームページ <http://www.ipss.go.jp/>

(*2)30～34歳の女性の労働力率：平成7年国勢調査による

次に、各グループから下記の点を考慮して、対象となる都道府県を選んだ（図表1-2-1）。

- ・ 全国各地域（北海道・東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州の8地域）から対象都道府県が1箇所以上選ぶようにした
- ・ 30代前半の女性労働力率が最も高い山形県や、合計特殊出生率が最も低い東京都など特徴的な都道府県を優先的に選ぶようにした

図表 1 - 2 - 1 対象都府県の合計特殊出生率・労働力率

	対象都府県	地域	合計特殊出生率 (1998:人口動態統計)		30～34歳の女性の労働力率 (1995:国勢調査)	
			全国平均との比較		全国平均との比較	
全国平均				1.38		53.26
Aグループ	山形	北海道・東北		1.61		73.91
	群馬	関東		1.45		53.83
	石川	北陸		1.45		66.51
	三重	中部		1.43		53.49
	香川	四国		1.47		57.47
	熊本	九州		1.55		63.66
Bグループ	東京	関東		1.05		57.10
Cグループ	埼玉	関東		1.28		45.79
	大阪	近畿		1.31		47.14
Dグループ	滋賀	近畿		1.51		49.25
	広島	中国		1.42		52.55

(凡例) : 全国平均より高い : 全国平均より低い

対象となったのは以下の11都府県である。

- ・山形県 ・東京都 ・滋賀県 ・香川県
- ・群馬県 ・石川県 ・大阪府 ・熊本県
- ・埼玉県 ・三重県 ・広島県

抽出方法

対象となる子育てサークルは、都道府県ホームページ、県・市区町村・社会福祉協議会等の行政ならびに関係機関、子育てサークルのネットワーク等からの紹介により抽出した。

図表 1 - 2 - 2 都府県別の対象サークル数

都府県	サークル数	都府県	サークル数	都府県	サークル数
山形県	94	石川県	38	広島県	93
群馬県	80	三重県	73	香川県	100
埼玉県	94	滋賀県	103	熊本県	84
東京都	120	大阪府	121	計	1,000

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収(サークルあて督促礼状1回)

(*)配布はサークルあてとし、リーダー票1通とメンバー票5通を同封し、リーダーにメンバーへの配布を依頼した。回答後は回答者が直接返送する方式をとった。

(3) 調査内容

調査内容は以下の通りである。

メンバー調査

サークルメンバーとしての活動状況や本人の属性、意識などをたずねた。

リーダーの回答も可とした。

- a．活動状況
- b．サークルメンバー・家族に対する意識
- c．活動意向
- d．日ごろの子育ての問題点
- e．子育てサークルの問題点・意見
- f．フェイスシート

リーダー調査

サークルの概要とリーダー自身についてたずねた。

- a．サークルの概要
- b．サークルの運営について
- c．リーダー自身について
- d．行政支援について
- e．サークルの現状と課題

(4) 調査時期

平成13年1月19日～2月7日

(5) 調査項目

メンバー調査の項目及びリーダー調査の項目は次の通りである。

図表 1 - 2 - 3 メンバー調査 調査項目一覧

項目		設問
a	活動状況	問1 子育てサークルに加入してからの期間 問2 サークル活動に参加する頻度 問3 サークルに加入したきっかけ 問4 サークルに加入した理由 問5 メンバーとの情報交換の手段 問6 子育てサークルでの活動内容 問7 子育てサークルで分担している仕事・係り 付問 分担している仕事・係りの内容
b	サークルメンバー・家族に対する意識	問8 他のメンバーとの接し方 問9 メンバー間の意見交換に対する考え 問10 子育てサークル加入による自分自身の変化 問11 子育てサークル加入による配偶者や家族関係の変化 問12 子育てサークル加入による子どもの変化 問13 子育てサークル活動を成立させる条件
c	活動意向	問14 今後の活動意向 付問 設立したいサークルの活動内容
d	日ごろの子育ての問題点	問15 日ごろの子育ての際に感じる問題点 問16 育児の困りごとに対処するための情報源
e	子育てサークルの問題点・意見	問17 子育てサークルの加入数 問18 子育てサークルをやめた経験 付問 やめた理由(自由回答) 問19 子育てサークルの活動で苦労したこと(自由回答) 問20 子育てサークルに関する要望・意見(自由回答)
f	フェイスシート	問21 居住地(都道府県/区市町村) 問22 性別 問23 年齢 問24 結婚の経験 問25 夫婦の働き方 付問 配偶者間の収入バランス 問26 最終学歴 問27 職業 付問 就業形態 問28 仕事の継続・中断 付問 1 仕事を中断・退職した理由・きっかけ 付問 2 今後の就業意向 問29 生活時間 問30 同居家族 問31 子どもの年齢、子育てサークルの加入の有無 問32 子どもを預かってくれる人・施設 問33 女の子と男の子の育て方に対する考え方

図表1-2-4 リーダー調査 調査項目一覧

項目		設問
a	サークルの概要	問1 サークルの概要 A.メンバー数 B.発足時期 C.拠点地 D.拠点の地域特性 問2 メンバーの居住地域 問3 サークルの特色(メンバーの参加、地域との関係など) 問4 サークル開催の頻度 A.係りを集めた活動 B.係り以外のメンバーも含めた活動 問5 1回あたりの平均活動時間 問6 活動場所
b	サークルの運営について	問7 メンバーで分担する仕事または係り A.係りや仕事の種類 B.役割分担の決め方 C.メンバーの仕事の評価 問8 サークルの方針の決め方 A.方針を考える人 B.メンバーへの説明 C.リーダーの意向の反映度 問9 活動資金の集め方 問10 サークル活動に関する情報源 問11 他サークルとの交流の有無 付問 交流の内容 問12 サークルの雰囲気(メンバー間の意思疎通など)
c	リーダー自身について	問13 サークル運営についての自己評価 問14 リーダーに求められる資質 問15 サークルを取り巻く環境についての考え方
d	行政支援について	問16 利用している行政窓口 問17 行政からの支援について(支援を受けているか) 付問1 支援機関・部署 付問2 支援の具体的な内容 A.場所の提供の有無/場所/定常的か B.設備の貸し出しの有無/設備内容 C.財政的支援の有無/財政的支援の内容 D.人的支援の有無/指導者などの種類 E.情報提供の有無/支援内容(自由回答) F.学習機会の提供の有無 G.相談できる行政担当者の有無 問18 行政支援に対する満足度 問19 行政担当者の理解度 問20 必要な行政支援 付問 必要な行政支援(自由回答)
e	サークルの現状と課題	問21 リーダーとして苦勞していること(自由回答) 問22 サークルの抱える課題(自由回答)

3 回収結果

	配布数	有効回収数(*)	有効回収率
メンバー調査	5,000 s	2,195 s	43.9%
リーダー調査	1,000 s	571 s	57.1%
全 体	6,000 s	2,766 s	46.1%

(*)有効回収数：無効票を除く回収数

4 調査主体及び調査実施

(1) 調査主体

子育てサークル研究会（国立女性教育会館内）

< アンケート調査メンバー >

研究会代表（国立女性教育会館長）

大野 曜

十文字学園女子大学講師・国立女性教育会館客員研究員

安達 一寿

群馬大学助教授・国立女性教育会館客員研究員

結城 恵

国立女性教育会館 事業課主任研究官

中野 洋恵

国立女性教育会館 情報交流課専門職員

宮沢 紀美

(2) 調査実施

株式会社生活構造研究所

1 回答者のプロフィール

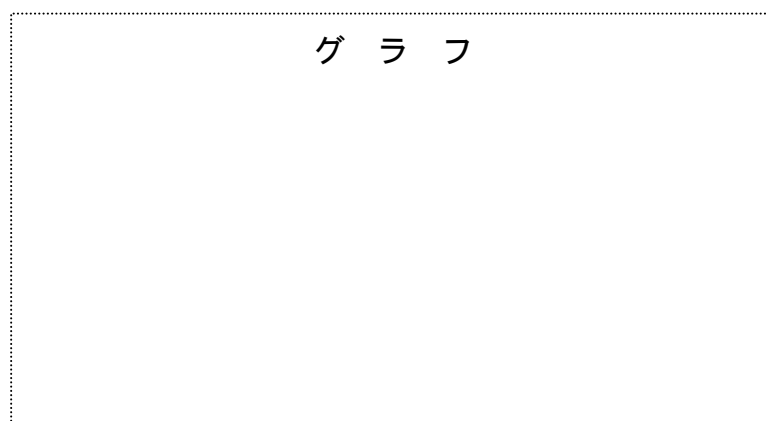
(1) 居住地

回答者の居住地について、都府県別と市町村別にみると図表2-1-1のようになる。

対象サークル数はそれぞれ異なるが、「広島県(12.1%)」、「東京都(11.1%)」、「大阪府(10.8%)」、「山形県(10.6%)」の順に回答が多い。対象サークルの都府県別内訳と比較すると、「広島県」、「石川県」、「山形県」の回答率が高い。

市町村別では、「市(72.1%)」がとくに多く、「町(22.8%)」が約2割。「東京23区(2.9%)」と「村(1.3%)」は少ない(図表2-1-1)。

図表2-1-1 居住地(全体)



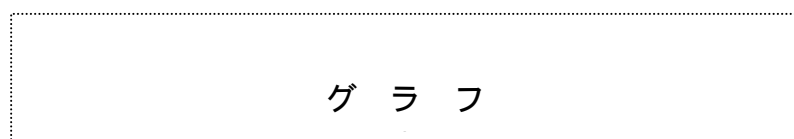
<参考>対象サークル(アンケート発送数)の都府県別内訳

全体	広島県	東京都	大阪府	山形県	群馬県	埼玉県	香川県	滋賀県	熊本県	石川県	三重県
100.0%	9.3%	12.0%	12.1%	9.4%	8.0%	9.4%	10.0%	10.3%	8.4%	3.8%	7.3%

(2) 男女比

回答者の男女比をみると、「女性(99.7%)」が大半を占めており、「男性(0.1%)」はごく少数である(図表2-1-2)。

図表2-1-2 男女別(全体)



(3) 年代

回答者の年代は、「30代前半(46.7%)」が最も多く、「30代後半(24.2%)」とあわせると、回答者の約7割が30代である。30代以外では「20代後半(20.1%)」が多い。平均年齢は33.0歳となっている(図表2-1-3)。

図表2-1-3 年代(全体)

グ ラ フ

(4) 結婚の経験

結婚の経験についてみると、ほとんどが「配偶者あり(99.2%)」と回答している。「未婚(0.2%)」、「死別・離別(0.3%)」はごく少数である(図表2-1-4)。

図表2-1-4 結婚の経験(全体)

グ ラ フ

(5) 夫婦の働き方と収入

夫婦の働き方

配偶者のいる人に、夫婦の働き方についてたずねた。「共働きではない(88.7%)」が9割近くを占めている。「共働き(11.1%)」は1割程度となっている(図表2-1-5)。

図表2-1-5 夫婦の働き方(《配偶者のいる人》:全体)

グ ラ フ

夫婦間の収入バランス

共働きの人に、夫婦間の収入バランスについてたずねた。収入は、「配偶者の方が多い(91.7%)」という人が9割を越えている。「ほぼ同じ」は5.0%、「本人の方が多い」は2.5%と少ない(図表2-1-6)。

図表2-1-6 夫婦間の収入バランス(《共働きの人》:全体)

グ ラ フ

(6) 最終学歴

回答者の最終学歴は、「短大・高専(33.9%)」、「高等学校(33.8%)」がそれぞれ約3分の1となっている。次いで、「大学(16.0%)」と「専門学校(14.0%)」が1割台となっている(図表2-1-7)。

図表2-1-7 最終学歴(全体)

グ ラ フ

(7) 職業と働き方

職業

職業についてたずねたところ、「専業主婦(夫)(86.2%)」が回答者の大半を占めている。「自営業・家族従業」は2.8%、それ以外の職業はいずれも1%前後にとどまっている。「専業主婦(夫)」以外の何らかの職業をもつ“有職者”の合計は12.3%となり、全体の1割程度である(図表2-1-8)。

図表2-1-8 職業(全体)

グ ラ フ

働き方

有職者（専業主婦（夫）以外の人）に働き方をたずねた。「パート・アルバイト（45.4%）」がもっとも多く、「フルタイム（16.2%）」は1割台である。現在は「育児休暇中」という人は4.8%となっている（図表2 - 1 - 9）。

図表2 - 1 - 9 働き方（《有職者》：全体）

グ ラ フ

（8）仕事の経験と今後の就労意向

仕事の経験

これまでの仕事の経験についてたずねた。「仕事の経験はあるが現在は就いていない（77.4%）」が8割弱でもっとも多い。「現在は仕事をしているが、かつて中断したことがある」は7.3%、「継続して仕事をしている」は4.4%である。「仕事に就いた経験はない」という人は1.2%と少ない（図表2 - 1 - 10）。

図表2 - 1 - 10 仕事の経験（全体）

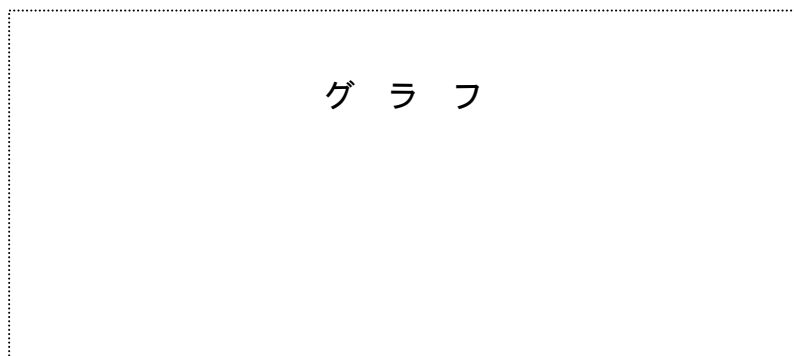
グ ラ フ

仕事を辞めた理由

仕事を辞めたり、中断したりした経験のある人に、仕事を辞めた理由をたずねた。

「妊娠・出産（51.9%）」がもっとも多く、半数以上が退職の理由として挙げている。次いで「結婚（35.1%）」、「育児（10.9%）」が上位3位となっている。「配偶者の転勤」は4.6%、「本人の転勤」や「仕事上の理由」、「雇用先の都合」など、本人の仕事に関する理由はいずれも1%前後である（図表2 - 1 - 11）。

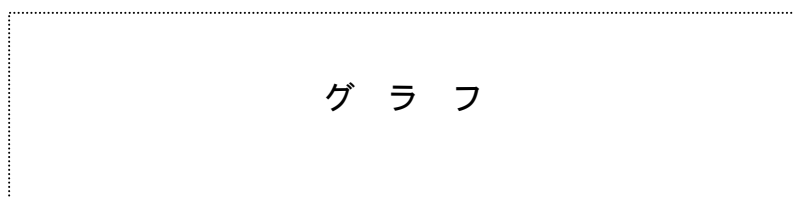
図表2 - 1 - 11 仕事を辞めた理由（複数回答 / 《退職経験者》：全体）



今後の就労意向

現在仕事に就いていない人に、今後の就労意向をたずねた。「条件が合えば就職したい（56.4%）」が半数を超えており、「就職したい（20.0%）」とあわせると、7割以上が就労意向をもっている。「わからない（10.5%）」は約1割、「就職するつもりはない（7.7%）」というまったく就労意向のない人は1割未満である（図表2 - 1 - 12）。

図表2 - 1 - 12 今後の就労意向（《仕事に就いていない人》：全体）



(9) 生活時間

家事、育児、介護、趣味に費やす時間について、回答者本人と配偶者のことをたずねた。回答者本人は、家事と育児に費やす時間はともに「4時間以上」という人がもっとも多く、なかでも育児に費やす時間は「4時間以上(79.4%)」という人が8割近くにのぼっている。本人は家事と育児に費やす時間が長いことがわかる。

回答者本人と配偶者を比べると、家事、育児は本人と配偶者の時間の差が大きい。家事は配偶者のほとんどが「1時間未満(86.6%)」で、育児は「1時間未満(50.4%)」と「1～2時間(31.6%)」を合わせた《2時間未満》が8割を超え、家事と育児に費やす時間が短い。配偶者である夫の家事や育児への参画はあまり進んでいないことがわかる。

介護に費やす時間は、本人と配偶者ともに「1時間未満」と「無回答」が大半を占めている。趣味は本人と配偶者の差が比較的少ないものの、本人は「1時間未満(63.8%)」という人が配偶者の52.5%を10ポイント以上も上回っており、趣味に費やす時間は配偶者より少ない(図表2-1-13)。

図表2-1-13 生活時間(全体)

グ ラ フ

2 家族と子どもについて

(1) 家族構成

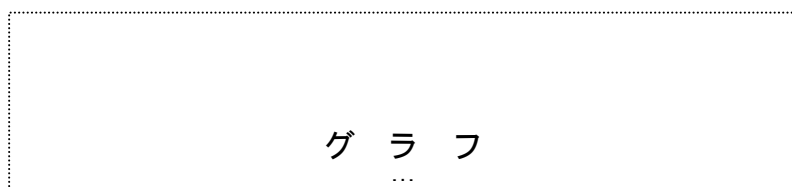
2 世代家族が多く、3 世代家族は 2 割未満

同居している家族をたずね、家族構成を分類した。

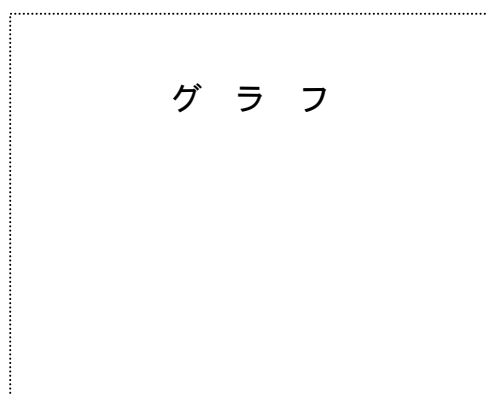
家族構成をみると、「2 世代家族 (75.9%)」がもっとも多い。「3 世代家族」は 17.2%、子ども・配偶者・父母以外が同居する「その他の家族」が 6.5%である (図表 2 - 2 - 1)。

3 世代家族やその他の家族など「父母と同居している」のは全体の 22.6%である。内訳をみると、「配偶者方の父母 (75.6%)」と同居している人が多い (図表 2 - 2 - 2)。

図表 2 - 2 - 1 家族構成 (全体)



図表 2 - 2 - 2 同居している父母の内訳 (《父母と同居している人》: 全体)



(2) 子どもの人数と年齢

子どもはおよそ2人。2, 3歳の幼児や7歳以上の児童がいる人が多い

回答者の子どもの人数と年齢をたずねた。

子どもの人数は、「2人(49.2%)」が半数近くでもっとも多く、次いで「1人(33.2%)」、「3人(15.2%)」の順になっている。子どもの人数の平均は1.9人である(図表2-2-3)。

図表2-2-3 子どもの人数(全体)

グ ラ フ

子どもの年齢をたずねたところ、3割以上の人々が「3歳(37.1%)」、「2歳(34.5%)」の幼児や「7歳以上(31.4%)」の児童がいると答えている。子どもの平均年齢は4.1歳となっている(図表2-2-4)。

図表2-2-4 子どもの年齢(複数回答/全体)

グ ラ フ

(3) 子どもの子育てサークルへの加入状況

主に3歳以下の乳幼児がサークルに加入している

子どもが子育てサークルに加入しているかたずねた。

子どもの年齢別に、子育てサークルへの加入状況をみると、「2歳(29.9%)」、「3歳(32.1%)」では3割程度の加入している子がいる。一方、「5歳」以上では加入している子は2～4%と少ない。

加入している子の平均人数は1.0人、加入していない子の平均人数は0.8人となっている。

子どもが2人以上いる場合でも、子育てサークルに加入しているのは主に3歳以下の乳幼児であると考えられる(図表2-2-5)。

図表2-2-5 年齢別のサークル加入状況(複数回答/全体)

グ ラ フ

(4) 子どもを預かってくれる所

いざというときには、「祖父母」が預かってくれることが多い

いざというときに子どもを預かってくれる人や施設が近所にあるかたずねた。

全体では、預かってくれるのは「祖父母(66.4%)」がもっとも多い。これに「友人・知人(35.4%)」が続いている。「一時預かり保育所(12.9%)」や「一時預かり託児所(6.8%)」といった施設は1割前後にとどまっている。また、約1割が預かってくれるところが「ない(10.3%)」と答えている(図表2-2-6)。

居住地別にみると、町・村部では、「祖父母(72.8%)」や「親戚(11.3%)」が預かってくれると答えた人が全体と比べて多いが、「友人・知人(28.3%)」は比較的少ない(図表2-2-7)。

図表2-2-6 子どもを預かってくれる所(複数回答/全体)



図表2-2-7 子どもを預かってくれる所(複数回答/全体、居住地別)

(5) 男の子と女の子の育て方に対する考え方

男の子と女の子の育て方は、「なるべく同じように育てた方がよいと思うが、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」という考え方が過半数

男の子と女の子の育て方に対する考え方をたずねた。

全体では、「なるべく同じように育てた方がよいと思うが、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい(53.9%)」が過半数でもっとも多い。「男の子も女の子も同じように育てた方がよい(36.7%)」は約3分の1となっている。「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」と断定しているのは4.3%にとどまっている。

未子年齢別にみると、未子年齢が6歳以上では「男の子も女の子も同じように育てた方がよい(48.6%)」が半数近くにのぼっている。

加入サークル数別にみると、2サークル以上に加入している人は、「男の子も女の子も同じように育てた方がよい(41.2%)」という人が4割を超えている(図表2-2-8)。

図表2-2-8 男の子と女の子の育て方に対する考え方
(全体、未子年齢別、加入サークル数別)

グ ラ フ

3 サークルにおける活動状況

(1) サークルの加入期間

サークルに加入して「5年以上」が約5割、「1年未満」が約3割。平均加入期間は約4年9ヵ月

全体では、「5年以上(49.7%)」というサークルに加入してからの期間が長い層が半数近くにのぼっている。一方、「1年未満(31.7%)」という加入期間の短い層も約3割いる。平均すると、加入期間は56.6ヵ月(約4年9ヵ月)となっている。

未子年齢別にみると、未子年齢が0～2歳、3～5歳のいずれも「5年以上」が過半数にのぼっており、平均加入年月は57～58ヵ月(約4年9～10ヵ月)と比較的長い。未子の年齢より長い期間加入していることから、子どもが2人以上いる場合は、第一子が乳幼児の頃から加入し続けていることが想定される(図表2-3-1)。

図表2-3-1 サークルの加入期間(全体、未子年齢別)

グ ラ フ

(2) サークル活動に参加する頻度

大半の人がサークル活動には「ほぼ毎回」参加している

サークル活動にどのくらいの頻度で参加しているかたずねた。

全体では、8割以上が「ほぼ毎回(82.9%)」参加しており、参加頻度は高い。「2回に1回程度(11.0%)」、「3回に1回以下(5.8%)」はそれぞれ1割前後にとどまっている。

居住地別にみると、一般的にアクセスのよいと思われる市・区部の方が参加頻度が高い。

家族構成別にみると、3世代家族とその他の家族では「ほぼ毎回」が全体より5ポイント以上低く、同居家族が多い方が参加頻度が低い(図表2-3-2)。

図表2-3-2 サークル活動に参加する頻度(全体、居住地別、家族構成別)

グ ラ フ

(3) サークルに加入したきっかけ

サークルに加入するきっかけになったのは「自分の友だち」が1位

サークルに加入したきっかけについてたずねた。

全体では、「自分の友だち(49.0%)」が半数近くでもっとも多い。2位は「子どもの友だち(26.8%)」、4位は「公園などの遊び場(13.0%)」で、個人的な交友関係が上位に挙げられている。

一方、3位の「自治体の広報誌(21.4%)」、5位の「母親学級など自治体が主催するセミナー(12.5%)」など、自治体からの働きかけも上位に挙げられている。

「その他(20.5%)」の回答が約2割で、6位以下の回答もそれぞれ3%以下であることから、サークルに加入するきっかけは多様になっているものの、個人的な交友関係と自治体の働きかけが主なきっかけとなっていることがわかる(図表2-3-3)。

図表2-3-3 サークルに加入したきっかけ(複数回答/全体)

グ ラ フ

この問は「その他」の回答が多いため、その内容（自由記入）をみると、サークル、口コミ、行政などさまざまなきっかけが挙げられた。主な回答は次の通りである。

<サークルから直接>

- ・サークルの人から直接の声かけ、手紙、ダイレクトメール、電話
- ・サークルで編集発行している新聞、出版物
- ・実際に見学に行つて話を聞いた
- ・サークルのバザー
- ・他サークルを通じて

<広報媒体>

- ・サークルのポスター（掲示板）
- ・サークルのチラシ
- ・自宅のポストに応募の用紙が入っていた
- ・地域情報誌の募集欄
- ・リビング新聞
- ・テレビ番組の紹介コーナー

<近隣>

- ・近所の人
- ・同じマンション・アパートの人
- ・同じ社宅の人
- ・マンションの掲示板
- ・回覧板

<知人>

- ・知人
- ・いとこ・親類
- ・仲人

<幼稚園・保育園>

- ・幼稚園・保育園の父母同士
- ・幼稚園の先生、保育園の保育士
- ・幼稚園・保育園の掲示板
- ・幼稚園・保育園にサークルがある

<保健婦・保健所>

- ・保健婦
- ・保健所・保健センター
- ・育児相談・検診
- ・健康センター
- ・言語療法士、言語指導の先生

<保健所以外の行政・公共機関>

- ・役所、役場
- ・児童館、児童センター
- ・子育て支援センター、育児広場
- ・公民館
- ・コミュニティセンター
- ・文化センター
- ・社会福祉協議会
- ・自治会
- ・民生委員
- ・地区の母子推進委員

<公共の行事・イベント>

- ・学校主催のセミナー、講演会
- ・リーダー養成講座への参加
- ・図書館のお話会

<公共機関以外の集まり>

- ・マタニティスイミング
- ・出産した病院、小児科医院
- ・子どもの本屋
- ・生協
- ・学校
- ・女性団体
- ・教会
- ・仕事先
- ・組合で集まった時に話を聞いた

<自ら発足・問合せなど>

- ・仲間、友人とサークルをつくった
- ・児童館等の集まりからサークルに発展した
- ・自ら問い合わせた（行政、保健所、公民館など）
- ・上の子が加入していた

<その他>

- ・引越し
- ・地域との交流

居住地別にみると、上位3位まで市・区部と町・村部との違いはあまりみられないが、町・村部では「公園などの遊び場」は9.6%と全体と比べて低くなっている。

末子年齢別にみると、末子年齢0歳～2歳では、「自治体の広報誌(23.6%)」、「母親学級など自治体が主催するセミナー(13.8%)」など自治体からの働きかけの割合が全体と比べて高い。末子年齢3歳～5歳では、「子どもの友だち(32.0%)」、「公園などの遊び場(16.1%)」などが、全体と比べて3～5ポイント高くなっている(図表2-3-4)。

図表2-3-4 サークルに加入したきっかけ
(複数回答/全体、居住地別、末子年齢別/上位5項目)



(4) サークルに加入した理由

サークルに加入した理由は「子どもを集団に慣れさせたかったから」が1位

サークルに加入した理由をたずねた。

全体では、「子どもを集団に慣れさせたかったから(70.6%)」を挙げた割合がとくに高く、次いで、「遊び場を探したかったから(48.6%)」、「話し相手が欲しかったから(46.7%)」、「子育て情報を入手したかったから(44.8%)」が4割台で続いている。1位、2位のような子どものための理由だけでなく、自分の「話し相手が欲しかった」という理由が半数近くから挙げられている。

上位をみると、サークルでの活動に直接関わる理由を挙げている人が多く、「友だちに誘われたから(38.9%)」、「時間があったから(30.9%)」、「なんとなく興味があったから(30.6%)」という理由は比較的下位になっている。

また、子育てのストレスなどに関する理由では、「ストレスを発散したかったから(30.6%)」が3割から挙げられており、「自分の子どもと常に一緒に精神的に煮詰まっていたから(13.7%)」も1割を超えている(図表2-3-5)。

図表2-3-5 サークルに加入した理由(複数回答/全体)

グ ラ フ

サークルに加入した理由を居住地別にみると、町・村部では、「子どもを集団に慣れさせたかったから（74.0%）」、「話し相手が欲しかったから（52.3%）」、「ストレスを発散したかったから（36.6%）」が全体と比べてとくに高く、コミュニケーションを求めている加入が比較的多いことがわかる。

年代別に上位8位までの理由をみると、40代以上では「友だちに誘われたから（43.8%）」、「なんとなく興味があったから（21.9%）」が全体と比べて高い。それ以外の理由については、若い年代ほど割合が高く、サークル加入の理由が多様になっている（図表2-3-6）

図表2-3-6 サークルに加入した理由（複数回答/全体、居住地別、年代別）

グ ラ フ

(5) メンバーとの情報交換の手段

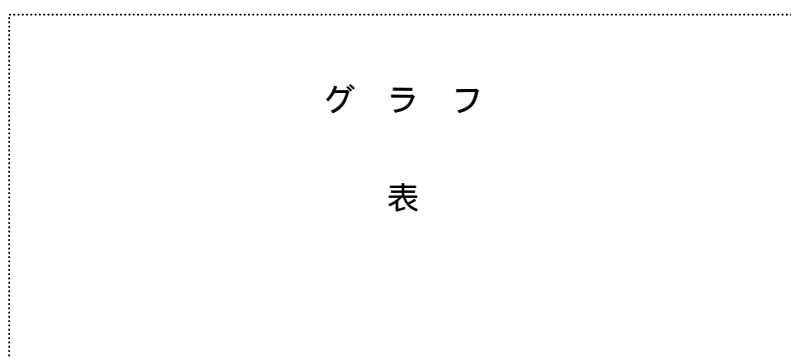
サークルのメンバーとは、ほとんどが「直接会って」情報交換をしている

サークルのメンバーとどのような方法で情報交換をしているかたずねた。

メンバーとの情報交換の手段は、ほとんどが「直接会って(96.5%)」を挙げている。次いで、「電話(60.1%)」が多い。3位の「手紙またはファックス(14.2%)」、4位の「Eメール・メーリングリスト・掲示板(9.5%)」は1割前後が利用している(図表2-3-7)。

年代別にみると、いずれの年代でも「直接会って」という方法を挙げた割合が高い。直接会う以外の方法では、20代以下は「携帯電話やPHS」、30代前半は「手紙またはファックス」と「Eメール・メーリングリスト・掲示板」を比較的活用している。40代以上は「電話(65.0%)」が比較的多いが、その他の通信機器は比較的少なく、若い世代は新しいメディアをサークル活動に活用している様子が見える(図表2-3-8)。

図表2-3-7 メンバーとの情報交換の手段(複数回答/全体)



図表2-3-8 メンバーとの情報交換の手段(複数回答/全体、年代別)

(6) サークルでの活動内容

サークルでの主な活動内容は「親同士のおしゃべり」と「子どものあそびづくり」

サークルでどのような活動をしているかたずねた。

全体をみると、「親同士のおしゃべり(87.4%)」、「子どものあそびづくり(73.0%)」の2つが主な活動として挙げられている。なかでも「親同士のおしゃべり」はとくに多く、9割近くから挙げられている。3位の「子育てに関する悩み相談(48.2%)」は、約半数が行っている(図表2-3-9)。

図表2-3-9 サークルでの活動内容(複数回答/全体)

グ ラ フ

居住地別にみると、町・村部では「子育てに関する悩み相談(54.7%)」や「子どもを除く家族に関する悩み相談(13.4%)」といった“悩み相談”の割合が全体と比べて高く、一方、「他の育児サークルとの交流(4.9%)」は全体より低い。

未子年齢別にみると、未子年齢6歳以上では「親同士のおしゃべり」や「子どものあそびづくり」の割合が全体より低いが、「情報誌の編集(19.3%)」、「行政への働きかけ(19.3%)」、「子どもを除く家族に関する悩み相談(18.3%)」が2割近くにのぼり、活動の種類が多くなっている(図表2-3-10)。

図表 2 - 3 - 10 サークルでの活動内容（複数回答 / 全体、居住地別、未子年齢別）

グ ラ フ

(7) サークルでの役割分担

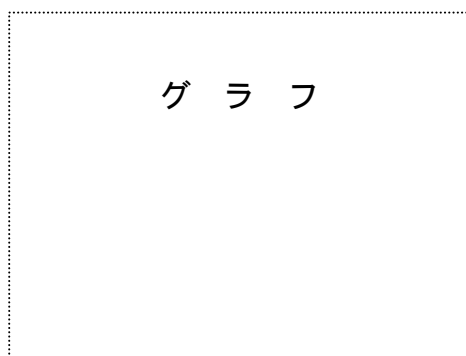
半数近くがサークルで何らかの仕事や係りを分担している

サークルで分担している仕事または係りをたずねた。

仕事または係りの有無

分担している仕事または係りが「ある」のは45.8%、「ない」のは53.8%となっている。
半数近くがサークルで何らかの仕事や係りを分担している(図表2-3-11)。

図表2-3-11 仕事または係りの有無(全体)



仕事または係りの種類

仕事または係りの種類を自由記入でたずねた。主な回答は以下の通りである。

<運営系>	・ 代表	・ 班長	・ 会計	・ 会計監査	・ 予算作成	・ 集金
	・ 相談役	・ スケジュール管理	・ 入退会受付	・ 会員への連絡		
<企画系>	・ 企画運営	・ 子どもの遊びづくり				
<事業系>	・ 準備	・ 道具など工作の制作	・ 司会進行	・ 買出し		
	・ 遊びの指導	・ 音楽係	・ 世話係	・ 絵本係		
	・ 誕生日(カード・プレゼント作成)		・ おやつ、お茶			
<管理系>	・ 会場、保育室の予約	・ 備品管理				
<記録系>	・ 記録	・ 出席	・ 名簿作成、管理			
<広報系>	・ 情報誌の編集、作成、発行	・ 子育て情報提供	・ メンバー募集			
<渉外系>	・ 行政との打ち合わせ	・ 行政への報告	・ 講師の交渉			
<交流系>	・ 外部への働きかけ	・ 他のサークルとの研修会出席				

(8) サークルの加入数

「 1 サークル 」 だけ加入している人が多数派。約 4 分の 1 は複数のサークルに加入している

加入しているサークル数をたずねた。

加入サークル数は、「 1 サークル (75.3%) 」が多く、4 分の 3 を占めている。「 2 サークル (19.0%) 」に加入しているのは 2 割近くとなっている。「 3 サークル以上 (5.1%) 」とあわせると、約 4 分の 1 は複数のサークルに加入している。加入サークル数の平均は 1.3 サークルである (図表 2 - 3 - 12)。

図表 2 - 3 - 12 加入しているサークル数 (全体)

グ ラ フ

(9) サークルをやめた経験

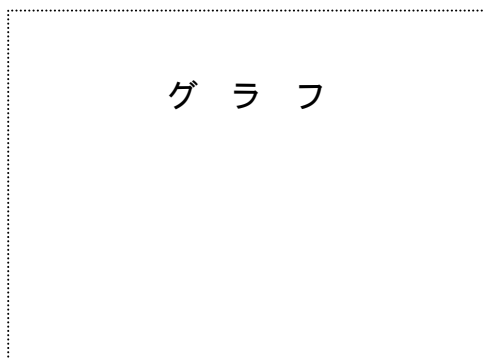
サークルをやめた経験が「ある」のは1割台

サークルをやめた経験

サークルをやめた経験をたずねた。

サークルをやめた経験が「ある」のは14.8%、「ない」のは84.6%で、大半はやめた経験がない(図表2-3-13)。

図表2-3-13 サークルをやめた経験(全体)



サークルをやめた理由

サークルをやめた理由(自由回答)の内容をみると、子どもの年齢、活動条件が合わないこと、人間関係のことなどが多く挙げられている。主な回答を以下に抜粋する。

- ・ 入園前の乳幼児対象のサークルだったので、子どもが幼稚園に入り卒業した
- ・ 子どもが習いごとを始め、その時間がサークルの日時と重なったから
- ・ 場所が遠かったから
- ・ 夫の転勤
- ・ 活動のマンネリ化
- ・ 希望する時間に活動場所がなかった
- ・ 子ども自身が他の子どもの中に入って遊ぶことを嫌がったため
- ・ メンバーが多すぎた
- ・ 友達になれそうな人が見つけれなかった。グループができていると入りづらい
- ・ 人間関係が疎ましくなった
- ・ 自分に合わなく、行きづらくなった
- ・ 自分でサークルをつくったから

4 サークルメンバー・家族に対する意識

(1) 他のメンバーとの接し方について

サークルのメンバーとは、『頼まれたことはできるだけ引き受ける』や『メンバーの意見に合わせることもある』など、協調性をもった接し方をしている

メンバー・リーダーとの接し方について、A～Gまでの7項目にわたりたずねた(グラフは「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせた《該当》の割合が多い順に並べた)。

『F 頼まれたことはできるだけ引き受ける』と『A メンバーの意見にあわせることがある』は《該当》(「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計)がとくに多く、協調性をもった接し方をしていることがうかがえる。次いで、『C 積極的に自分の意見やアイデアを出す』も《該当》が6割を超えており、サークルに積極的に関わっている人も多い。

『D 他の子どものことが気になる』と『E リーダーによく相談をする』は、《該当》と《非該当》(「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」の合計)に二分されている。

一方、『B 服装や話し方を他のメンバーの雰囲気にあわせる』と『G 孤立していると感じることがある』は《該当》が少なく、とくに『G』は該当が1割未満で、大半はメンバー間で円滑な関係にあると考えられる(図表2-4-1)。

図表2-4-1 他のメンバーとの接し方について(全体)

グ ラ フ

(2) サークルでの意見交換について

『子育てのアイデアを交換することが多』く、『メンバーはまとまって』おり、『子育てや家庭の悩みを本音で出し合える』など、サークルでの意見交換はおおむね順調である

サークルでの意見交換やサークルのまとまりなどについて、A～Eの5項目にわたりたずねた。

『B 子育てのアイデアを交換することが多い』、『C メンバーはまとまっている』、『A 子育てや家庭の悩みを本音で出し合える』はいずれも《該当》が8割前後と多く、コミュニケーションやまとまりは順調だと考えていることがわかる。

一方、『D 派閥があると感ずることがある』と『E 運営方針について意見が割れることがある』は《該当》が2割未満で、まとまりがないという評価は少ない(図表2-4-2)。

図表2-4-2 サークルでの意見交換について(全体)

グ ラ フ

(3) サークル加入による自分自身の変化

サークル加入により、『他の子ども積極的に関われるようになった』など、自分自身はプラスの変化があったと感じている

サークル活動を通して回答者自身がどのように変化したか、A～Jの10項目にわたり、たずねた。

サークル加入により『F 他の子ども積極的に関われるようになった』では8割以上が《該当》と回答している。さらに、『D 子どものことがよく理解できるようになった』、『G メンバーの気持ちを受けとめられるようになった』、『B 興味・関心が広がった』、『C 人とのつきあい方がうまくなった』、『E 子どもの育て方に自信がついた』は、《該当》が約6～8割にのぼっている。

一方、『I 子どもにかまう時間が減った』、『H 親同士の間関係がうっとうしくなった』、『J 育児の悩みが増えた』というサークル加入によるマイナスの変化は《該当》が1割前後しかみられない。以上の結果をみると、家庭内、家庭外のいずれにおいてもプラスの変化があったと感じている割合が高い(図表2-4-3)。

図表2-4-3 サークル加入による自分自身の変化(全体)

グ ラ フ

(4) サークル加入による配偶者や家族関係の変化

サークル加入により『配偶者は活動参加に理解を示すようになった』など、配偶者や家族との関係に好影響があったと評価している

サークル活動を通して配偶者や家族との関係がどのように変化したか、A～Dの4項目にわたりたずねた。

配偶者との関係を見ると、『C 配偶者は活動参加に理解を示すようになった』は《該当》が約8割にのぼり、『A 配偶者と子育てについて話し合う機会が増えた』も《該当》が5割台で、配偶者との関係について、活動に直接関係する面では好影響があったと評価している。また、子育て以外の面への波及効果については、『B 配偶者と子育て以外の話題をするようになった』は半数近く(47.3%)が《該当》と回答している。

『D 家族で過ごす時間が減った』は《該当》が3.6%であり、サークル加入による家族関係へのマイナスの影響は極めて少ない(図表2-4-4)。

図表2-4-4 サークル加入による配偶者や家族関係の変化(全体)

グ ラ フ

(5) サークル加入による子どもの変化

サークルをとおして、『他の子ともうまく遊べるようになった』、『興味・関心が広がった』など、子どもの成長を評価している

サークル活動を通して、A～Hの8項目について子どもがどのように変化したか、たずねた。

『C 他の子ともうまく遊べるようになった』と『B 自分の興味・関心が広がった』は、8割前後が《該当》と回答しており、サークル加入による子どもの成長について評価している割合が高い。次いで『F 他の子どもに積極的に声がけできるようになった』、『E 集団の中で自信を持って行動できるようになった』、『D 周囲の状況に気を配るようになった』はいずれも《該当》が半数を超えている。子どもの変化についてはプラスの評価をする人が多くなっている(図表2-4-5)。

図表2-4-5 サークル加入による子どもの変化(全体)

グ ラ フ

(6) サークル活動を成立させる条件

サークル活動を成り立たせるためには、『活動する場所』が必要

サークル活動を成り立たせるために、どのような条件が必要か、A～Nの14項目にわたり、たずねた。

『K 活動する場所』が「絶対に必要」と回答したのは7割を超えて(72.7%)おり、「あると望ましい(25.1%)」とあわせると、『活動する場所』はほとんどの人が必要条件だと考えている。『F 時間的余裕』、『L 精神的ゆとり』、『E 家族の理解』といったメンバー自身の活動条件と、『D 行政支援』は、約3分の1が「絶対に必要」と挙げており、「あると望ましい」とあわせると約9割が必要としている重要な条件である。次いで、『B 体力』、『G 会長のリーダーシップ』も3割が「絶対に必要」としている。

さらに、『H メンバーの足並みを揃えること』、『C 活動資金』、『I 社会から認めてもらうこと』も「絶対に必要」と「あると望ましい」の合計が7～8割にのぼっており、サークル活動を成り立たせるためには、さまざまな条件が必要とされている(図表2-4-6)。

図表2-4-6 サークル活動を成立させる条件(全体)

グ ラ フ

5 活動意向

(1) 今後の活動意向

半数近くが『子どもが成長しても参加したい』という活動継続意向や『他のサークルとネットワークしたい』という交流意向をもっている

今後、サークルとどのように関わっていきたいか、A～Dの4項目についてたずねた。

『B 子どもが成長しても参加したい』と『D 他のサークルとネットワークしたい』は《該当》と《非該当》に二分されており、半数近くが活動継続や交流の意向を持っている。『A 自分で別のサークルをつくりたい』という積極的な意向は《該当》が少ない。また、『C 今のサークルを脱退したい』は《該当》がとくに少ない(図表2-5-1)。

『B』と『D』の2項目について末子年齢別に分析した。『B 子どもが成長しても参加したい』をみると、末子年齢6歳以上では《該当》が7割以上(72.4%)である。『D 他のサークルとネットワークしたい』をみると、末子年齢6歳以上では《該当》が過半数(54.1%)で全体より高い。末子年齢6歳以上は活動継続意向と交流意向が比較的高いことがわかる(図表2-5-2)。

図表2-5-1 今後の活動意向(全体)

グ ラ フ

図表2-5-2 今後の活動意向(末子年齢別)

グ ラ フ

(2) 設立したいサークルのタイプ

つくってみたいのは、「家族参加のサークル」や「共通の趣味を活かしたサークル」、「母親主体のサークル」

(1) 今後の活動意向で「自分でサークルをつくってみたい」と回答した人に、つくりたいサークルのタイプをたずねた。

「家族参加のサークル(46.7%)」、「共通する趣味を活かしたサークル(46.2%)」、「母親主体のサークル(42.9%)」の割合が高く、いずれも4割を超えている。次いで、「子ども好きが集まったサークル(34.8%)」、「幼稚園・保育所・学校が同じサークル(32.1%)」が3割台となっている。「NPOのサークル(12.0%)」、「パソコンを活用するサークル(11.4%)」、「起業化するサークル(6.5%)」などは比較的少ないが、1割以上であり、様々なタイプのサークルを考えていることがわかる(図表2-5-3)。

図表2-5-3 設立したいサークルのタイプ(複数回答/《サークルをつくりたい人》:全体)

グ ラ フ

この問は「その他」の回答が多いため、その内容（自由記入）をみると、対象者、活動内容など具体的に挙げられている。主な回答は次の通りである。

<特定の仲間で集まるサークル>

- ・ 転勤族のためのサークル（できれば全国規模で）
- ・ 一人っ子の親と子どものサークル
- ・ 双子（双子以上）の子を持つ親の育児サークル
- ・ 障害者と健常者とが交流して共に生き、生かされるサークル
- ・ 年少から幼稚園へ行く子が多く、年中から入る子があまりいないので、そうした同年齢の子が集まるサークル

<特定の活動をするサークル>

- ・ 英語サークル
- ・ 音楽、美術の鑑賞
- ・ 読み聞かせ
- ・ おもちゃを使わないサークル

<保育をするサークル>

- ・ 預け合いの自主保育の会、自然の中で子育てする会
- ・ 保育所的要素のあるもの（一時預かりなど）
- ・ 青空保育園のようなサークル

<子育て中の母親をサポートするサークル>

- ・ 引きこもりなど、現在サークル活動に関っていない孤立している人が集まるサークル
- ・ DV かけこみ寺のようなサークル。そういうお母さんを助けてあげたい
- ・ 子育てをしている母親をサポートしていくサークル

<地域や社会に働きかけるサークル>

- ・ 地域との交流が密にできるサークル
- ・ 親子で出来るボランティアのサークル
- ・ 自分たちの子どものためにも環境などを良くしていく必要があると思う。例えば、廃油石鹸作り、マイバックの普及への働きかけ、老人との交流など社会貢献できるようなサークル

<楽しく過ごせるサークル>

- ・ 誰かが犠牲になっているのではなく、皆が親子でのんびりくつろげる空間がほしい
- ・ 参加している親子が楽しく過ごせるサークル（何でも話し合えるなど）
- ・ わくわくするサークル
- ・ 親子が楽しい時間を共有できるようなサークル
- ・ 子どもとの関わり合ういろいろな人たちが楽しく過ごせる時間を提供できるようなサークル。子どもも楽しく、大人も安らげる何かを提供したい
- ・ 代表者に負担のないもの。兄弟がいても行きやすいサークル
- ・ 親同士、子ども同士の信頼関係を作りあげ、その後、お互い大変な時、子どもを預かってもらえるような仲になりたい

<子どもの成長に応じたサークル>

- ・ 未就園児 幼稚園児 小学生 中学生等の成長の中で、母親や地域の人と共に遊びを見つけ、また、つくりあげていけるサークルをつくりたいです。未就園児のみ対象ではなく、幼稚園に入ったら未就園児サークルの卒業生が入っている園児のサークル、幼稚園を卒業したら小学生主体のサークルと、エスカレーター式のサークルがあってもよいと思います
- ・ 年齢を揃え、その年齢に応じた成長を促すように活動すること
- ・ 子どもの成長に応じたこと（生活面、運動面、知育）を話し合い、色々と経験させ、身につくような活動をしたい

6 日ごろの子育ての困りごと

(1) 子育てのなかで感じる問題点

6割以上が『子育てから解放されたい』や『マスコミは子育てする母親を理解していない』と感じている

日々の子育てのなかでどのような問題を感じているかを把握するため、A～Fの6項目について、あてはまるものをたずねた。

『D 子育てから解放されたい』と『A マスコミは子育てする母親を理解していない』で《該当》が6割を超えており、子育てにストレスを感じていることがうかがえる。『E 就職したい』も過半数(51.6%)が《該当》と答えている。

『C 子どもの扱い方がわからなくなる』、『F 親としてではなく、男・女として見られたい』、『B 子どもが何を考えているのかわからなくなる』については、《該当》の方が少数派ではあるが、いずれも3～4割台が《該当》と回答しており、子育てについての不安や不満を感じている人が少なくないことがわかる(図表2-6-1)。

図表2-6-1 子育てのなかで感じる問題点(全体)

グ ラ フ

(2) 育児の困りごとに対処するための情報源

育児に困ったとき、『サークルのメンバーの話』が主な情報源となっている

育児に困ったときにだれ(どこ)からの情報を参照するか、A～Hの8項目についてたずねた。

『D サークルのメンバーの話』は、「よく参照する(30.0%)」と「ときどき参照する(63.0%)」をあわせると9割以上が《参照する》と挙げており、主な情報源となっている。また、『B 配偶者』と『A 自分や配偶者の親』といった家族の情報を《参照する》という割合も高い。次いで、『E 医療関係者のコメント』は7割が、『C 育児書や育児雑誌』は6割が《参照する》と挙げており、いろいろな情報源をそのときどきで参考にしていることがわかる。

なお、『F パソコンのホームページ』を《参照する》と挙げた人は1割程度にとどまっている(図表2-6-2)。

図表2-6-2 育児の困りごとに対処するための情報源(全体)

グ ラ フ

7 子育てサークルに関する意見（自由回答）

子育てサークルに関して、苦労していることやサークルに対する要望・意見を、自由記述の形式でたずねた。それらの意見を分類し、以下に代表的な意見を抜粋する。

*意見の末尾には、（居住地、年代、職業）を掲載した。

（1）サークルの活動を続けていくうえで苦労していること

人の確保（メンバー・リーダー・支援者など）

<参加者の集まりが悪い>

- ・ 過疎地のため、天候によって集まる人数が極端に変化する。このためにできる活動が制限される。（山形県、20代後半、専業主婦）
- ・ メンバーの集まりが悪い。（滋賀県、30代前半、専業主婦）

<メンバーが集まらない・増えない>

- ・ メンバーをもっと増やしたい。サークルに入りたくても友人がいないと入りにくいというのが入った人たちの意見。（山形県、30代前半、専業主婦）
- ・ 女の子ばかりが多くて男の子が少ないこと（山形県、30代前半、専業主婦）
- ・ 子どもの年齢を制限しているため、翌年のサークルに残る人がほとんどいない。どうやってメンバーを補充していくか苦労している。（山形県、30代後半、専業主婦）

<リーダーや役職を担う人材がいない>

- ・ リーダーはやってみたいが、欠席しづらいし、案を考えたり進行したりと、リーダーだけ負担が大きすぎると思う。（滋賀県、30代前半、専業主婦）
- ・ 「今日は何をしてくれるかな」というような“お客様”メンバーが多いことに負担を感じている。（香川県、30代後半、専業主婦）
- ・ 一年ごとにメンバーが変わるので軌道に乗るまでが大変。（大阪府、30代後半、専業主婦）

係りの負担

<係りをやる人が固定化する>

- ・ 役割を分担すると、出来ない人や苦しい人もいるので、自発的にやってくれる人で運営している。そうするといつも同じ人になる。（東京都、30代後半、専業主婦）

<係りの負担が大きい>

- ・ サークル内でできることはよいのですが、家で作ってくるもの（クリスマス会など大きなイベントの時）は、負担が多すぎて大変困りました。（広島県、30代前半、専業主婦）
- ・ 人数が少なく、いろいろな係の割り当てがあるので、一人につき4～5つの係をしなければいけない。みんなの負担がかなりある。（香川県、30代前半、専業主婦）
- ・ 常に子どもとともに活動するので、ミーティングもあまり進まず、準備がとて大変。（東京都、30代後半、自営・家族従業）
- ・ スタッフであるがゆえにあまり出たくはない市の会合などにも行かなければならないので、

希望者だけにしてもらいたい。出なければならぬ場合はせめて託児ができるような体制を取ってもらいたい。(山形県、30代後半、専業主婦)

<係りの時、自分の子どもにかまえない>

- ・ 司会など担当した時は、自分の子どもと十分に楽しめない。(大阪府、40代以上、専業主婦)

サークルの企画・事業運営

<企画のアイデアがあまり出せない>

- ・ 年々活動内容が簡略化している。代がわりするにつれて、メンバーの企画力、行動力が乏しくなっているようだ。(山形県、30代前半、専業主婦)
- ・ 企画を立てる段階で意見を出し合うが、良い企画が見つけれない場合がある。(山形県、30代後半、専業主婦)

<子どもの個性・年齢に合わせた活動が要求される>

- ・ 赤ちゃんから幼稚園入園前の子どもまでいるので活動内容を決めるのがむずかしい。(香川県、20代後半、専業主婦)
- ・ その時々で子どもの興味の方向はいろいろなので全く興味を示してくれない時もある。その計画を立てるのが大変であり、おもしろいとも思う。(埼玉県、30代後半、専業主婦)

<企画をサポートしてほしい>

- ・ 中身の充実のため、サークルの親子の他にボランティア(経験のある)の方が入ってくると助かる。(大阪府、30代前半、専業主婦)
- ・ 自分たちだけで毎回の活動内容を考えること。もっと児童館の職員の方たちなどのアイデアなどがほしい。(東京都、30代前半、専業主婦)

<子どものケガや病気が心配>

- ・ 事故による子どものケガが心配。(香川県、30代後半、専業主婦)
- ・ 病気の感染(インフルエンザ等)が心配。(埼玉県、20代後半、専業主婦)

<日程調整がむずかしい>

- ・ メンバーの各々が忙しく、スケジュール調整がむずかしい。(広島県、20代後半、専業主婦)
- ・ 子どもの体調などで全員参加ができない時の日程調整。(滋賀県、20代後半、専業主婦)

サークルの組織運営

<計画的なサークル運営が必要>

- ・ 初めての子育てをするお母さんばかりが集まると、何をどうしたらいいのかわからなくなり、活動がうまく進まなくなることがある。(広島県、30代前半、専業主婦)
- ・ 時間的に余裕がなく、リーダーが前週に計画を立てて実施するという現状。もっと計画的に実施したら有意義なサークルになると思います。(山形県、40代以上、専業主婦)

<メンバーがやる気を出すのがむずかしい>

- ・ 役員をしているので、お母さん方のやる気を出すにはどうしたらいいのか考えます。体操をみんなでする時も、ほとんどのお母さんは座ったまま見ており、私たちだけが一生懸命やっています。(広島県、30代前半、その他の職業)

メンバー間・子どもとのコミュニケーション

<メンバー同士の意見が聞きたい>

- ・ 40 人いる親の名前が覚えられないこと。みなさんに声かけができず、意見が聞き取れないこと。(山形県、40 代以上、専業主婦)
- ・ 月一度のサークルで顔を合わせるだけで話す機会もないメンバーが約半数もいるので、もっとみんなの子育てについての意見を聞きたい。(香川県、20 代後半、専業主婦)

<うまくとけ込めない・とけこみやすい雰囲気大切>

- ・ サークル内で親同士が仲の良い人だけでかたまらないこと。(大阪府、30 代後半、専業主婦)
- ・ 子の年齢は同じでも親の年齢が多様で、対応がむずかしい。(大阪府、30 代前半、専業主婦)
- ・ 新しい人が入ってきてもなかなかうまくとけ込めていないので、新しい人がうまく入っていけるようなムードを作ること。(広島県、30 代後半、専業主婦)

<人間関係を円滑にすすめることが大切>

- ・ YES、NO をはっきり言える人間関係や、距離感をうまく保つことが大事。(東京都、30 代前半、専業主婦)

<サークルでの子どもの扱い方>

- ・ もともと子どもの扱いが上手ではないので、サークルで他の子どもにどう接していいかわからない時がある。(大阪府、30 代後半、専業主婦)
- ・ 子どもが他の子を叩いたり押したりする時期があり悩んだ。(大阪府、30 代前半、専業主婦)
- ・ サークル全体のことに気を配っていると、自分の子どもにかまえず、何のためにサークルに参加しているのかと思うことがある。でも、他の人が、子どもを見てくれたり、手助けしてくれたりという長所もある。(石川県、20 代後半、専業主婦)

活動時間が短い・確保できない

- ・ 活動時間が限られているので、やりたいことはたくさんあっても全部はできない。(東京都、30 代後半、専業主婦)
- ・ 子どもの生活リズムが個々に違うため集合時間になかなか全員が集まれないこと。(東京都、30 代前半、専業主婦)

活動資金の不足

<会費の負担が大変>

- ・ 会費が年 2 ~ 4 千円のサークルに 3 つ入っているので大変。(山形県、30 代前半、専業主婦)

<活動資金が足りない・資金作りがむずかしい>

- ・ 物作りは、基本的にはリサイクルを中心としているが、その中でも必要最小限の道具は購入するので、資金作りが困難。現在はフリーマーケットに出店して資金を作っているが、何か補助金の制度があったらよいと思う。(群馬県、20 代後半、自営・家族従業)
- ・ なるべく協力しながら皆でやっていますが、リーダーは、時間的、金銭的にも負担はあるのではと思います。NPO のことは知りませんでしたが、活動資金の援助があればもっと活動内容など、広がると思います。(埼玉県、20 代後半、専業主婦)

活動場所の不足・不便

< 場所の確保・予約がたいへん >

- ・ 活動する場所を確保すること。主に公民館での活動を中心としていますが、場所の予約に9時からの受付に対して7時台から窓口に子連れで並ばなければ部屋が取れない。特に支援もなく大変です。(山形県、30代前半、専業主婦)

< 自由に使える場所がない >

- ・ 飲食できる場所は絶対に必要。(石川県、30代後半、専業主婦)
- ・ 子ども向けの部屋がなく、和室は障子を破ったり、会議室では滑って転んだりして困るので、市に育児サークル活動用のスペースが欲しいと思います。(山形県、40代以上、専業主婦)
- ・ 広場がないこと。(埼玉県、20代後半、専業主婦)

< 活動の拠点となる場所がない・不便 >

- ・ 企画について話し合うときは、そのグループのメンバーの一人のお宅に大勢で押しかけることになってしまいます。もっと気軽に無料で利用できるスペースがあると良いと思います。(大阪府、30代前半、専業主婦)
- ・ 文化センターを拠点として活動しているが、準備した備品を置いておく所(保管場所)がなく、いつも近隣の人たちの家に保管してもらっている。(東京都、30代後半、専業主婦)

交通手段・移動の不便さ

- ・ 活動場所への交通アクセス(バス・電車)などがなく、寒い冬や雨の日は車がないと行けないので不便。(香川県、20代後半、専業主婦)
- ・ チャイルドシート義務化で車に乗り合わせて遠出できない。(広島県、30代前半、専業主婦)

家族の理解が得られない

- ・ 同居しているので出かけることに気兼ねしてしまう(遊びに行くことが理由なので)。(埼玉県、30代前半、専業主婦)
- ・ 夫に理解されていない。(石川県、20代後半、サービス業)

家庭や仕事との両立がむずかしい

- ・ パートで働きはじめ、あまり行けなくなりました。活動時間のやりくりは大変ですが、何かをみんなでつくること自体がストレス解消になっているので、やめられません。(山形県、30代後半、サービス業)
- ・ 仕事をしているので、平日はなかなか参加できない。いつも参加している人同士が仲良くなるようなので、仕事をしているとむずかしいと思う。(石川県、20代後半、その他の職業)
- ・ 夫の実家の農業手伝いなど時間的に余裕がなく、毎回のサークル活動に出席できない。(石川県、30代前半、専業主婦)
- ・ 他サークルとの交流などで午前中家を空けることが多く、家事が進まない。(大阪府、30代前半、専業主婦)

(2) サークルに対する意見・要望**特色あるサークル・自分にあったサークルを選びたい****<自分に合ったサークルを選べるとよい>**

- ・一つの地域の中に入れるサークルが一つというのではなく、そのサークルの特徴によって自分がサークルを選んだりできればいいな、と思いました。(広島県、30代前半、専業主婦)
- ・子どもは遊びたい時に遊ぶ場所と相手がいるのが一番なので、できれば自分の住む地区毎にサークルがあれば理想だと思います。(山形県、30代後半、専業主婦)

<小規模なサークルがよい>

- ・サークルを始めた時から同じメンバーでこじんまりとやっていて心地良い。(山形県、30代前半、専業主婦)
- ・少ない人数なりの良い所があり、それぞれが本音で話しができます。子育てばかりではなく、日常生活についてももうなづける話がたくさんあり、私にとってサークルはとても居心地の良い場所です。(埼玉県、30代後半、専業主婦)

<子どもの成長段階や親の年代・職業が同じサークルがよい>

- ・今後、子どもが入園、入学と育っていった時に、親として、人として、自由に語れたり、考えたりできるサークルがあるとよい。現サークルの延長で、子どもの成長にあわせて活動の内容を見直ししていきたい。(滋賀県、30代後半、専業主婦)
- ・母親が高齢の育児サークルがあればよいと思う。(埼玉県、30代後半、専業主婦)
- ・若いママ限定のサークルなどあれば、年も近いのもっと親しくなれると思う。(東京都、20代後半、専業主婦)
- ・年子だけの育児サークルなどがあれば入りたい。(広島県、20代後半、専業主婦)
- ・育児サークルは専業主婦がやっているイメージがあるが、ワーキングマザーこそ同じ状況の人と交流する必要があると思う。仲間を探す時間のない人には、行政が働きかけてサークル作りを支援した方がよいと思う。(神奈川県、30代前半、専業主婦)

<悩みを共有できるサークルがよい>

- ・不妊治療をしてやっと1人産めたので、2人目のことがとてもプレッシャーになっている。同じような立場の人のサークルがあると精神的に楽になると思う。(埼玉県、30代前半、専業主婦)
- ・自分と同じような悩みを体験している母親がいるなら、インターネットを利用してメール交換などをすれば、心の支えになると思います。(三重県、30代後半、専業主婦)

メンバーの受け入れ、広報の充実**<新しいメンバーの受け入れをすすめてほしい>**

- ・公園などで友達になるよりはずっと楽に友達になれるような気がする。新入会不可の所が多いけど、ぜひどんどん新入会を歓迎してほしい。(埼玉県、20代後半、専業主婦)
- ・3月になれば園や保育所に行く子もあり、新しいお友だちがサークルに入ってきます。次々と変わりながら新しい分野を広げていってほしいです。(広島県、20代後半、専業主婦)

<男性の参加が増やしたい>

- ・ たまには父親も一緒に参加できるイベントをしてほしい。(群馬県、30代前半、専業主婦)
- ・ 育児サークルが女性のものでなく男性も参加していければ良いと思う。それには企業や行政の力で、労働時間の短縮を進めてほしい。仕事が終わって帰ってきてくたくたの状態では育児サークルどころか育児すらできない。(埼玉県、30代前半、専業主婦)

広報の充実

<サークル情報をいろいろなメディアで提供してほしい>

- ・ もっと、サークル活動やこんな育児サークルがあるということを小さい子どもを持つ人たちに宣伝してくれる場所があると良いと思います。育児サークルに参加したいけどよくわからない...と思っている方は結構多いのではないのでしょうか。(広島県、20代後半、専業主婦)
- ・ 保健センターの集いで、サークル紹介をさせてもらえたら良いと思います。(埼玉県、30代前半、専業主婦)
- ・ 市の広報などで紹介してもらいたい。(埼玉県、30代前半、専業主婦)
- ・ ミニコミ誌などで地域のサークルが紹介されているだけでもサークル募集が楽になると思うし、自分の地域の子育てサークル情報をほしがっている親にとっては、ミニコミ誌・ホームページなど情報を得るものがあるとよいと思います。(滋賀県、30代前半、専業主婦)
- ・ 育児雑誌をよく読んでいるが、育児サークルの特集やテーマを取り上げていることはほとんどない。雑誌でテーマとして取り扱ってほしい。(大阪府、30代前半、専業主婦)

<地域や活動内容など詳しい情報があるとよい>

- ・ 市の検診の時に「子育て便利帳」をもらい、その中でサークルの存在を知ったが、どういう内容かわからず、勇気を持ってサークルに入るまで1年かかった。見学しやすくするとか、具体的な活動状況をお知らせしてもらえれば入りやすいと思う。(石川県、30代後半、専業主婦)
- ・ 転勤などで転居することもあるので、他の地域にサークルがあるか、どこでどんな活動をしているかなど、誰でもすぐにわかるようにしてほしい。(山形県、20代後半、専業主婦)
- ・ 子どもの成長と同時に次のサークルへの移行してうまくいった例などを紹介してほしい。(山形県、20代後半、専業主婦)

情報提供の充実

<サークル運営などのノウハウを共有したい>

- ・ どういう風にサークルを運営するかのノウハウを教えてほしい。サークルのまとめ方などのアドバイスがほしい。(大阪府、30代後半、専業主婦)
- ・ 活動の上で行き詰ったとき、方針、アイデアなど、指導してくれるパンフレットなどがあるとよいのではないのでしょうか。(東京都、30代前半、専業主婦)

<子どもの遊び・プログラムの情報がほしい>

- ・ 絵本の読み聞かせ、未就園児向け工作、手遊びなど、サークル活動に欠かせない技術や情報が入りにくく、マンネリ化している。(広島県、30代後半、専業主婦)

- ・ 育児サークル用の工作、歌、遊びなどの本があったらいいと思う。(広島県、30代前半、専業主婦)
- ・ 遊び方についてのアドバイスを受けられるよう、ホームページを開設していただけると参考にできるのですが。(香川県、20代後半、自営・家族従業)

意見交換・情報交換の活発化

- ・ ここでもらったアイデアを育児サークルの場だけでなく、家庭の場でも自分の子どもに対して活かしていけたらと思います。(広島県、20代後半、専業主婦)
- ・ 幼稚園選びのときもサークルのいろいろな人に園の様子を聞くことができたし、どこの病院が良いとか、育児のちょっとしたヒントを教えてもらい、とても助かっています。(山形県、20代後半、専業主婦)
- ・ サークルで全く情報交換がありません。育児に関してメンバー一人でも知っている情報はみんなに提供してほしい。(大阪府、30代後半、専業主婦)

他のサークルとの交流・ネットワーク

<他のサークルとのネットワークがあるとよい>

- ・ 地域ごとで活動しているサークルが集合して、クリスマス会など大きなイベント等の時に大きな会を開いてみるのも楽しいと思う。(石川県、30代後半、専業主婦)
- ・ 楽しくサークル活動を行っていくための参考になる情報が全国的に聞けたらいいなと思います。(山形県、30代後半、専業主婦)
- ・ 転勤すると、その土地のことを知る術がないことがある。そのためにも全国的に横のつながりがあるサークルがあるとよいのではないだろうか。(山形県、30代後半、専業主婦)

<地域との交流を増やしたい>

- ・ 私の所属するサークルでは、年1～2回、地域の高校生または老人会との交流がありますが、もっと回数を増やして話せるといいなと思う。(広島県、30代前半、専業主婦)
- ・ 地域密着型のサークルがほしい。テレビゲームばかりで遊ぶ子が多いので、なるべく人間同士の中でいろんなことを経験させたい。(滋賀県、30代後半、専業主婦)

<幼稚園・保育園との連携を進めてほしい>

- ・ サークルとして、保育園や幼稚園の行事(運動会、レクリエーション大会)への参加があるとよい。(山形県、20代後半、専業主婦)
- ・ 園庭開放は子どもが幼稚園に入園する前に、幼稚園という場の雰囲気慣れ、入園することを楽しみにしてくれる良い機会だと思います。また、親が幼稚園を選ぶ際、大変参考になっていたりもします。(大阪府、30代前半、専業主婦)

地域や周囲に理解してほしい

- ・ 地域の人、子育てをしてない人からの協力があまりない。地元に関わり合いがあれば、場所とりなど融通がきくみたいだ。若い母親がこれから子育てをするには、地域の理解がもっと必要。(広島県、30代前半、専業主婦)

-
- ・ 会場を使っている他のサークル（特に年配者のサークル）などの理解が欲しい。うるさい子どもたちを連れた暇なお母さん達が集まっているという偏見を感じることがあります。（山形県、30代前半、その他の職業）

行政支援の充実

< 行政支援のあり方・受け方 >

- ・ 支援してもらうためにサークルの独自性や主体性がなくなり、行動範囲や自由な活動の枠が狭められることがあるので、行政というよりは、個人やボランティアなどで活用できる支援の情報・手段を教えてほしい。（石川県、30代前半、専業主婦）
- ・ 市町村で主体としてしているサークルは様々な形で支援があるが、独自でやっているサークルには何の支援もなく不満。（山形県、30代前半、専業主婦）
- ・ もっと行政の方の参加がほしい。直接話を聞いてほしい。（滋賀県、30代前半、専業主婦）

< 出張による育児相談の充実 >

- ・ 子育てにひとりで悩んでいる母親にもっと行政の手助けがあれば良いと思う。「役場や児童相談所に来い」と言うのではなく、行政が子どもや母親のいる所へ出向いてくれれば相談しやすい雰囲気になると思う。（山形県、20代後半、専業主婦）
- ・ 活動はスタッフ任せで負担が大きく、なかなか育児相談も気軽に受けられません。定期的に来てくれる経験豊かなアドバイザーがいればと思います。（東京都、40代以上、専業主婦）

< 専門家の派遣や人材育成などの人的支援の充実 >

- ・ リーダーを養成するセミナーがあればと思います。（埼玉県、30代前半、専業主婦）
- ・ リーダーは保母の経験（保育士の資格者）があり、メンバーにとって助かっている。このような経験者が育児サークルなどで活躍できる制度、仕組みを確立し、子どもが健全に育つ環境づくりを求めます。（滋賀県、30代後半、専業主婦）
- ・ 指導してくれたり、母親として勉強できるような場を皆が求めているが、母親同士のネットワークでは限りがある。もっと専門的な知識を持った人にオブザーバーとして関わってほしい。（大阪府、30代後半、専業主婦）
- ・ 保健婦さんや栄養士さんなどが無料で来てくれると嬉しい。（東京都、30代前半、専業主婦）

< 保母さんの派遣などの託児 >

- ・ 保母さんなどに下の子をみてもらえるとサークルにゆっくり参加できると思う。保母さんを市のほうから派遣してもらえるといいと思います。（広島県、30代前半、専業主婦）
- ・ 親のみで学習したいことがあったときに、地域の施設で子ども達を一時的に託児してもらえたらと思います。（東京都、30代前半、専業主婦）

< 資金援助の充実 >

- ・ 行政からの資金面のバックアップがもっとあってもよい。（山形県、30代前半、専業主婦）

< 場所の提供や場所代などの活動場所の援助の充実 >

- ・ 支援センターを作ってほしい。専門のボランティアがいて、その人を中心にサークルの役員もお手伝いするなど、みんなの負担が少なく、誰でも気軽に来れるような場があるとよいと思います。（香川県、30代前半、専業主婦）

- ・ サークル活動の場所代を行政に支出してほしい。(山形県、30代前半、専業主婦)
- ・ サークル用に場所が整ったところを作ってサークルの日だけ集まるのではなく、いつ行っても自由に遊べるともっとみんなとコミュニケーションが取れると思います。(香川県、30代前半、専業主婦)
- ・ 児童館が町(コミュニティ)のコンビニエンスストアのような場になってほしい。そこでサークル活動が行え、人々が自由に出入りできるとよい。サークルという形もよいがこれからは、場を提供し、出入り自由の遊べる場が必要だと感じる。(東京都、30代後半、専業主婦)
- ・ スポーツセンターや学校の空き教室など利用したい。(大阪府、30代後半、サービス業)
- ・ 交通機関(主に自家用車)がないと、サークル活動に参加できないところがあり、誰でも入会して活動できるわけではないところが残念です。もっと小さな地域ごとに、公民館単位でこういうサークルがあれば人も集まりやすいと思います。(山形県、30代後半、専業主婦)

<設備を充実してほしい>

- ・ 公民館を使用していますが、ストーブガードがなく、毎週サークルの近くの人に持って来てもらっています。公民館にあったらいいなと思います。(山形県、30代後半、専業主婦)
- ・ 赤ちゃんを連れて行く人も多く、ミルク用のお湯やベッドが1つでもあれば、親も安心できるのではないのでしょうか。(香川県、20代後半、専業主婦)

活動回数を増やしてほしい

- ・ 活動は月に2回ですが、回数を1~2回増やしてほしいです。特に冬の間、外に出られず、遊び場所がありません。(山形県、20代前半、会社員)
- ・ 町が週2回場所を提供してくれており、非常に助かっています。しかし、他の地域では隔週だったり、回数が少ないそうです。もっと地域ごとの活動に差がなくなるとよいと思います。(香川県、30代後半、専業主婦)

サークルの活動内容への要望・提案

- ・ 単に遊びだけでなく、ボランティア的な要素(社会とのつながり)もあるとよいと思います。(群馬県、30代後半、専業主婦)
- ・ 活動の中心はリズム体操なのですが、月1回くらいは、リトミックや小児科医の講演、体育専門の先生の指導など専門的な事をやってみたい。実際にはお金がかかるのでむずかしいのですが。(群馬県、30代前半、専業主婦)
- ・ サークルに限らず、子連れで参加できるイベントがもっと増えればよいなと思います。講演会や交流会など、市などのイベントに参加できれば主婦でも社会に参入しているという意識がもっと芽生え、地域などでの交流が深まると思う。(広島県、20代後半、専業主婦)
- ・ 手作りの絵本、紙芝居などをみんなで作ってサークルの場で使いたい。(群馬県、40代以上、専業主婦)
- ・ 動物園に行ったり、遠足、運動会のようなイベントに参加したい。(滋賀県、30代前半、専業主婦)
- ・ 婦人会や父母の会など、先輩のお母さん方の話が聞きたい。(埼玉県、30代前半、専業主婦)

-
- ・ 人形劇や音楽会などのグループを呼びたい。(大阪府、30代前半、専業主婦)
 - ・ せっかくサークルに入っているのだから、もっと医学、福祉、教育など勉強したいと思う。そのような講演会や行事を行政で行ってほしい。(山形県、30代後半、専業主婦)
 - ・ 時には育児相談や座談会を設けてほしいと思う。(香川県、20代後半、専業主婦)
 - ・ 山や川へ行ったり、自然の中で取り組む遊びをしているサークルがあればと思います。(香川県、20代後半、専業主婦)
 - ・ はじめは決まった日時に集まって活動し、慣れてきたら様々な活動(野外活動、パーティーなど)をすると盛り上がる。(大阪府、30代前半、専業主婦)
 - ・ 教育セミナー、心のケアのアドバイス等のセミナー的なことに参加したい。(大阪府、30代後半、専業主婦)

組織運営の提案

- ・ サークルの中に、子どもの年齢、趣味で分かれたさらに小さなサークルがあるとよい。(石川県、30代前半、専業主婦)
- ・ 以前は役員が活動内容を考えていたが、グループ分けをして毎月各グループの担当になる形をとってからみんなの意欲が目に見えて変わった。(石川県、20代後半、専業主婦)
- ・ 経験のある人がもっとリーダーシップをとってサークルを盛り上げてほしい。(香川県、20代後半、専業主婦)

自分にあった参加ができるサークルの必要

<自主的なサークルがよい>

- ・ どのサークルも先生方だけではなく、参加している人の話を聞いてみんなで手作りしていった方がより楽しいのではないのでしょうか。(群馬県、30代前半、専業主婦)
- ・ 児童館主催の活動は、参加者は楽をすることが出来ますが、親同士の関係が希薄になりがちです。自主的なサークルだと、本音で付き合える人達が集まり、他人の子どもを自分の子どもと同様にほめたり叱ったり出来るようになり、現代社会では貴重な経験となります。(東京都、20代後半、専業主婦)

<積極的に参加したい・参加してほしい>

- ・ 皆が協力しなければ絶対に成り立たないと思います。「誰か任せ」では前に進みません。1人1人が積極的に参加してほしいと思います。(山形県、20代後半、専業主婦)
- ・ もう少し自分たちの意見をたくさん出し、よりよいサークルにしていきたい。(広島県、20代後半、専業主婦)
- ・ いろんな年齢層、考えを持った親の中で、リーダーの役割は大きいと思います。一人一人が「リーダーだったらこうしたい」という考えを持っているのが理想。(山形県、30代前半、専業主婦)

<目的型の活動がしたい>

- ・ 月に1度集まって、何となく時間を過ごしているだけのサークルなので、もう少し目的を持ったサークルだと良いと思う。(埼玉県、30代前半、専業主婦)

<自由参加型の活動がしたい>

- ・ 強制力が強くなりすぎると、集団としてはよくまとまってくるかもしれませんが、それがかえってストレスに感じるようになるようでは逆効果だと思います。本来、育児を閉じこもらず、楽しもうというものが目的だと思いますので、自由参加型が望ましいと思います。(大阪府、30代前半、専業主婦)
- ・ 育児サークルは、親がほっとできる場であってほしいので、たくさん行事や製作活動を取り入れるのではなく、自由に話し合える、あまり負担のかからないサークル活動を望んでいます。(山形県、20代後半、専業主婦)

<気軽に参加したい>

- ・ 育児サークルに参加していない兄や姉も学校が休みのときは自由に参加したい。(群馬県、30代前半、専業主婦)
- ・ サークルに入っていてなおかつ疎外感に苦しむ母親たちがまわりに多いことにおどろく。寛容なサークル作りを求む。(東京都、30代後半、専業主婦)

活動参加のメリット**<子どもが楽しめている>**

- ・ 自分の子どもにとって勉強にもなるし、人間関係がわかるようになるので、サークルで他の子どもと一緒に遊べてよいと思う。(滋賀県、20代後半、専業主婦)
- ・ サークルに行くことで単調な毎日に変化がつくし、子どもも友だちと会えるのが楽しみなようです。先生、子ども、親のバランスもとれていると思います。(広島県、20代後半、専業主婦)

<親のリフレッシュになっている>

- ・ 育児以外で自分を評価してもらえること(趣味の自慢コーナーなど)があるのがうれしい。育児サークルといっても育児のこと話題ばかりでなく、親同士、いろいろな話や情報交換ができるとよいと思う。(大阪府、30代後半、専業主婦)
- ・ 町が手配してくれたシッターさんに子どもを頼んで、母親がリフレッシュするのが目的だったが、これはとても助かった。子育てで煮詰まってしまったとき、親も子も別々にリフレッシュすることで、またがんばる力が得られた。(山形県、30代後半、専業主婦)
- ・ どちらかというとも子どものことよりも母親自身の友達作り、おしゃべりによる育児ストレスの解消、情報収集を目的としている。消極的な母親、友達のいない母親、転勤してきたばかりの母親などのためにも、週に1度は集まれるようなサークルが望ましい。(香川県、30代後半、専業主婦)

<子育ての悩みを相談できる>

- ・ 自分を飾らないで、本当に悩んでいることをどんどん話せるようなサークルになってほしい。(埼玉県、20代後半、専業主婦)
- ・ 何か悩みがある時に、リーダーや仲間に話せる時間を作り、自分だけでないということを知り、励ましあったり情報交換できる時間があれば良いと思います。(大阪府、30代前半、専業主婦)

< 交流の場になっている >

- ・ 幼児虐待が多発する現代社会ですが、子育てサークルに入って日々の育児のストレスを発散させられる母親より、むしろ引きこもっている母親をいかにサークル活動に引き込むかが行政のこれからの仕事だと思います。他の子どもや母親と接するだけで心のストレスが晴れるものだと思います。(東京都、30代前半、専業主婦)
- ・ 専業主婦はずっと家にいてもつまらないので、とてもよい「憩いの場」となっている。(香川県、20代後半、専業主婦)

< 自分が成長できた >

- ・ 活動を始めた当初は、時間の取り方、メンバーとの交流に少々エネルギーを使いましたが、慣れてからは自分の幅が広がったと思う。(東京都、30代前半、専業主婦)
- ・ リーダーをしてみて大変勉強になった。いつか役に立つ日が来るかもしれない。自分には意外に企画力があることもわかった。(石川県、30代後半、専業主婦)
- ・ サークルに参加して、たくさんの人にいろんな子育ての大変さ、つらさ、楽しさなど、話を聞くと、我が子に対する接し方が変わってくるのが分かった。(広島県、20代後半、その他の職業)

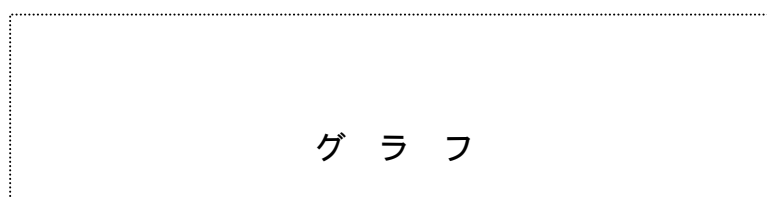
1 サークルの概要

(1) サークルの規模 (メンバー数)

回答者の加入するサークルの規模 (メンバー数) についてたずねた。

全体では、「30 名以上 50 名未満 (31.2%)」が比較的多いが、「50 名以上 80 名未満 (24.3%)」と「30 名未満 (23.3%)」がそれぞれ 2 割台ずつとなっており、多様な規模のサークルからの回答があったことがわかる。サークルの構成員の平均人数は 60.6 人となっている (図表 3 - 1 - 1)。

図表 3 - 1 - 1 サークルの規模 (全体)



(2) サークルのメンバー構成

サークルの構成メンバーの内訳をみた。

サークル平均でみた子ども的人数は 32.7 人、母親の数は 27.5 人である。なお父親については全体の 4 割が「0 名 (40.8%)」であり、「無回答」も 48.9%となっている。平均人数は 3.3 人となっており、男性が参加する育児サークルはきわめて少ない (図表 3 - 1 - 2)。

図表 3 - 1 - 2 メンバー構成 (全体)



子ども数・母親数・父親数の平均を拠点地の状況別にみた。子どもの平均の数は32.7人であるが、その他（商工業地など）では平均を10人以上上回る比較的規模の大きいサークルが多くなっている。母親の平均数は27.5人であり、これもその他（商工業地）での人数が若干多くなっている。父親の平均人数は3.3人と少ないが、農・林・漁業中心の地域では平均が6.6人でサークルの規模と比較して父親の参加が比較的多い。また、新興の住宅地のサークルの方が古くからの住宅地のサークルより比較的規模が大きくなっている（図表3-1-3）。

図表3-1-2 子ども数・母親数・父親数の平均（全体、拠点地の状況別）

表

（3）発足時期

発足時期をみると、全体では、「平成3年から7年（発足5年以上9年以下）（26.3%）」のサークルが全体の4分の1を占めている。次いで「平成2年以前（発足10年以上）（16.5%）」が多く、発足5年を経過したサークルは全体の42.8%である。一方、平成8年以降に発足した新しいサークルもそれぞれ10%前後ずつみられる。設立からの平均年数は5年10ヶ月である。

拠点地の状況別にみると、農・林・漁業中心の地域では、平成3～9年に発足したサークルが多く、平成10年以降に発足したサークルは少ない（図表3-1-4）。

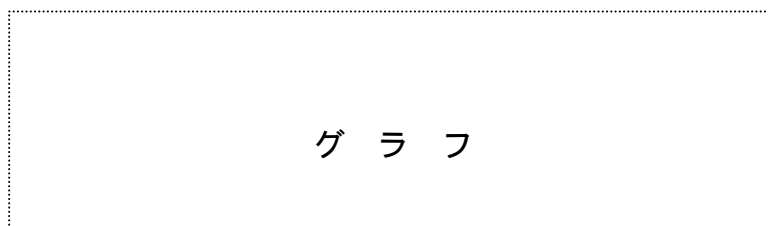
図表3-1-4 発足時期（全体、拠点地の状況別）



(4) サークル拠点地の人口規模等

サークルの拠点地の人口規模等をみると、「政令指定都市」から「人口10万未満の都市」までを合わせたいわゆる“市部”のサークルが半数以上(58.3%)を占めている(図表3-1-5)。

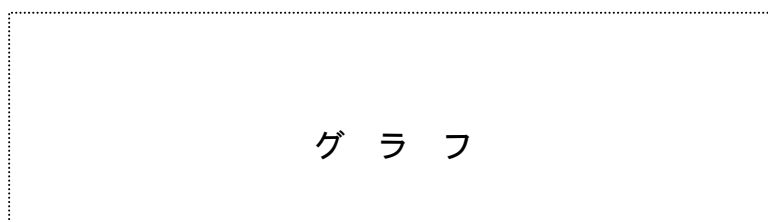
図表3-1-5 サークル拠点地の人口規模等(全体)



(5) サークル拠点地の地域の状況

サークルの拠点となる地域の状況をたずねた。全体では、「古くからの住宅地(45.0%)」のサークルが最も多く、「新興の住宅地(29.1%)」が続いている。「農・林・漁業中心(8.1%)」や「商業地(7.0%)」、「工場が多い(0.9%)」のサークルはいずれも少ない(図表3-1-6)。

図表3-1-6 サークル拠点地の地域の状況(全体)

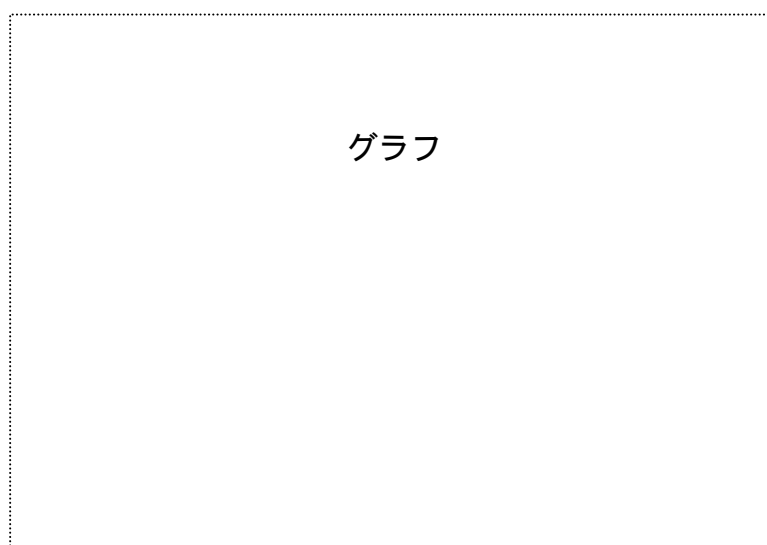


(6) メンバーの居住地域

サークルメンバーの居住地域について、複数回答によりたずねた。

全体では、「同じ区や市町村内の同じ地区(72.9%)」の割合が高く、近隣のメンバーが集まったサークルがほとんどである。また「同じ区や市町村内の異なる地区(42.7%)」も4割を超え、自市町村内で活動するサークルがほとんどである(図表3-1-7)。

図表3-1-7 サークルメンバーの居住地域(複数回答/全体)



(7) サークルの特徴

サークルの特徴となることについて、A～Hまでの8項目にわたり、たずねた(グラフは「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた《該当》の割合が多い順に並べた)。

『A メンバーの参加率が高い』は《該当》が他の項目よりも際立って多く、サークルの活動が活発であるようすを示している。次いで多いのは『E 地域の行政担当者と連絡をとるようにしている』や『H 地域の行政担当者から協力を求められる』であり、半数前後のサークルは行政とのパイプをもっていることがわかる。『C 役割分担が決まらないことがよくある』は最も《該当》が少なく、Aと合わせると、多くのメンバーがそれぞれの役割をこなしながら活動しているようすがうかがえる(図表3-1-8)。

図表3-1-8 サークルの特徴(全体)



(8) サークル開催の頻度

サークル開催の頻度をみると、運営会議などの『係を集めた活動』については、「月 1 回程度 (28.0%) 」が比較的多いが、「週 1 回程度 (23.5%) 」や「月 2 回程度 (22.6%) 」と回答したサークルも 2 割ずつであり、頻度はさまざまである。『係以外のメンバーも含めた活動』になると、前者よりも活動頻度が少し増え、「週 1 回程度 (31.5%) 」とするサークルが最も多くなる (図表 3 - 1 - 9)。

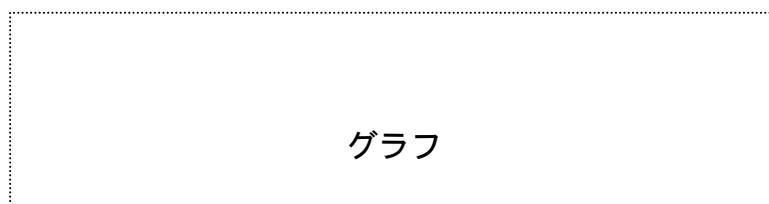
図表 3 - 1 - 9 サークル開催の頻度 (全体)



(9) 1 回あたりの活動時間

サークルの 1 回あたりの活動時間をみると、「2 時間以上 (59.0%) 」が過半数であり、「1 時間 30 分以上 2 時間未満 (30.6%) 」がそれに続いている (図表 3 - 1 - 10)。

図表 3 - 1 - 10 1 回あたりの活動時間 (全体)

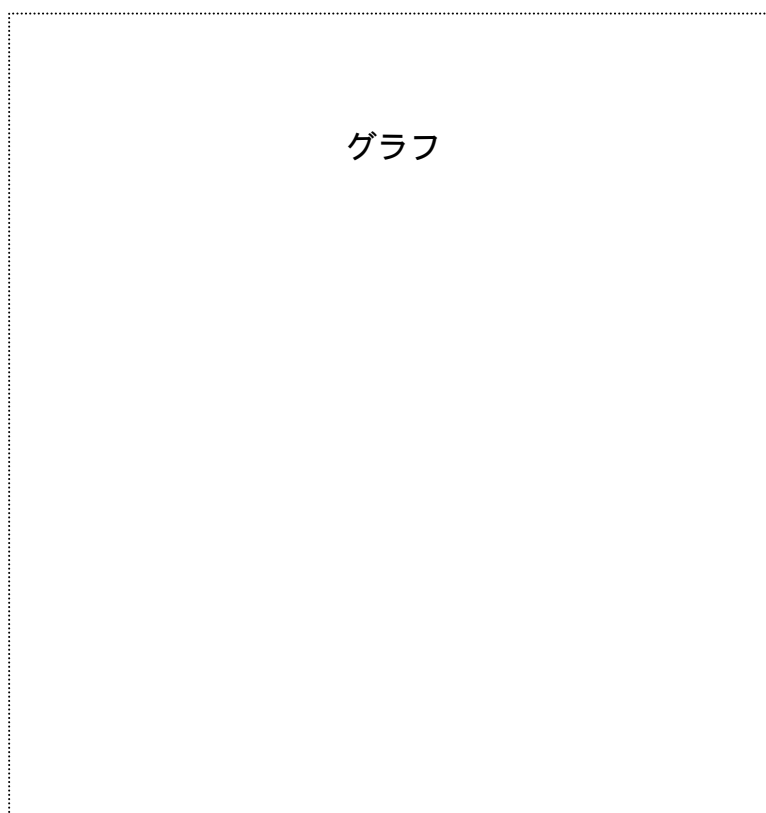


(10) 活動場所

サークルの活動場所を複数回答で答えてもらった。

最も多いのは、地域の「公民館(55.2%)」と「公園(48.2%)」で、半数前後のサークルがこの2項目に回答している。「児童館(27.3%)」、「幼稚園、保育所等(17.7%)」、「子育て支援センター(14.0%)」がそれに続いている。活動場所としては、身近な地域施設や行政・民間の子育て関連施設での活動が中心となっている(図表3-1-11)。

図表3-1-11 サークルの活動場所(複数回答/全体)



「その他」の活動場所(主な回答)

<p>< 公共施設 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健センター、保健福祉センター、福祉会館 ・ 健康管理センター ・ 地域センター、コミュニティセンター ・ 自治会館 ・ 生涯学習センター ・ 文化センター ・ 青少年勤労センター ・ 多目的研修センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市営プール ・ おもちゃ図書館 ・ 市役所内 <p>< 民間の施設等 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マンションの児童室や集会所、公共ルーム ・ 集会所 ・ 生協 ・ キリスト教会の礼拝堂 ・ レストラン 	<p>< 単発行事等の会場 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の祭りや行事の場所 ・ 地元のキャンプ場 ・ 施設見学(消防署、パン工場、牛乳工場) <p>< 屋外 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畑など自然のあるところ ・ 川 ・ 果樹園 ・ 芋掘り
---	--	---

2 サークルの運営について

(1) 分担している仕事または係りの状況

6割以上のサークルが「会長」や「会計」を置いている。係の決め方は、ローテーションや立候補制などさまざま。7割のサークルが、仕事の分担を「全員がよくやっている」と評価している

分担している仕事や係りの状況についてたずねた。

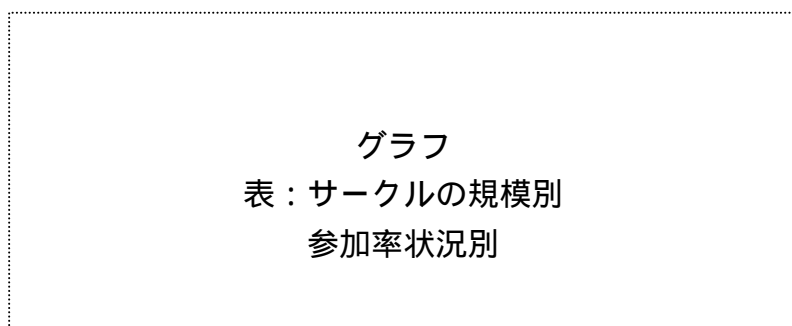
係りや仕事の種類

全体では、「会計(66.7%)」を置いているサークルが最も多く、「会長(62.9%)」のいるサークルを上回っている。「連絡調整(31.5%)」、「企画(30.1%)」、「買い出し(28.5%)」はそれぞれ3割前後であり、この3つが同程度の位置づけとなっている(図表3-2-1)。

サークルの規模別にみて、30名未満のサークルでは全体的に係りが少ないが、30名以上80名未満になると「会長」や「会計」係のあるサークルが、80名以上では「企画」や「広報」、「機関紙等の編集」係のあるサークルがそれぞれ多くなる。規模によって、子育てサークルが組織的になるようすがうかがえる。

参加状況別にみると、規模にかかわらず、参加率が高いサークルでは「会計」「会長」「副会長」を置いているところが多くなっている(図表3-2-2)。

図表3-2-1 サークルで分担する仕事や係りの種類(複数回答/全体)



「その他」の仕事や係りの内容を種類別に整理した。主な回答は次の通りである。

< 運営系 >	
・ 班長（会長とは別、グループのまとめ役）	
・ 週リーダー（その週の活動の準備、実行）	
・ 世話人、世話役	
< 記録・編集系 >	
・ 書記、記録	・ 日誌（報告書）、出席簿
・ 新聞発行	・ 写真
・ 図書	
< 企画系 >	
・ 企画の実行委員	・ 集会
< 事業系 >	
・ 製作	・ 活動日の進行
・ 歌の係	・ 本を読む係
・ 誕生日係（カード、プレゼントなど）	
< 管理系 >	
・ 会場の予約	・ 会場の準備・片付け
・ 会場のカギ、開閉	・ 備品
< 保健衛生系 >	
・ 救急、救急箱管理	・ 保険（保険料の徴収）
・ 歯科衛生係	
< 相談系 >	
・ 育児相談係	
< 交流系 >	
・ 他のサークルとの連絡	
< もてなし系 >	
・ 子ども担当、大人担当	・ 乳幼児係
・ 保育担当	

図表3 - 2 - 2 サークルで分担する仕事や係りの種類
（複数回答 / 全体、サークルの規模別、参加状況別）

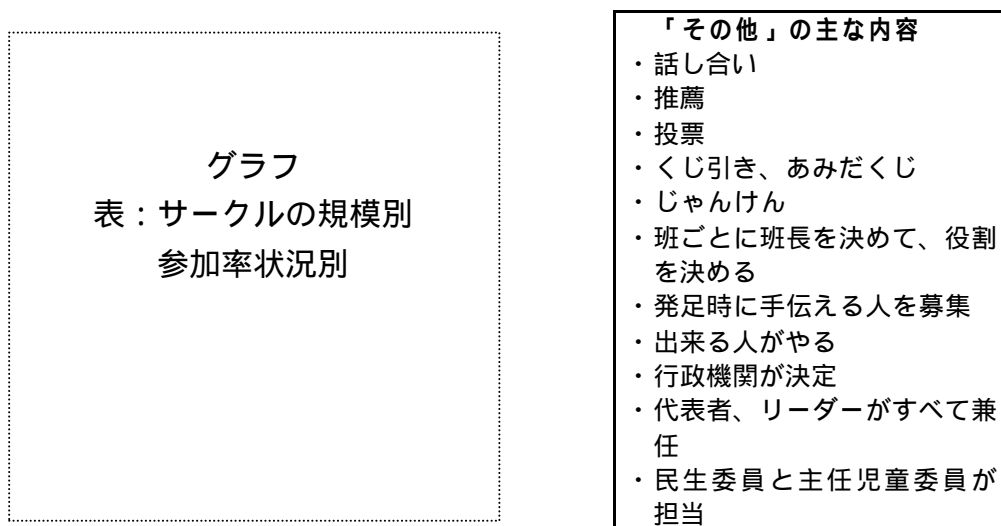
役割分担の状況

役割分担の状況について複数回答で答えてもらった。

全体では、「ローテーションにする（30.3%）」や「立候補制（28.9%）」などが3割前後で、続く「リーダーが指名する（21.7%）」や「前任者が指名する（18.4%）」などもあり、サークルによって、あるいは係りによって、役割分担のきめ方が異なることが考えられる（図表3-2-3）。

サークルの規模別にみると、30名以上50名未満のサークルでは「ローテーション」が比較的多く、50名から80名未満のサークルでは「リーダーが指名」、80名以上では「立候補」が多くなっている（図表3-2-4）。

図表3-2-3 サークルでの役割分担の状況（複数回答/全体）



図表3-2-4 サークルでの役割分担の状況
（複数回答/全体、サークルの規模別、参加状況別）

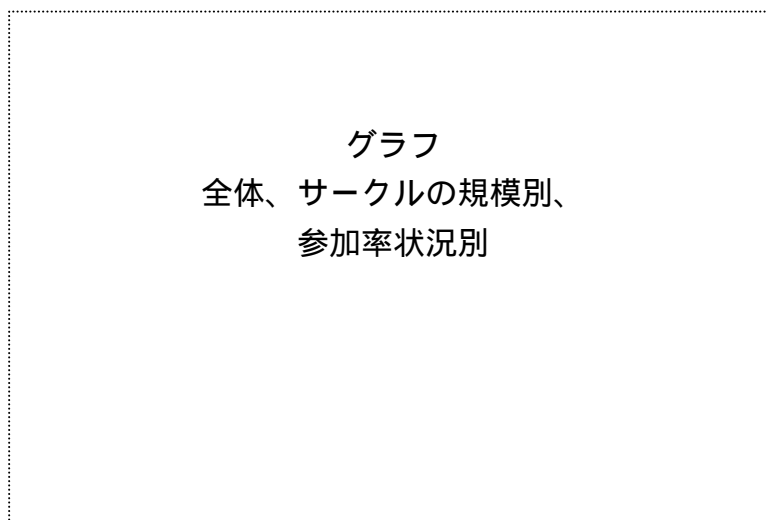
分担のこなし方

それぞれが、係りなどの分担をどうこなしているかをたずねた。

全体では、「全員がよくやっている (70.8%)」というサークルがほとんどであるが、「一部を除く全員がよくやっている (10.2%)」, 「一部の人のみよくやっている (8.9%)」というサークルも合わせて2割近くになっている (図表3 - 2 - 5)。

参加状況別にみると、参加率が高いサークルほど「全員がよくやっている」という回答が多く、低いサークルほど「一部を除く全員がよくやっている」, 「一部の人のみよくやっている」という回答が多い (図表3 - 2 - 6)。

図表3 - 2 - 5 分担のこなし方 (全体)



図表3 - 2 - 6 分担のこなし方 (全体、サークルの規模別、参加状況別)

(2) サークルの方針の決め方

サークルの方針を考える人は「メンバー全員で」が多く、次いで「リーダー」となっている。自分の意向がある程度反映されていると感じるリーダーが多い

主に方針を考える人

サークルの方針を主に考える人はだれかをたずねた。

全体では、「メンバー全員で(41.0%)」、「サークルのリーダー(31.3%)」の順で多くなっている。「サークル内の委員会(10.2%)」という回答は1割となっている。

サークルの規模別に見て、サークルの規模が小さいほど「メンバー全員で」という回答が多く、大きくなるほど「サークルのリーダー」という回答が多くなる。

参加状況別では、大きな傾向の違いはないが、参加率が低いサークルでは「特に決まっていない」という回答が多くなっている(図表3-2-7)。

図表3-2-7 サークルの方針を主に考える人(全体、サークルの規模別、参加状況別)

グラフ
規模別、参加状況別

メンバーに対する方針の説明

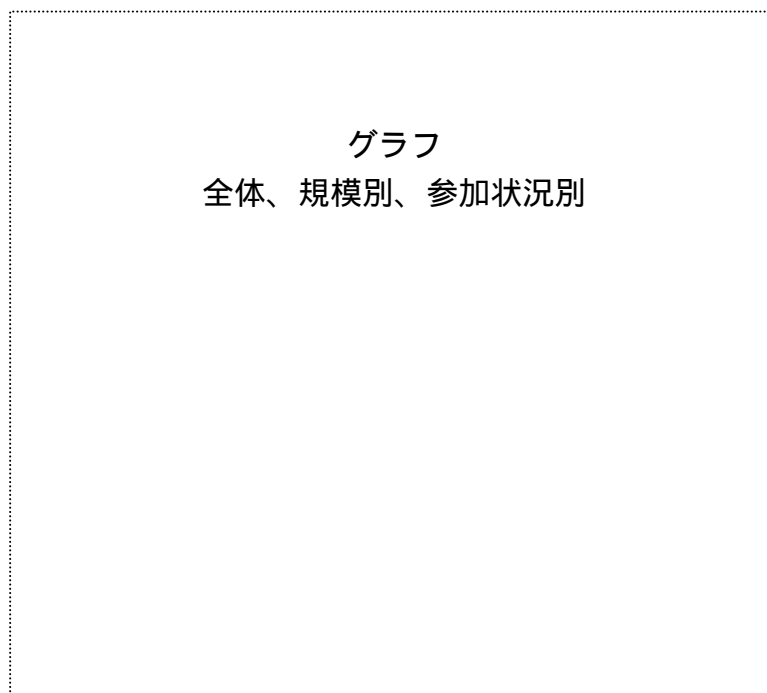
メンバーに対する方針の説明をしているかどうかをたずねた。

全体では、「説明している（86.7%）」サークルがほとんどで、「説明していない（10.7%）」サークルは1割にすぎない。

サークルの規模別には、サークル規模が50名以上になると「説明している」サークルが多い。

参加状況別では、参加率が高いほど、「説明している」サークルが多い（図表3-2-8）。

図表3-2-8 メンバーに対する方針の説明（全体、サークルの規模別、参加状況別）



リーダーの意向の反映状況

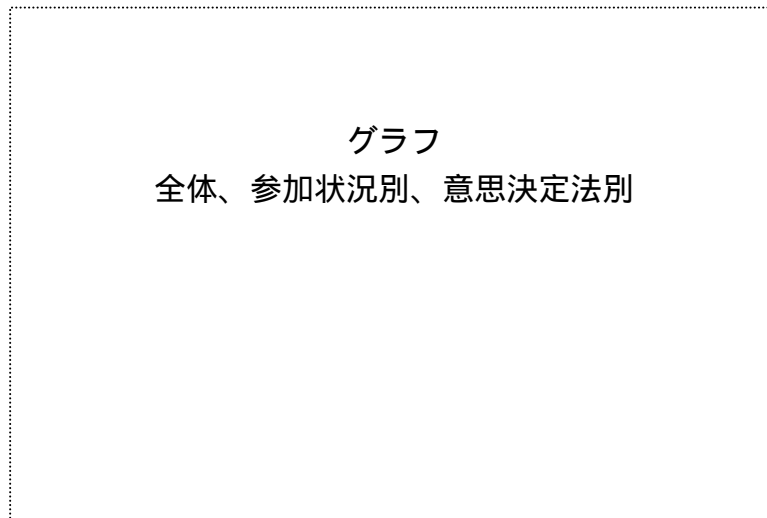
リーダーの意向が反映されているかどうかをたずねた。

全体では「かなり反映される（50.6%）」が半数で、「ほぼ全面的に反映される（29.4%）」までを含めると8割が《反映される》と感じている。

参加状況別にみると、参加率が高いサークルほど《反映される》という回答が多い。

意思決定法別にみると、サークルのリーダーが意思決定するサークルは《反映される》という回答が多くなっている（図表3 - 2 - 9）。

図表3 - 2 - 9 リーダーの意向の反映状況
（全体、参加状況別、意思決定法別）



(3) 活動資金の収集について

主な活動資金は「メンバーからの会費」。次いで「行政からの助成金」

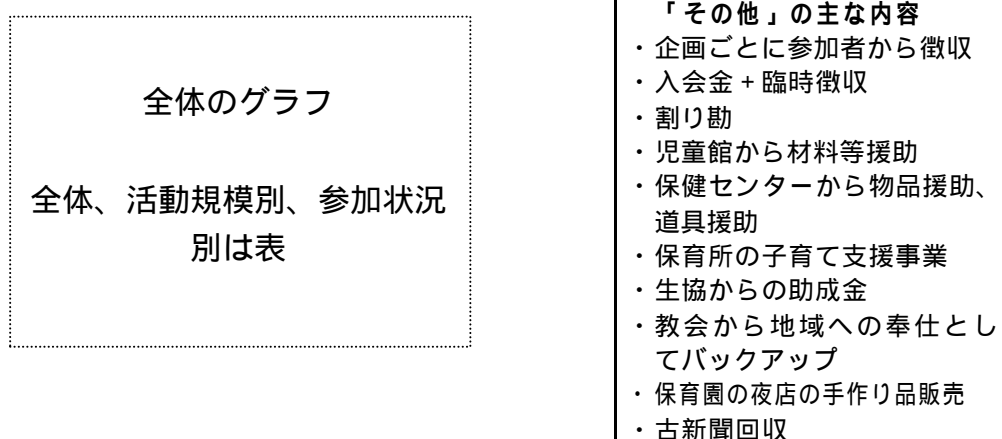
活動資金の収集方法について複数回答でたずねた。

全体では、「メンバーからの会費（65.7%）」が最も多く、「行政からの助成金（26.6%）」が続いている。その他の方法についてはいずれも1割台かそれ以下であり、「広告収入」や「金融機関からの借金」という回答はほとんどみられない。「メンバーからの会費」と回答したサークルの平均会費は421円である（図表3-2-10）。

サークルの規模別にみると、規模が大きいほど「行政からの助成金」や「バザーなど日用品の販売」というサークルが増える。会費の平均は規模が大きいほど低くなっている。

参加状況別には、参加率が高いほど「メンバーからの会費」という回答が多くなっている（図表3-2-11）。

図表3-2-10 活動資金の収集方法（複数回答/全体）



図表3-2-11 活動資金の収集方法（複数回答/全体、サークルの規模別、参加状況別）

(4) 情報源

子育て情報誌、広報誌など、サークル活動の情報源は多様である

サークル活動に関する情報を集める際の情報源について複数回答でたずねた。

全体をみると、「子育て情報誌(44.0%)」や「自治体の発行する広報誌(40.6%)」が4割で同程度であり、「子育て支援センター(33.3%)」が続いている。「ホームページ(インターネット)(8.4%)」という回答は少ないものの、「テレビ(16.8%)」の半数であり、情報源として使われるようになっている(図表3-2-12)。

サークルの規模別には、30名未満のサークルでは「自治体の発行する広報誌」という回答が多く、50名以上のサークルでは「子育て情報誌」や「サークル発行の雑誌・会報」などの回答が多くなっている(図表3-2-13)。

図表3-2-12 情報源(複数回答/全体)

グ ラ フ

全体、規模別、参加状況別の表

この問は「その他」の回答が多いため、その内容（自由記入）をみると、サークルや友人からの口コミや交流会、行政などの情報源が挙げられた。主な回答は次の通りである。

<サークル関係>	
・ メンバーの口コミ	・ サークルの先輩
・ 別学年のサークルリーダー	・ サークルの創業者
・ 前年、前々年のデータ	
<友人関係>	
・ 友人	・ 子育て中のお母さん方、先輩ママ
<交流会>	
・ 他サークルとの交流会、連合会	
・ 保健センターでの交流会	
（他サークルのリーダー、幼稚園・保育園の先生などが参加）	
<メディア>	
・ ミニコミ紙	・ 地域の新聞
・ 地元のフリーペーパー	
<行政・公共機関>	
・ 保健所	・ 町内回覧
・ 保健センターのメール	・ 児童館、児童館の先生
・ 研修会	・ 県の行事案内など
<幼稚園・保育所>	
・ 幼稚園・保育所の先生	・ 保育所などの地域開放
・ 保育所の活動誌	

図表3 - 2 - 13 情報源（複数回答 / 全体、サークルの規模別、参加状況別）

(5) 他のサークルとの交流

4 割近くのサークルが他のサークルとの交流機会をもっている。交流のしかたは、実際に会って情報交換、共同の活動機会がある、が半数を超える

交流の有無

他のサークルとの交流があるかどうかをたずねた

全体では、「交流がある(39.2%)」というサークルが4割近くにのぼっている。

サークルの規模別にみると、規模が大きくなるほど交流機会は増え、80名以上のサークルでは半数以上が「交流がある(52.6%)」と回答している。

行政支援状況別には、行政支援を受けているサークルでは「交流がある(45.1%)」が多いのに対し、受けていないサークルでは非常に少ない(21.3%)(図表3-2-14)。

図表3-2-14 他のサークルとの交流の有無
(全体、サークルの規模別、行政支援状況別)

グラフ
規模別、行政支援状況別

他サークルとの交流のしかた

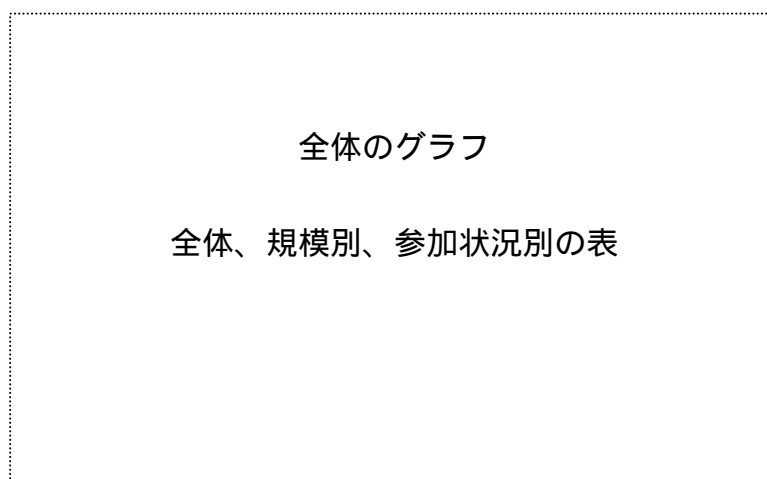
他サークルとの交流があると回答したサークルに、他サークルとの交流のしかたを複数回答でたずねた。

全体では、「実際に会って情報交換をする（58.5%）」、「共同で活動をつくる機会がある（56.3%）」が半数を超えている（図表3 - 2 - 15）。

サークルの規模別には、50名以上のサークルでは「実際に会って情報交換をする」という回答が多くなっている。また80名以上のサークルで「パソコン上で情報交換をする」という回答が多くなっている。

参加状況別には、参加率が高いサークルは「共同で活動をつくる機会がある」という回答が多くなっている（図表3 - 2 - 16）。

図表3 - 2 - 15 他サークルとの交流のしかた（複数回答 / 《交流があるサークル》：全体）



図表3 - 2 - 16 他サークルとの交流のしかた
（複数回答 / 《交流があるサークル》：全体、サークルの規模別、参加状況別）

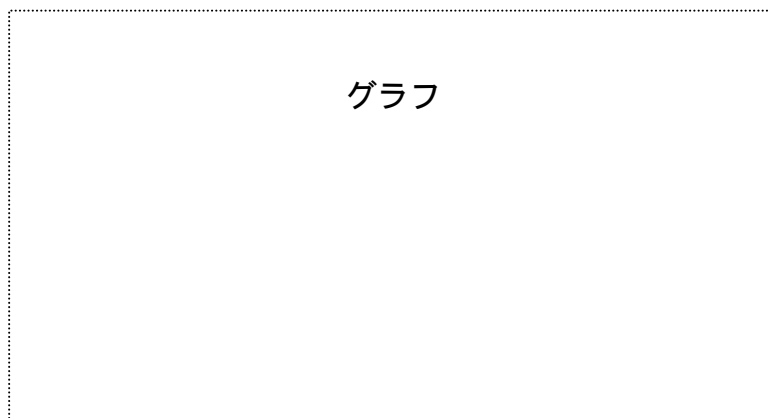
(6) サークルの雰囲気

多くのリーダーが、自分のサークルは情報交流が活発で、まとまっていると評価している

サークルの雰囲気について、A～Eまでの5項目について、あてはまるかどうかをたずねた(グラフは「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた《該当》が多い順にならべている)。

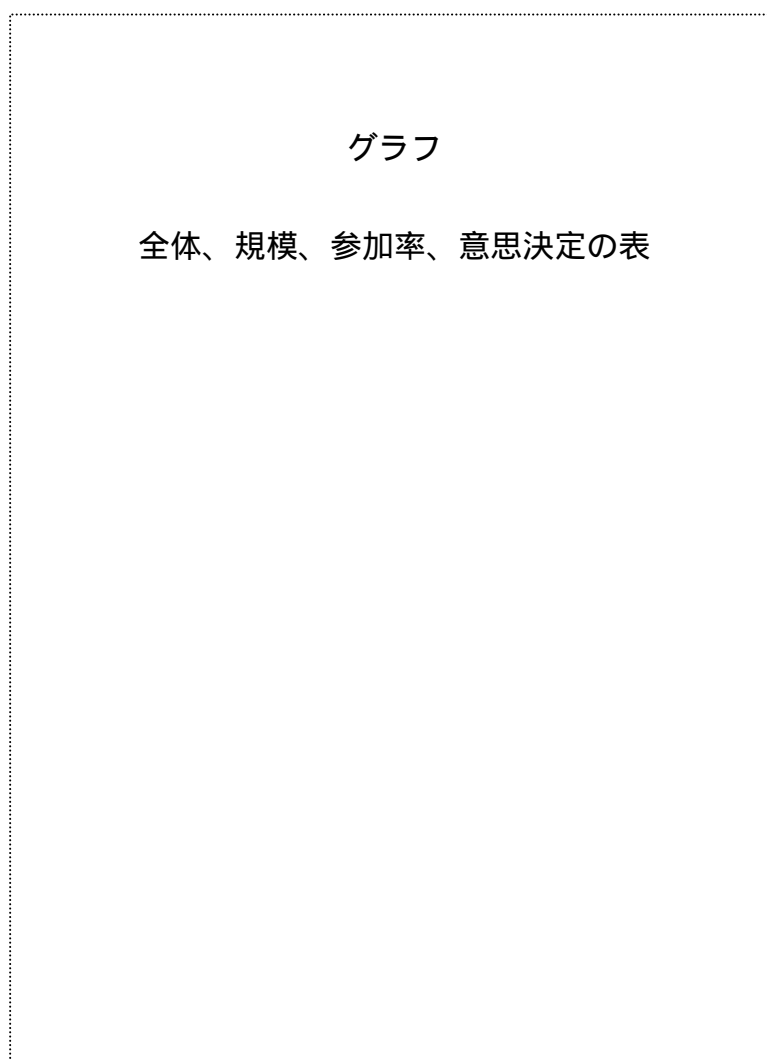
全体では、『A 子育てや家庭の悩みを本音で出し合える』や『B 子育てのアイデアを交換することが多い』、『C メンバーはまとまっている』の3項目は、ほとんどの人が《該当》していると回答し、サークルの結束の強さや情報交流の円滑さを評価している。『D 派閥があると感じることがある』や『E 運営方針について意見が割れることがある』に《該当》するというサークルは少ない(図表3-2-17)。

図表3-2-17 サークルの雰囲気(全体)



最も《該当》の多いA～Cの3つについてサークルの規模別、参加状況別、意思決定法別にみた。なかでも『C メンバーはまとまっている』については、規模の小さいサークル、参加率が高いサークル、メンバー全員で意思決定するサークルで、《該当》すると評価するところが多くなっている（図表3 - 2 - 18）。

図表3 - 2 - 18 サークルの雰囲気（全体、サークルの規模別、参加状況別、意思決定法別）



3 リーダー自身について

(1) サークル運営についての自己評価

メンバーとの関係を大切にすることを評価するリーダーが多い

サークル運営について、A～Eまでの5項目について、リーダーとしての評価をもらった（グラフでは、A～Eを「あてはまる」と「ややあてはまる」を合計した《該当》の多い順にならべている）。

全体では、ほとんどのリーダーが『B メンバーに積極的に話しかけるようにしている』や『A メンバーの共通理解を図るように心がけている』に《該当》すると回答している。最も少ない『E 活動日以外もサークル活動に時間を費やす』でも、6割以上のリーダーが《該当》するとしている（図表3-3-1）。

図表3-3-1 サークル運営についての自己評価（全体）



(2) リーダーに求められる資質

「子ども好きであること」が最も必要な資質とされる。「活動資金を外部から獲得すること」や「働いてきた経験があること」は重要視されていない

つぎにリーダーに求められる資質についてたずねた。

《該当》の多い順にみていくと、『H 子ども好きであること』とが最も多く、次いで『F メンバーの相談相手になれること』や『C 具体的な指示が与えられること』、『E メンバー間の人間関係をとりにつこと』など、メンバーとの関係を良好にするための資質が続いている。

『I 働いていた経験があること』や『G 活動資金を外部から獲得すること』などは、資質としては比較的重要視されていない(図表3-3-2)。

図表3-3-2 リーダーに求められる資質(全体)

グラフ

(3) サークルをとりまく環境についての考え方

民間や国からの情報が十分ではない、と考えるリーダーが多い

サークルをとりまく環境についての考え方をたずねた。

『C サークルに入りたくても入れない母親は多い』と感じている人はもっとも多く、8割である。現状では父親の参加は少ないが、『D サークルに入りたくても入れない父親が多い』と考える人は半数程度となっている。一方『A 国や行政からの情報は十分にある』や『B 民間からの情報は十分にある』は3割以下となり、子育てサークルの情報交流について問題を感じる人が多くなっている(図表3-3-3)。

図表3-3-3 サークルをとりまく環境についての考え方(全体)

グ ラ フ

4 行政支援について

(1) 相談する行政窓口

主な相談先は「保健所・保健センター」「子育て支援センター」「公民館」

日頃相談する行政窓口についてたずねた。

全体では「保健所・保健センター（32.0%）」、「子育て支援センター（31.0%）」、「公民館（29.2%）」、「児童館・児童センター（20.8%）」など、サークルの直接の窓口が上位に上げられている。行政の各担当部署は、最も多い「母子保健担当部署（13.8%）」や「福祉担当部署（13.3%）」でもそれぞれ1割である（図表3 - 4 - 1）。

参加状況別にみて、参加率が高いサークルは、「公民館」や「子育て支援センター」などの窓口で相談するという回答が多くなっている（図表3 - 4 - 2）。

図表3 - 4 - 1 相談する行政窓口（複数回答 / 全体）



図表3 - 4 - 2 相談する行政窓口（複数回答 / 全体、参加状況別）

(2) 行政からの支援の有無

4分の3のサークルが何らかの行政支援を受けている。規模の大きいサークルほどその割合が高い

行政からの支援を受けているかどうかをたずねた。

全体では、「受けている (75.0%)」というサークルが4分の3にのぼっている。

サークルの規模別には、サークルの規模が大きいほど「受けている」という回答が多くなっている (図表3 - 4 - 3)。

図表3 - 4 - 3 行政からの支援の有無 (全体、サークルの規模別)

グラフ

(3) 支援を受けている先

「公民館」や「子育て支援センター」などからの支援が多い

支援を受けている先について複数回答でたずねた。

全体では「公民館(31.8%)」、「子育て支援センター(23.6%)」、「保健所・保健センター(20.6%)」などの順で多くなっている。相談窓口の傾向とほぼ同じだが、相談窓口よりも「公民館」の比率が比較的高くなっている(図表3-4-4)。

図表3-4-4 支援を受けている先
(複数回答 / 《行政支援を受けているサークル》: 全体)

グ ラ フ

(4) 支援を受けている内容

「場所の提供」を受けているサークルは9割。以下、「設備の貸し出し」、「相談」、「人的な支援」などが続いている

支援の内容について、A～Gまでの具体的内容の有無を回答してもらった。

支援内容としては『A 場所の提供』を「受けている(93.7%)」というサークルは9割以上である。以下、『B 設備の貸し出し』、『G 相談』、『D 人的な支援』などと続いている。『F 学習機会』と『C 財政的支援』を「受けている」サークルは4割程度となっている(図表3-4-5)。

図表3-4-5 支援を受けている内容
(《行政支援を受けているサークル》: 全体)

グ ラ フ

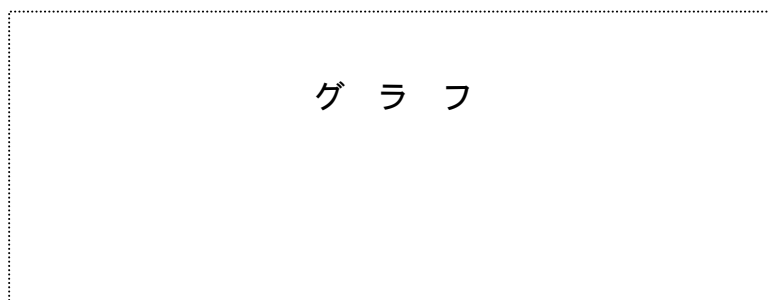
場所の提供

場所の提供については、ほとんどのサークルが「受けている（93.7%）」と回答している（図表3 - 4 - 6 - A 1）。

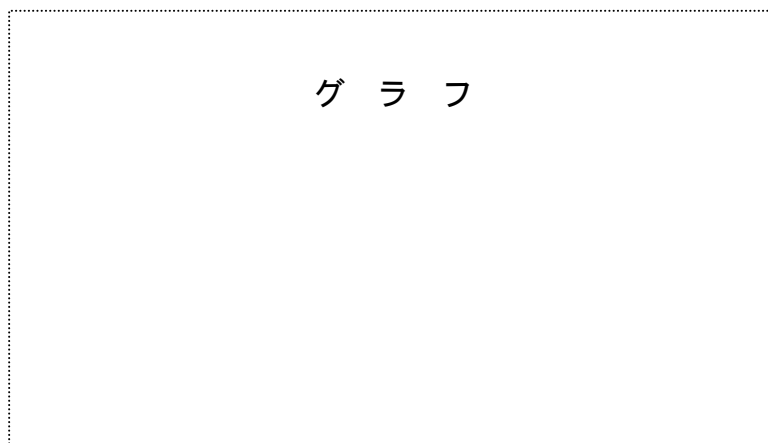
提供されている場所をたずねると、「公民館（56.6%）」が圧倒的に多く、「児童館・児童センター（28.4%）」が続いている（図表3 - 4 - 6 - A 2）。

提供されている場所は、「いつも決まっている（66.3%）」と「だいたい決まっている（29.9%）」を合わせると、ほとんどのサークルで、ある程度決まっていることがわかる（図表3 - 4 - 6 - A 3）。

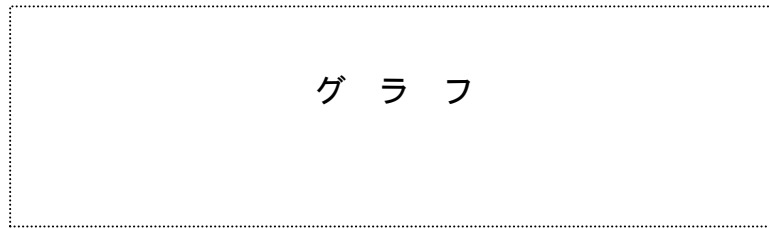
図表3 - 4 - 6 - A 1 場所の提供の有無
（《行政支援を受けているサークル》：全体、サークルの規模別）



図表3 - 4 - 6 - A 2 提供されている場所
（複数回答 / 《場所の提供を受けているサークル》：全体）



図表 3 - 4 - 6 - A 3 提供場所の固定性 (《場所の提供を受けているサークル》: 全体)

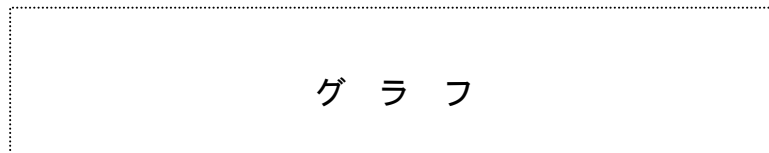


設備の貸し出し

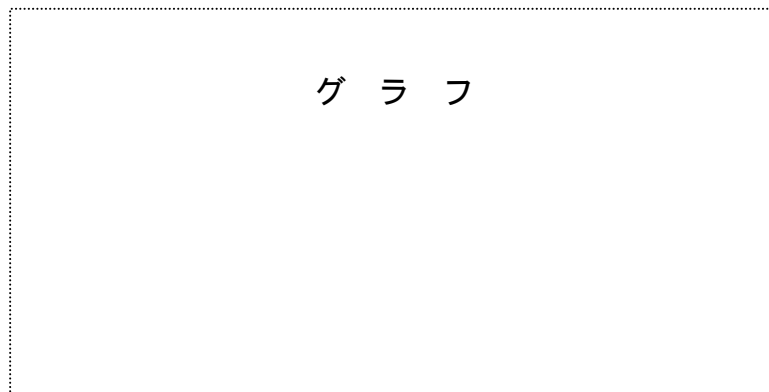
設備の貸し出しについても、「受けている (79.2%)」サークルが 8 割近くにのぼっている (図表 3 - 4 - 6 - B 1)

貸し出しを受けている設備は、「遊具 (69.3%)」と「絵本・図書 (58.1%)」などがもっとも多い。「コピー機 (46.6%)」や「印刷機 (26.5%)」など広報物等の製作に利用するような設備の貸し出しも比較的多い (図表 3 - 4 - 6 - B 2)

図表 3 - 4 - 6 - B 1 設備の貸し出しの有無
(《行政支援を受けているサークル》: 全体)



図表 3 - 4 - 6 - B 2 貸し出しされている設備
(複数回答 / 《設備の貸し出しを受けているサークル》: 全体)

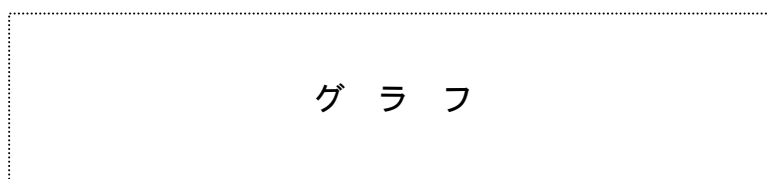


財政的支援

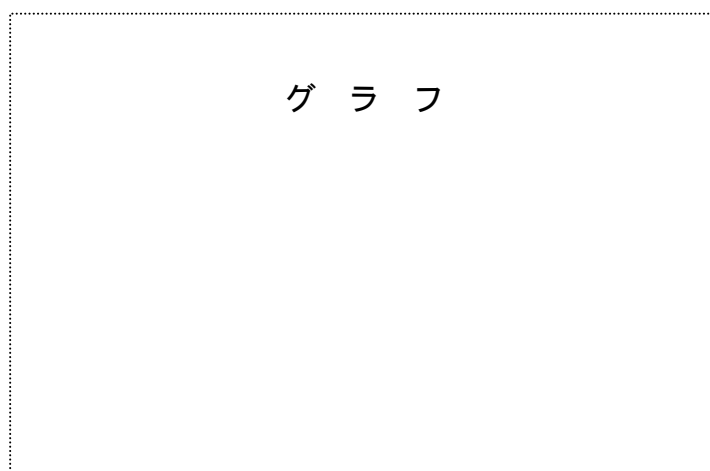
財政的支援については、「受けていない(57.5%)」が「受けている(41.4%)」サークルを若干上回っている(図表3-4-6-C1)。

受けている財政支援の内容をみると、「活動費の補助(62.1%)」が過半数だが、「印刷費用(33.9%)」なども次いで多くなっている。平均補助金額は年間約5万4千円である(図表3-4-6-C2)。

図表3-4-6-C1 財政的支援の有無(《行政支援を受けているサークル》:全体)



図表3-4-6-C2 受けている財政支援の内容
(複数回答/《財政支援を受けているサークル》:全体)



人的な支援

人的支援については、「受けている（57.5%）」サークルがおよそ半数である（図表3 - 4 - 6 - D 1 ）

受けている支援は、「保健婦（56.1%）」が多く、「保育士・幼稚園教諭（36.6%）」が続いている。「子育てアドバイザー（20.7%）」や「子育てサポーター（17.5%）」という回答も2割前後ずつみられる（図表3 - 4 - 6 - D 2 ）。

図表3 - 4 - 6 - D 1 人的な支援の有無（《行政支援を受けているサークル》：全体）

グ ラ フ

図表3 - 4 - 6 - D 2 人的な支援の内容
（複数回答 / 《人的な支援を受けているサークル》：全体）

グ ラ フ

「その他」の主な内容

< 行政職員・委員 >

- ・ 社会教育課指導員、教育委員会職員
- ・ 児童館職員
- ・ 児童委員、民生委員
- ・ 育児指導員
- ・ 子育て支援センターの登録員
（元保育士等のボランティア）

< 民間の指導員 >

- ・ パネルシアターの先生、語り部の先生（作家）
- ・ ピアノ教師、リトミック教師

・ 元体操教室指導員

- ・ サークルが所属している団体の先生
- ・ 学識経験者

< 医療関係者 >

- ・ 歯科医、歯科衛生士
- ・ 助産婦
- ・ 小児科婦長

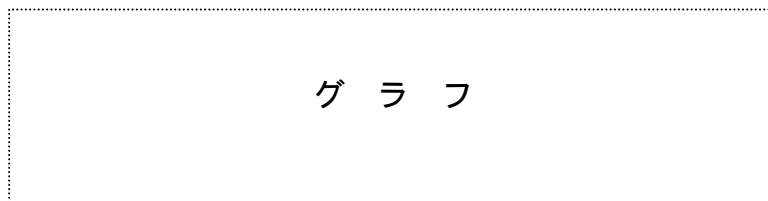
< その他 >

- ・ 他のサークルのリーダー（会議での交流）

情報の提供

情報提供についても「受けている(53.0%)」サークルがおよそ半数である(図表3-4-6-E)。

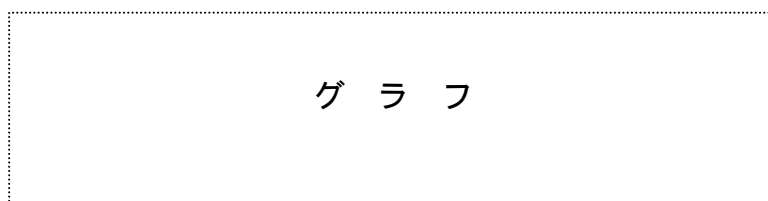
図表3-4-6-E 情報の提供の有無
(《行政支援を受けているサークル》: 全体)



学習機会の提供

学習機会の提供については、「受けていない(57.0%)」が「受けている(41.8%)」サークルを若干上回っている(図表3-4-6-F)。

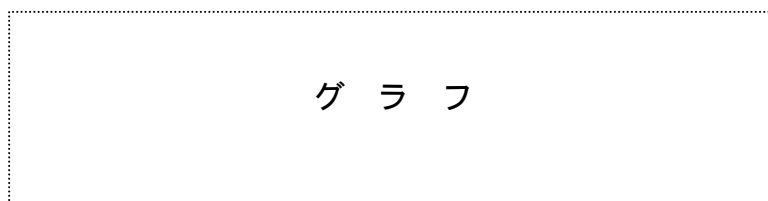
図表3-4-6-F 学習機会の提供の有無
(《行政支援を受けているサークル》: 全体)



相談

相談については、「相談に乗ってくれる(61.9%)」が多いが、「相談に乗ってくれない(36.0%)」も3割を上回っている(図表3-4-6-G)。

図表3-4-6-G 相談の有無
(《行政支援を受けているサークル》: 全体)



(5) 行政支援の満足度

行政支援に対しては、満足層・不満層が半数ずつとなっている

行政支援の満足度をみた。

全体では「充分満足している」と「まあ満足している」を合わせた《満足層》は半数近い48.4%となっている。この傾向はサークルの規模別にみてもあまり違いが見られない。拠点地別にも市部で大きな違いはみられないが、町・村部では《満足層》が多くなっている(図表3-4-7)。

図表3-4-7 行政支援の満足度(全体、サークルの規模別、拠点地別)

グ ラ フ

(6) 行政担当者の理解度

行政担当者は理解している、と評価する人は約6割

行政担当者の理解度についてたずねた。

全体では「とても理解している(25.9%)」という回答は4分の1で、「少し理解している(39.6%)」と合わせると、6割は《理解している》と感じている。

行政支援状況別にみると、行政支援を受けているサークルと受けていないサークルでは感じ方に大きな開きがあり、受けているサークルでは7割以上が《理解している》と感じているのに対し、受けていないサークルでは半数以上が《理解していない》と感じている。

行政支援の満足度別にみても、満足しているサークルではほとんどが《理解している》とするのに対し、満足していないサークルでは7割が《理解していない》と感じている(図表3-4-8)。

図表3-4-8 行政担当者の理解度(全体、行政支援状況別、行政支援の満足度別)

グ ラ フ

(7) 行政支援のあり方について

ほとんどのサークルが今後『場所の提供』が「とても必要」としている。『場所』と『設備』は現在も、今後も、支援内容としてトップに挙げられている。

今後の行政支援のあり方についてたずねた。

全体では、どの項目も《必要派》は7割を超え、幅広い行政支援が必要だと感じるサークルが多いことがわかる。

とくに『A 場所の提供』『B 設備の貸し出し』『E 情報支援』『G 相談』の4つについては《必要派》が9割近くにのぼり、なかでも『A 場所の提供』については「とても必要である(90.2%)」という回答だけで9割を超え、ほとんどの人が必要性を強く感じている(図表3-4-9)。

図表3-4-9 行政支援のあり方について(全体)

グ ラ フ

現在受けている支援の内容と比較してみると、『A 場所の提供』は現在も受けているが今後も必要だと考えるサークルが多いようである。『E 情報の提供』は現在支援を受けているサークルは半数だが、今後は「場所」、「設備」に続き、支援の必要性を感じるサークルが多くなっている(図表3-4-10)。

図表3 - 4 - 10 行政支援のあり方について（全体／現在受けている支援・今後必要な支援）

行政支援の有無別に今後のあり方についてみた。

行政支援の有無に係わらず、『A 場所の提供』『B 設備の貸し出し』『E 情報支援』は必要だと感じる人が多いのに対し、現在行政支援を受けているサークルでは、とくに『D 人的支援』や『C 財政的支援』が必要であると感じている（図表3 - 4 - 11）。

図表3 - 4 - 11 今後必要な支援（行政支援の有無別）

(8) その他必要な行政支援

前項でみた『A 場所の提供』から『F 学習機会の提供』までの7項目以外に、必要な行政支援について自由記述の形式でたずねた。その回答を分類し、代表的な意見を抜粋すると次の通りである。

*意見の末尾には、(所在地、サークルの規模、設立年)を掲載した。不明の場合には省略した。

行政からの働きかけ

- ・家で子育てをしている母親には情報が届きにくいので、行政の方がサークルに出向いて行う情報提供がもっとあればと思う。リーダーになり、他サークルとの交流会などで初めて知ったこともあった。家で閉じこもり育児をしている人へ、サークルの誘いなどの働きかけがあれば、全国で起きている育児ノイローゼが原因の虐待は減るのではないかと思う。(香川県、50名以上80名未満、平成6年)
- ・家の中に閉じこもりがちな親子も多いと思います。信頼のおける行政からのサークルのアピールが必要。(熊本県、80名以上、平成8年)

一時保育

- ・女性センターや生涯学習センターに託児室があるが、保育者がいない。「子どもの事故の応急処置を学びたい」との意見があり、消防署と連絡をとると、「託児がいないと講義を受けられない」と言われ、断念した。時には子どもを預けて学習する機会がほしい。(東京都、30名未満、平成10年)
- ・保育所で一時預かりの制度はあるが、例えば、上の子を迎えに行く時間に赤ちゃんをみたり、仕事中に預けていた子どもが具合が悪くなったとき迎えに行ったりする、ほんのわずかな時間子どもを見てくれる人がいない。行政が働きかけ、各サークルでそのような窓口をネットワークするとよいと思う。(香川県、30名未満、平成4年)

交流ネットワークに対する支援

- ・他のサークルとのネットワーク化の支援。(埼玉県、30名以上50名未満、平成9年)
- ・子育てサークルの存在を広く紹介する方法を考えてほしい。(大阪府、30名未満、平成9年)
- ・サークルを集めて交流・情報交換し、その中で、プロの意見も聞きたい。(大阪府、30名以上50名未満、平成11年)
- ・他のサークルとの交流の連絡をしてもらい、他のサークルと合同活動をしたい。(大阪府、50名以上80名未満、平成2年)
- ・町内のサークルをまとめて、交流の場を設けてくれるとうれしい。皆でサークルの話題について話し合う場を設けてほしい。サークル自身の工夫も必要だが、町の行政も関心を持ってほしい。(熊本県、30名以上50名未満、平成9年)

子育てサークルの新しい担い手づくり

- ・ 父親、祖父母の子育て支援の講習会。(山形県、50名以上80名未満、平成10年)
- ・ 子育てサークルというと、母と子というのが普通で、父と子というのは、なかなかありません。入りたくても、お母さんだらけだったら入りにくい、話が合わないなどあると思います。もう少しお父さんのための子育てサークルというのがあってもよい。そのためにもう少し行政がそのような場を作ってあげたらよいのでは。(広島県、30名以上50名未満、平成元年)

ノウハウ蓄積への支援

- ・ サークルを続けていく上で必要なノウハウを直接、教えてほしい。子どもの成長により変わり続けているので、それに応じたサークルのあり方をアドバイスしてほしい。(30名以上50名未満、昭和62年)
- ・ 活動のアイデア集などの発行。(香川県、80名以上)

企業からの援助・支援

- ・ 子育てサークルの活動の必要性をみんなが感じ、温かく支援(企業からの援助、ボランティアの参加など)してほしい。(香川県、80名以上、平成9年)
- ・ いろいろなボランティアで参加してくれる人を一覧表にして紹介してほしい。(30名以上50名未満)

掲示板の開放

- ・ メンバー募集の掲示を快く承諾してほしい。「公共施設だから」「全サークル貼りきれないから」と断られると、行政の無理解を痛感してしまう。役所の方は、自分の担当以外はなるべく関わりたくないという姿勢が見受けられるので、支援というより、まず理解してほしい。(東京都、30名以上50名未満、平成9年)
- ・ メンバーを募集するときに、行政施設や公園の掲示板にポスターを貼りに行くが、掲示板の期間が一週間くらいと短い。(50名以上80名未満)

モータリゼーションに対応した支援

- ・ 駐車場料金がかからず、子どもが楽しく遊べる行事の提供。(山形県、30名未満、平成9年)
- ・ 移動の際の大型バス・運転手の派遣または斡旋。(山形県、50名以上80名未満、平成12年)
- ・ 貸切バスでのチャイルドシート使用について何らかの支援がほしい。(今のままでは、貸切バス使用は無理)(東京都、30名以上50名未満、昭和53年)

行政職員の理解

- ・ 行政職員の大きな心。(東京都、30名未満、平成11年)
- ・ 幼児虐待が騒がれている時勢でもあり、不安を抱えながら頑張っている母親たちに対して、温かみのある対応ができる職員を希望する。(東京都、30名以上50名未満、昭和63年)

その他

- ・ 手続きの簡素化。(群馬県、80名以上、平成7年)
- ・ 子どもまつりの開催など。(東京都、30名以50名未満、平成8年)
- ・ 連絡支援。(三重県、平成11年)
- ・ 保険加入の支援。(三重県、80名以上、平成9年)
- ・ 活動をする上での場所と使用遊具などの保管場所が必要。(滋賀県、50名以上80名未満、昭和60年)
- ・ 地域の子育てサークルの実態把握。(滋賀県、80名以上、平成8年)

5 サークルの現状と課題（自由回答）

子育てサークルの現状と課題について、自由記述の形式でたずねた。それらの意見を分類し、以下に代表的な意見を抜粋する。

*意見の末尾には、（所在地、サークルの規模、設立年）を掲載した。不明な場合は省略した。

（1）サークルのリーダーとして苦労していること

リーダーの決定、リーダーのなり手がいないこと

- ・ 新リーダーの決定。家庭の事情でなかなか新しいリーダーを立てられない。（石川県、30名以上50名未満、平成7年）
- ・ 支援センターをはじめ、児童センターなど、周りの方々がいろいろ支えてくれているが、次年度のリーダーを決めることが毎年一苦労です。（石川県、80名以上、平成10年）
- ・ リーダーになってくれる人がいなくて困る。（香川県、30名以上50名未満、平成9年）

まとめることや雰囲気づくりなど

- ・ 色々な人がいて、色々な意見があるので、1年という期間では、少し難しい。（群馬県、50名以上80名未満、平成4年）
- ・ 2時間半の活動時間内に遊び、学習、昼食、清掃をするため、毎回忙しくなってしまう、メンバー間で方針等をじっくり話し合う時間がほとんど持てません。そのため、メンバー間の意思疎通が不十分になってしまい、多少誤解が生じたり、意見が割れたりして、まとまりに欠けてしまうといった点があるので、メンバーをまとめるのに苦労しています。（東京都、30名未満、昭和61年）
- ・ メンバーの中で孤立する人が出ないように、派閥が出来ないようにすること。（東京都、30名以上50名未満、平成12年）
- ・ 一人で決めず、みんなの意見を聞くように心がけています。まとまらないと思った時のみパッパと決めることにしています。（石川県、30名未満、平成7年）
- ・ 会員登録もなし、会費もなし、役割分担の負担もほとんどなし、という状況で、リーダーと保健婦と限られたメンバーによる運営に行き詰まっています。（大阪府、平成8年）
- ・ 近所に住む人や同じ年齢の人でかたまりがちで、新しく入った人が馴染みにくいように思う。誰もが馴染みやすい雰囲気づくりに気を使う。（三重県、30名以上50名未満、平成9年）
- ・ 独善、独断的にならないように心がけている（客観的）。あえてまとまらず、どんな人でもその場に「いられる」雰囲気を大切にしたい（公共性）。（三重県、80名以上、平成11年）
- ・ メンバーの年齢が1才になったばかりから4才までと幅広く、この時期の2～3才の差はできる事にもかなりの差があるので、全員が楽しめる様にするのにとっても頭を悩ませています。（広島県、50名以上80名未満）
- ・ 考え方、価値観の違う人の集まりで各々の意見を尊重し、まとめることの難しさ。子育ての望ましい姿に気付き考えてもらう機会を作ることの難しさ。（三重県、80名以上、平成9年）

-
- ・まとめることが大変。良い活動をすれば、人はたくさん集まりますが、それだけ問題も増え、目が届かない時もあり、知らぬ間にもめていたり、辞めていきます。(熊本県、50名以上80名未満、平成11年)

学習情報、内容、プログラムづくり

- ・CAP (Child Assault Prevention : 子どもへの暴行防止) に興味を持つ方は、すでに地域でいくつもの役を引き受けていることが多く、あまり活動にかかわれないので、その点苦労します。(埼玉県、80名以上、平成10年)
- ・聴覚障害者で情報が足りないので、いろいろな学習(講習会、講演会)にのってくれる人を探すのが大変不便です。(大阪府、30名未満、平成5年)
- ・親中心ではなく、子どもが自分からできるプログラムを毎回提供したいが、なかなか難しい状況です。(大阪府、50名以上80名未満、平成2年)
- ・子どもの年齢層が広く、遊びを考えること、皆をまとめること、わかりやすく説明することに苦労しています。(50名以上80名未満、平成7年)

事故防止の方策

- ・事故などで怪我をされるのが怖い。(広島県、30名以上50名未満、平成元年)
- ・活動中の怪我、事故が起きたら、どう責任をとってあげたらいいのか、不安になる。(50名以上80名未満、平成8年)

場所の確保

- ・保健所は予約がたくさん入っていて、場所の確保に苦労しています。(石川県、50名以上80名未満、平成11年)
- ・場所の確保。時間あたりで支払うところを借りているが、人数が少ないサークルにとって毎回部屋代を出すのは少しきつい。(三重県、30名以上50名未満、平成10年)

スケジュール調整、連絡調整

- ・連絡方法として、メール等が市民に広く使われていないので、積極的に利用しづらく、ハガキ、FAXなどを併用せざるを得ない状況です。誰もが使える情報手段として、IT技術が国民の間に広く根付くことを希望します。(東京都、30名以上50名未満、昭和53年)
- ・皆となかなか会える日が合わないので大変。(東京都、30名未満、平成12年)
- ・連絡が行き届いているかどうかの確認。(東京都、30名未満、平成10年)

メンバーとの関係、コミュニケーション

- ・毎回、準備が大変で、時には自分の家庭も犠牲にしてやっている。メンバーたちは参加意欲も高く、まとまっているのだが、役割分担となると皆一様に「私なんて何もできないから」と引いてしまい、結局、リーダーが一人で背負ってしまう状況です。(埼玉県、30名以上50名未満、平成12年)

- ・メンバーの考えや意見をゆっくり聞くことができない。(石川県、30名以上50名未満、平成11年)
- ・30名を超えるお母さんたちの意見を一人ずつ聞くことができず、いろいろ不満を持っている人もいますが、それが間接的に耳に入ってくるとつらい。もっと、コミュニケーションをとる機会がほしい。(石川県、50名以上80名未満、平成10年)
- ・一部のメンバーが消極的になっているが、その理由が理解できるところもあり、悩んでいる。(大阪府、30名以上50名未満、平成11年)
- ・役割分担、仕事内容を考えすぎて、もっと任せていいところを取ってしまっていないかと日々悩みながら、試行錯誤の毎日です。(香川県、80名以上、平成9年)
- ・母親同士のコミュニケーションの時間があまり取れない。(広島県、50名以上80名未満)
- ・人と人とのコミュニケーション。(広島県、30名以上50名未満、平成2年)

仕事量が多いこと

- ・雑用が量的にとっても多く、時間がかかりとられること。(山形県、30名未満、平成7年)
- ・イベントが多く決めることがたくさんあること。(東京都、30名未満)
- ・現在、私は働いているので、時間的な余裕がなくなってきているので、他の係りの人に負担が回っていないか心配です。(三重県、50名以上80名未満、平成9年)
- ・サークルの結成から数年経ち、サークル自体も人数が増えてくるに従って、事務や会計処理が煩雑になり、それが一部の人の負担になりつつあるのが心配です。(三重県、50名以上80名未満、平成7年)
- ・電話連絡が多いのにびっくり。日頃やらなくてはいけない細かい仕事が多くて、たまに苦痛になる。(広島県、80名以上、昭和63年)
- ・サークルで出張しての活動のとき、準備や片付け等の時間が足りず、困る。(熊本県、50名以上80名未満、平成9年)

費用負担

- ・自主サークルのため、部屋代、ロッカー代、先生に対するお礼金などで、4000円/月近く、一人にかかります。そのため、見学にこられても、金額のことを話すと、入会を辞める方も多いです。女性センターを使用しているため、市から少しでも助成金がくれば、会員も集まるのではないかと思います。(熊本県、50名以上80名未満、平成2年)

予算、財政

- ・活動費が足りないこと。(群馬県、50名以上80名未満、平成元年)
- ・決められた予算の中で色々な季節行事を行うので大変です。(群馬県、80名以上)
- ・少ない予算で活動内容を充実させるにはどうすればよいか。(東京都、50名以上80名未満、昭和50年)
- ・会費の上手な使い方が出来ていない。(香川県、80名以上)
- ・人数がだんだん減ってしまい、金銭的に赤字になり困っています。(30名未満、平成12年)

参加者の拡大

- ・ 参加を呼びかけているが、参加者が多い時と少ない時がある。(滋賀県、平成6年)
- ・ 最近、保育所や幼稚園に早くから入る人が多くなったことと、サークルがあちこちに増えてきていることから、なかなか人が集まらない。(大阪府、30名未満)

男性の参加

- ・ 母親の数が少ないので増やすことと、男性の参加にも力を入れていきたい。(地域の広報誌などでの呼びかけ)(熊本県、30名未満、平成12年)

チャイルドシートについて

- ・ 双子のサークルですが、車の運転ができなかったり、エレベーターのない高層住宅に住んでいる場合、母親一人で双子を連れての外出は不可能です。一人の子どもを育てる以上に悩みがあって、同じ立場の人と交流したくても交流できずに、家でじっとしている母親を手助けしてあげられず困っています。メンバーの車に同乗させてあげたくても、チャイルドシートを最低4個も乗せなくてはならないし、電車に乗ろうと思っても、15kgもあるベビーカーでは、ホームにさえ行けません。(大阪府、80名以上、平成7年)
- ・ 平成12年4月にチャイルドシートが義務化されて以来、それまで乗り合わせて来ていたメンバーの交通手段がなくなり、参加人数が激減してしまった。(熊本県、30名以上50名未満、平成10年)

リーダーとしての評価、やりたいこととのギャップ

- ・ リーダーをしていると、結局1人になっているようで、子どもに友だちができていいのか、自分にも友だちができていいのか、最近すごく不安に思います。(大阪府、50名以上80名未満、平成10年)
- ・ 自分自身も楽しみたいのに裏方の仕事で終わってしまうこともあります。(大阪府、50名以上80名未満、平成11年)

サークルの方向

- ・ 市主導で子育てサークルをまとめる動きがあります。テーマの違いはあるが、集うことの重要性に期待したい。(埼玉県、30名以上50名未満、平成9年)
- ・ 男女による子育ての役割分担があまりにも異なり、性的違いを超えた子育ての話題になりづらい状況があるように思います。地域に子ども社会という位置づけが必要だと思います。(東京都、50名以上80名未満、昭和53年)
- ・ 毎年、年度の決算や予算の作成、年間計画表の作成が大変。(滋賀県、30名未満、平成9年)
- ・ 参加目的が当初は子どもを遊ばせる場所がほしいという人が多かったが、次第に母親自身のストレス解消の場として利用者が多くなり、気のあう母同士がおしゃべりして、その日のテーマ(レクリエーションなど)にのってこない人が多くなった。会のあり方について迷いがある。(三重県、80名以上、平成8年)

子育てサークルに対する理解

- ・ 子育てサークルに理解があるように思っていた方に「最近のお母さんはお子さんを怒らないから」と言われ、ショックを受けた。私たちは自分だけでなく、他の子もいけないことをしたら、注意するし、怒りもする。大人だけのグループには快く部屋を貸し、子連れには嫌な顔をする。もちろん、部屋は貸してはくれるが、借りにくくなった。同じ区民なのに納得がいかない。(東京都、30名以上50名未満、平成7年)
- ・ 三世代同居している者にとっては、育児サークルは息抜きのできる場所の一つとなっています。しかし、家を空けたり、家事をおろそかにしているように見えるらしく、あまりいい顔はされません。育児サークルは、老人会、青年団、婦人会のように地域の人に認めてもらえません。嫁、母親は家の事が優先という考えではなく、個人として息抜きをし、遠慮せずに話せる場所、相手が必要だと思います。(石川県、50名以上80名未満、平成5年)
- ・ 地域ぐるみの子育てという意識や活動が地域の人たちに十分理解されていない。徐々に働きかけるようにしているが、むずかしい。(香川県、80名以上、平成9年)

(2) サークルの抱える課題

育児サークルの方向

- ・ 乳幼児から小学校へと子どもが成長すると、学級崩壊といった内容のものに興味が出てきます。何が子どもたちの中で変わっているのか、何がそうさせているのか、家庭での躰が問題なのでしょうか。(山形県、30名以上50名未満、平成3年)
- ・ 育児サークルよりは、幼児教室のような所に入れたいと思っている母親が増えていること。(東京都、30名未満、昭和51年)
- ・ 「遊びの場」を提供することによって、母親たちが互いに友人を得て、情報交換をする中で、教えあう関係を築き、一人で子育てに悩まずに、支え合って「子育てを楽しむもの」にしていくと欲しいと願っている。母親たちからの相談は意外に少なく、友人を作ることによって解決していくことも多いようだ。そのより良き支援が課題である。(東京都、30名未満、平成9年)
- ・ お菓子を持ってきて、活動中、食べっぱなしの子どもが増えてきて、お菓子を食べに来ているのか、サークルに参加しているのか、分からなくなっている。お菓子持参を中止にするかどうか課題になっています。(大阪府、50名以上80名未満、平成12年)
- ・ 子育てサークルは、親育てサークルだと思います。今のお母さんは、ほとんど自分一人で子どもを育てている状況で、自分の時間が欲しいお母さんがたくさんいます。サークルに来て、人間関係でまた気を使うようではいけない、少しでもお母さんのストレスが発散されるような楽しいサークルにしようと話し合っています。(熊本県、30名未満、平成11年)

事業企画

- ・ 入会希望の子どもの低年齢化で、かなり活動内容を変えた1年でしたが、ほとんどの子どもが来年度も残るようなので、来年度の活動内容が課題になってくると思います。(山形県、30名以上50名未満、平成3年)

-
- ・今は気ままに活動しているが、今後もこのような活動方法でよいだろうか。何度か会い、会話をしていくことで、もっと子どもたちが喜んでくれて、成長していく過程で、何かを学んでくれるような活動を行っていききたい。(埼玉県、30名未満、平成11年)
 - ・企画性に欠けるので、みんなで案を出し役割分担していく。(東京都、30名未満、平成10年)
 - ・子どもが自主的、主体的にする活動を育てていくこと。(東京都、50名以上80名未満、昭和58年)
 - ・今春、幼稚園へ行く子どもが半数いるので、今後の活動内容をどうするか、課題です。(滋賀県、30名未満、平成10年)
 - ・マンネリをどうやって切り抜けるか。(大阪府、30名以上50名未満、平成6年)
 - ・これからの活動内容。新旧交代の時期になっているので、どのような形で今後サークルの活動をしていくのか、模索中です。(大阪府、50名以上80名未満、平成10年)
 - ・これからも子どもたちのための活動(遊び)だけでなく、お母さんたちの情報交換の場としても、サークルが機能していかなければならないと思っています。(広島県、30名以上50名未満、平成5年)
 - ・子どもの成長に合わせて、活動の内容を見直していかないといけないこと。(熊本県、30名以上50名未満、平成4年)
 - ・平成13年4月より公立の幼稚園が3年保育になるため、メンバーの年齢が低くなり、これからの活動内容をかなり工夫していかなければならない。(50名以上80名未満、平成5年)

運営方法

- ・実質的に保育士がリーダーとなっている現状を維持していくのか、保育士から一步距離をおいて、独立したサークルの形態をつくっていくべきかどうか。(群馬県、50名以上80名未満、昭和62年)
- ・いつでも新メンバー受け入れ中ですが、まだまだ、子どもを預けてまでと抵抗もあるようです。常に保育がついているサークルもあまりないのではないのでしょうか。(埼玉県、30名未満、平成9年)
- ・役員分担を決め、幅広い視野を持って、臨んでいった方がよいだろう。(東京都、30名以上50名未満、平成8年)
- ・協力してくれるボランティアスタッフの確保。(滋賀県、80名以上、平成2年)
- ・毎回の活動の中で、始まりから終わりまでの決まった流れや挨拶がないので、ただただ、時にはおしゃべりするだけになってしまうので、目的を持っていきたい。(大阪府、30名以上50名未満、平成12年)
- ・働く母親が増えてきているので、平日のサークル活動はどうかと思う。また、今は保育所がリーダーをしている状態なので、今後は母親・父親がリーダーになって活動していけたらと思う。(三重県、30名以上50名未満、平成7年)
- ・当番制にすることで、次年度の役員に誰が当たっても負担が偏らないようにと考えている。メンバー全員で作りあげたいとのねらいもある。(熊本県、30名以上50名未満、平成10年)

場所の確保

- ・ 広い会場の確保。年配の方のダンス、卓球などのサークルが多く、どこに行っても肩身が狭いのが実情です。育児サークルは活動する時間が限られてくるので、お年寄りの方々の理解をもっと得たいです。(山形県、50名以上80名未満、平成10年)
- ・ 子どもたちが自由に遊べる所。場所選びが大変です。場所があるのに、貸してもらえない。(群馬県、30名以上50名未満、平成10年)
- ・ 公民館は月に2回、抽選で場所をとるのですが、できれば、月4回同じ場所がとれるとよいと思います。他の2回は公団の集会所を利用しているのですが、ピアノもなく狭いので、やはり公民館が一番です。(埼玉県、30名以上50名未満、平成4年)
- ・ 無償の場所が不足している。(石川県、30名以上50名未満)
- ・ 場所は提供されているが、管理責任が誰にあるのかがはっきりしていないため、困る点が多々ある。(香川県、30名以上50名未満)
- ・ 現在、保育園の部屋を使用しているが、その部屋は保育室なので、使用する時間帯は空けてもらわなければならない。(三重県、50名以上80名未満、平成9年)
- ・ 母親の意識啓発のための場をどう設定するか。場所を定期的に提供してほしい。また、できれば資金も援助してほしい。(熊本県、30名未満、平成5年)
- ・ 場所の設備が不十分である。(熊本県、30名以上50名未満、平成7年)

メンバーの理解

- ・ お母さんたちにも参加意識を持ってもらえるよう、今後の課題にしていきたいと思っています。(群馬県、80名以上、平成7年)
- ・ クラブの方針を理解した上で入会してくれる人はいいのですが、友人に誘われて流される感じで入会してきた人には、あまり協力を望めずにいます。来年度は、クラブ方針を印刷して、入会する方に渡していけたらと思います。(埼玉県、50名以上80名未満、平成3年)
- ・ 参加者が「お客さん」的意識の母親が多いため、もう少し、指導する必要があると感じている。(滋賀県、50名以上80名未満、昭和60年)
- ・ 自分からサークルに参加しようとするタイプと、何かしてもらおうというタイプとがあり、一人一人自分たちで作っていくサークルだという意識を皆にもってほしいと思っていますが、どうすればよいか今は試行錯誤状態です。(大阪府、50名以上80名未満、平成12年)
- ・ 人数が少ないので、班に分けて活動する時、人任せで、積極的に参加してくれない人がいる。(広島県、30名以上50名未満、平成12年)

参加率の向上

- ・ 参加率が悪い。(山形県、30名以上50名未満、平成5年)
- ・ メンバーの募集とリーダーの育成。(山形県、30名以上50名未満、平成2年)
- ・ 三年保育で幼稚園に行くお子さんが多くなり、メンバーの交替が毎年半数以上あるので、4月の活動は人数を集めるのに大変です。(山形県、30名以上50名未満)
- ・ サークルを続ける人数を確保すること。(埼玉県、30名以上50名未満、平成3年)

-
- ・ 4月から幼稚園へ行くため、サークルをやめる人が多く（16組中10組）、新しいメンバー集めが今の課題です。（埼玉県、30名以上50名未満、平成5年）
 - ・ まだまだ子育てに困っている母親にサークルの情報が行き渡っていないと思うので、どのようにしたらいいのか悩んでいます。（香川県、30名以上50名未満、平成10年）
 - ・ 私たちのサークルは会員数が多く、活動に興味がない会員が多く、どのような活動内容にすれば、たくさんの参加者が集まれるかということ。（香川県、80名以上）

リーダーの引継ぎや後継者

- ・ 少人数サークルなので、一人でも辞めたりしたら、このまま続けていけるかどうか心配。（山形県、30名未満、平成11年）
- ・ 年度替りで、子どもが幼稚園、保育所等へ入ると、活動メンバーがいなくなる。（埼玉県、平成11年）
- ・ 目下の問題は企画、運営の「役割分担」をどうするかということ。また、現在リーダーをやっている私自身が、そろそろ仕事を始めたいと考えているため、後継者をどうするかということも問題になっている。（埼玉県、30名以上50名未満、平成12年）
- ・ 発足時から7年間代表を努めています。発足当時から3、4年ぐらい、本当に何かと大変でした。今はきちんとした基盤も出来上がり、サークル運営上、これといった問題はないのですが、そろそろ代表の交代を考えています。しかし、なかなか自分から立候補する人はいません。他のサークル等は1年ごとの交代のようですが、1年ではやっと覚えたかという頃に代わってしまうので、それもどうかと、色々考え中です。来月、サークルの総会があるので、相談して、今後のことを決めていきたいと考えています。（香川県、80名以上、平成7年）
- ・ メンバーの入れ替わりが多いので、リーダーも毎年変わり、4～5月の立ち上げ時は新代表グループの負担がとて大きい。引継ぎがもっとスムーズに出来るよう工夫しなければいけない。（広島県、30名以上50名未満、平成8年）
- ・ リーダーの後任選び。今年は立候補者がいなかったのので、くじ引きで決めたのですが、妊婦さんが多く、なかなかスムーズには決まりませんでした。（広島県、80名以上、平成11年）
- ・ 後継問題である。しっかりと後継ができれば、OGとして別サークルを作ってみようという意見も出ているが、現状はまだ、そこまでには至らない。（熊本県、80名以上、平成8年）

時間がない、とれない

- ・ 会員が増えていて、人数が多くなってしまい、個々の話をゆっくり聞く時間が取りにくい。（群馬県、80名以上、平成7年）
- ・ 母親同士がゆっくり喋れないこと。（大阪府、50名以上80名未満、平成10年）
- ・ 現在、年齢別にサークル日を設定して、火～金に「子育ての広場」として活動していますが、母親同士がなかなかゆっくり話し合う時間がとれない悩みがあります。（熊本県、80名以上、平成5年）

親のつながり

- ・ これから子どもの成長と共に幼稚園や小学校へ入ることになると、同じ市内に住んでいても地区が違い、離れていく人も多いので、自由解散になってしまいそうです。(東京都、30名未満、平成10年)
- ・ 入園等でのサークル卒業後も親同士つながっていけるか。(東京都、30名未満、平成12年)

社会の幅広い理解、地域への広がり

- ・ 私たちのサークルは障害(自閉症、知的・学習障害)をもつ子どもの母親の会です。こうした見た目では普通に見える障害児への理解が、まだまだ世間ではありません。この子たちが安心して、幸せに暮らしていけるよう、世間の人たちの知識と理解を高めていけるよう、今何をすべきか考えています。(石川県、50名以上80名未満、平成12年)
- ・ 住民の地域の行事にも参加していきたい。(香川県、80名以上、昭和56年)

ネットワーク

- ・ 他のサークルとのネットワークづくり(東京都、50名以上80名未満、平成11年)
- ・ 乳幼児という短い期間ですが、こうやって出来たネットワークは幼稚園、小学校と続いて、地域ネットワークにつながっていくと思うので、続けてくれるメンバーが出てくれることを願っています。(東京都、50名以上80名未満、平成12年)
- ・ 行政との信頼関係が出来ているため、今後、NPOを立ち上げて活動を広めていきたい。行政が分かりかねるところを情報提供し、孤立化するお母さん方のために(a) ガーデニング、親子プール、親子クッキング、ハイキング、リースづくりなど、月1~2回のイベントで町にポスターを貼ってメンバー募集、(b) サークルに出られない、出たくない人のためにホームページ開設、(c) a,bが出来ない人のためにラジオで毎月子育て談話を行っている。今後、日中、お母さん方がいつ来てもいいようなホールに大きな遊具を置いて、そこでファミリーサポートセンターや医師とのネットワーク等を行っていく予定。まず来年度は、ホールが開設し、よろずや相談員として、自分が配置されることとなった。行政のいいなりにならないように、皆のニーズに合わせたい。(石川県、80名以上、平成11年)
- ・ ホームページの開設。(香川県、80名以上、平成8年)
- ・ 地域にサークルが少ないので、最近、保健センターと協力し合っ、とにかく数を増やそうと活動を始めています。今後、一つのサークルを維持するだけでなく、広い目を見て、立ち上げの方に力を注いでいきたいと思っています。(大阪府、80名以上、平成5年)
- ・ 地域密着型のサークルになり、子育て中のお母さんたちが来て、楽しく、仲良く遊んだり、おしゃべりしたりできる場にしていきたい。(熊本県、50名以上80名未満、平成9年)

情報が少ない

- ・ 年間で行う大きな行事は決まっているものの、それ以外の活動内容に行き詰まっている。音楽に合わせたリズム体操等も行いたいが、情報が少なく、何を手本にして良いか分からない。(埼玉県、50名以上80名未満、平成2年)

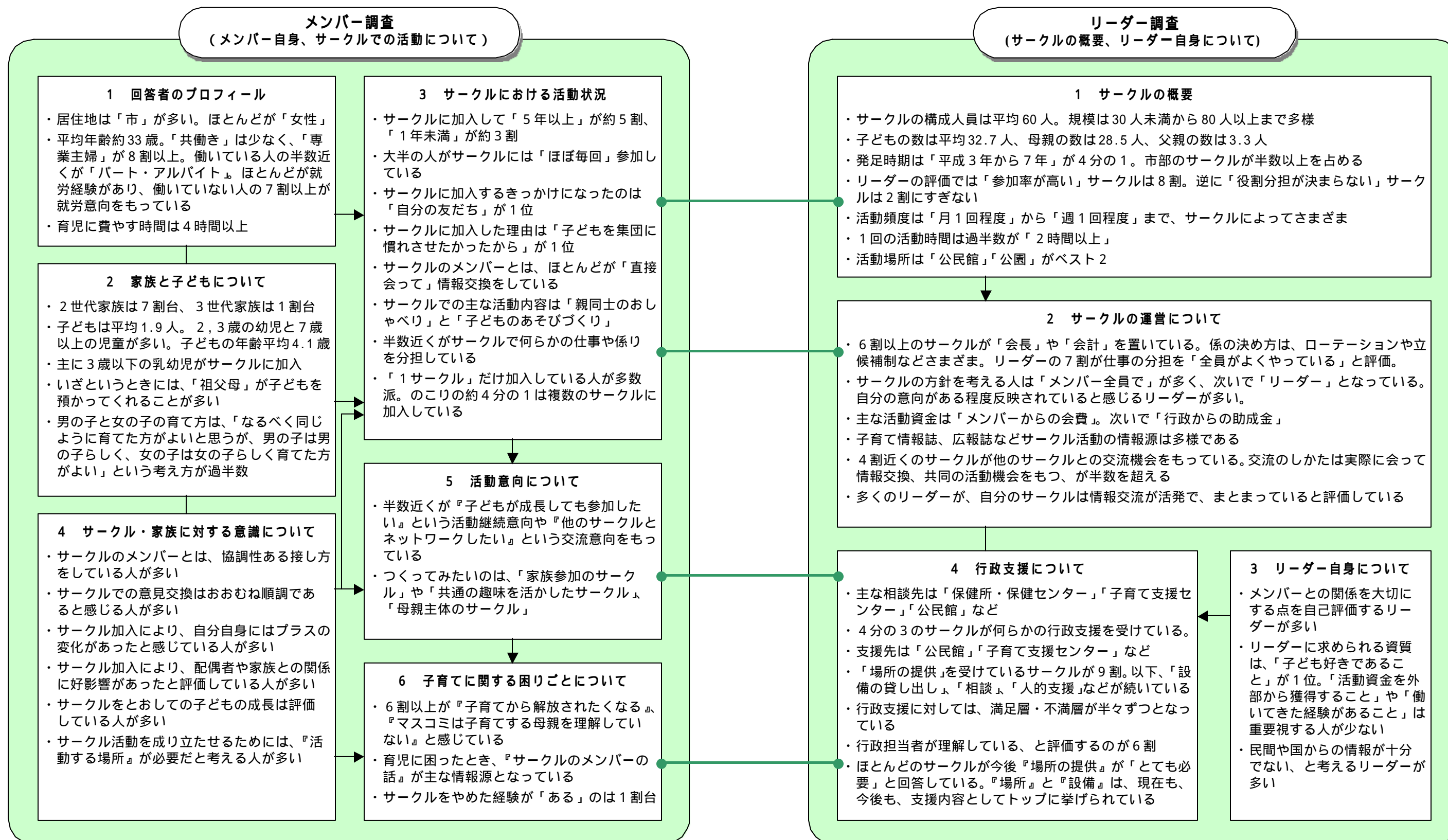
-
- ・ 絵本についての情報等が少なく、幅も広いので難しい。(群馬県、30名未満、平成7年)

行政支援

- ・ 国や市からの支援、NPO化はぜひ実現したい。(山形県、30名以上50名未満、平成3年)
- ・ もっと、子どもたちが楽しめる遊びを研究しなくては、ワンパターンになりがちです。育児雑誌等だけでは、いまひとつイメージが湧かないし、その都度購入していると、財政的にも厳しいので、もっと行政と関わり合いたいと思います。(埼玉県、30名未満、平成5年)
- ・ 地元自治体との連携。他地域からの転入者が多く、地元自治体と一体となって、サークルなどへの子育て支援の体制づくりを求めているが、なかなか地域の理解が得られない。もっと地域の支援を受けたい(公民館の提供など)。(大阪府、50名以上80名未満、平成11年)
- ・ 町村合併に向かう行政の体制変化により、行事のあり方も見直しが必要になってきています。これまで児童館の行事に参加していることが多かったので、「今後はサークル単独で」と言われることが予想されます。(香川県、平成4年)
- ・ 役場の担当者が変わり、非協力的になり、活動内容が制約されるようになった。(熊本県、50名以上80名未満、平成6年)

1 全体結果

メンバー調査(2章)及びリーダー調査(3章)の「全体結果」をまとめる。



2 自由意見

メンバー調査から

主に苦勞している点

- ・ 企画のアイデアがあまり出ないこと
- ・ 子どもの個性・年齢に合わせた企画
- ・ 計画的なサークル運営、活動や組織の発展ができないこと
- ・ 子どものケガや病気が心配であること
- ・ 利用しやすい活動場所がないこと
- ・ 交通手段や移動が不便であること
- ・ 参加者が集まらない・メンバーが増えないこと
- ・ リーダーや役職を担う人材がいないこと
- ・ 係りの負担が大きいこと
- ・ 日程調整が難しいこと
- ・ 活動時間の不足・確保すること
- ・ 活動資金が少ないこと・負担があること
- ・ とけこみやすい雰囲気づくり
- ・ 子どもがなじめないこと
- ・ 他の子どもへの接し方
- ・ 家族の理解が得られないこと
- ・ 家事や仕事との両立がむずかしいこと

サークルに対する主な要望など

- ・ 特色あるサークル・自分に合ったサークルを選びたい
- ・ 目的型の活動、自主的な活動がしたい
- ・ 積極的に参加したい・参加してほしい
- ・ 気軽に参加したい
- ・ サークルや子育てについての意見交換を活発にしたい
- ・ 個性的な事業・イベントをしたい
- ・ 小グループ化、盛り上げ方など組織運営の工夫が必要
- ・ 身近な活動場所やサークル向けの設備がほしい
- ・ 新しいメンバーの受け入れ・男性の参加を増やしたい
- ・ 活動回数を増やしてほしい
- ・ 幼稚園・保育園との連携があるとよい
- ・ 地域や周囲に理解してほしい
- ・ 社会的な活動がしたい
- ・ 他のサークルや地域との交流・ネットワークを増やしたい
- ・ サークル運営などのノウハウが共有されるべき
- ・ サークル情報をもっと提供してほしい
- ・ 行政支援を充実してほしい
(相談、人的支援、託児、資金、場所、設備など)

リーダー調査から

サークル運営で苦勞している点

- ・ リーダーの決定、リーダーのなり手がいないこと
- ・ まとめることや円滑な雰囲気づくり
- ・ 全員が楽しめる活動にすること
- ・ 学習情報・内容・プログラムづくり
- ・ 事故の防止策
- ・ 場所の確保
- ・ スケジュール調整・日程調整
- ・ メンバーとの関係、コミュニケーション
- ・ 仕事量が多いこと
- ・ 費用負担　・予算や財政が厳しいこと
- ・ 参加者の拡大　・男性の参加
- ・ 子育てサークルが理解されないこと　など

課題

- ・ 育児サークルの方向
- ・ 事業企画
- ・ 運営方法
- ・ 場所の確保
- ・ メンバーの理解
- ・ 参加率の向上
- ・ リーダーの引継ぎ、後継者
- ・ 時間がない・とれないこと
- ・ 親のつながり
- ・ 社会の理解、地域への活動の広がり
- ・ ネットワークの広がり
- ・ 行政支援　　など

(2) 子育てサークルと活動メンバーの平均像

ここで「全体結果」に加え、メンバーの属性別や未子年齢別、サークルの規模、拠点地の状況別などの「基本分析」でみた結果から、子育てサークルとその活動メンバーの平均像をまとめる。なお、このまとめは、あくまで本調査結果による平均値から整理したものであることに留意されたい。

〈サークル〉

- ・ 小規模サークルから大規模なサークルまで規模は多様。ほとんどが母親と子どものサークルで、父親の参加は少ない。参加状況は活発で、比較的まとまっていると感じるサークルが多い。地域の公民館や公園で活動するサークルが多い。
- ・ 小規模サークルはメンバー全員で、規模が大きいほどリーダー自身が方針を考えている。
- ・ 4割近いサークルが他サークルとの交流機会をもっており、4分の3のサークルが何らかの行政支援を受けている。いずれも規模が大きいほどその割合が高い。
- ・ 行政支援の内容は、場所の提供、設備の貸し出し、相談、人的支援の順。6割が行政担当者が理解していると感じている。今後必要な支援も、場所の提供、設備の貸し出しが上位。次いで情報支援。規模を問わず、どのサークルからも強い意向が寄せられている。
- ・ 半数以上のリーダーはある程度リーダーシップを発揮できていると評価。リーダーに求められる資質は子ども好きであること。民間や国からの情報が不十分と感じる人が多い。

〈メンバー〉

- ・ ほとんどが女性で平均年齢は約33歳。子どもの数は平均1.9人。子どもの平均年齢は4.1歳。過去に仕事に就いていたが、結婚や妊娠・出産で仕事をやめた人が多い。現在は無職だが就労意向をもつ人が多い。有職の人の半数近くはパート・アルバイトで働いている。7割以上が2世代世帯だが、いざというとき両親が子どもを預かってくれる人が多い。
- ・ サークルに加入したきっかけは自分の友だちや子どもの友だちに誘われて。加入期間は平均4年9ヶ月。8割以上がほぼ毎回参加し、半数近くが仕事や係りを分担している。サークル加入によって自分自身、配偶者や家族、子どもにもよい影響があったと感じる人が多い。区・市のほうが町・村よりもほぼ毎回参加していると回答した人が多い。
- ・ サークルメンバーとは、ほとんどが直接会って情報交換している。40代以上では電話の割合が高いのに対し、20代では携帯電話やPHS、30代ではEメール・メーリングリスト・掲示板の割合が比較的高く、年代により活用しているメディアが異なる。
- ・ 子育てから解放されたいと感じる人、マスコミが母親を理解していないと感じる人が6割以上。
- ・ 子どもが成長しても活動したい人や、他のサークルとネットワークしたい人は半数近く、未子が大きい人ほどそう感じている。別のサークルをつくりたい人は家族参加のサークルや共通の趣味を生かしたサークル、母親主体のサークルをつくりたい人が多い。

1 子育てサークル像を検討するためのタイプ分析

第3章・第4章での分析から、サークル規模別や設置年別でみた子育てサークルの状況の違いや、未子年齢別などでみたサークルメンバーの意向の違いなどが明らかになった。

ここで、さらに新しい子育てサークル像を描くために、リーダー・メンバー・サークルの数多い切り口の中から、一例として、新たな分析軸を1つずつ設定し、それぞれのタイプ別にみたサークルとリーダー、メンバーの状況を分析した。

(1) リーダー像の考察(メンバーへの支援や活動への関わり方別にみたリーダーのタイプ)

リーダー調査では、問13E「メンバーのやる気を起こさせるようにつとめている」と問13F「活動日以外にもサークルの仕事に時間を費やす」の回答結果を用い、メンバーへの支援と、リーダー自身の活動日以外の関わり方によるリーダー像を考察した。

Aタイプ：メンバー支援・自己活動タイプ

「メンバーのやる気」を起こさせるようつとめ、リーダー自身も「活動日以外」にもサークルの仕事に時間を費やしているタイプ。メンバーの支援についても、自分自身の係わり方についても最も積極的なリーダー像である。

このタイプは全体の半数にあたる52.5%。比較的規模の大きいサークルに多い。メディア等で紹介された経験が多く、地域の行政担当者との関係も密に行っている。リーダーシップを最も発揮できていると感じている。

Bタイプ：メンバー支援積極タイプ

「メンバーのやる気」を起こさせるようつとめているが、リーダー自身は「活動日以外」サークル活動に時間を費やさないタイプ。メンバーの支援には積極的であるが、活動はあくまで他のメンバーと同様、と考えるリーダー像である。

このタイプのリーダーは全体の20.0%。係以外のメンバーを含む活動を比較的多く行っている。リーダーシップ達成感は平均的。

Cタイプ：自己活動積極タイプ

リーダー自身は「活動日以外」にもサークルの仕事に時間を費やしているが、「メンバーのやる気」を起こさせるようには特につとめていない。リーダーとしての使命感のもと、自分自身の仕事をばりばりこなすリーダー像と考えられる。

このタイプのリーダーは全体の1割程度の11.6%で、数は少ない。係を集めた活動や係以外のメンバーを集めた活動の頻度が最も多いが、リーダーシップを発揮できていると感じる人が最も少ない。

Dタイプ：いずれにも属さないタイプ

上記のいずれにもあてはまらないタイプ。全体の14.9%であり、比較的規模の小さなサークルや新しいサークルに多く、メディアでの紹介も少なく、活動頻度なども4タイプ中最も少ない。このタイプのリーダーがいるサークルは、メンバー・リーダーの関係が並列であ

ったり、組織的に成長中であることなどが予想される。(図表5 - 2 - 1)。

図表5 - 2 - 1 リーダーのタイプ別にみた主な調査結果(リーダータイプ別)

	n	内訳 (%)	問1A	問3D	問3E	問4 活動頻度		問13A
			サークルの規模 (メンバー総数)	メディア等で紹介されたことがある	地域の行政担当者 と連絡をとるよう にしている	係りを集めた活動	係り以外のメンバーを含む活動	発揮できていると 思う リーダーシップを
			平均	《該当》	《該当》	月あたり 平均	平均	《該当》
全 体	571	100.0	60.6人	38.0	50.4	2.4回	2.7回	66.2
メンバー支援・自己活動タイプ	300	52.5	71.7人	46.7	59.0	2.4回	2.6回	80.0
メンバー支援積極タイプ	114	20.0	44.6人	24.6	42.2	2.4回	2.7回	64.9
自己活動積極タイプ	66	11.6	65.0人	43.9	40.9	2.7回	2.9回	35.3
いずれにも属さないタイプ	85	14.9	38.1人	22.4	38.8	2.3回	2.6回	50.0

(*)市部：問1C「政令指定都市」、「人口30万以上の市」、「人口30～10万の市」、「人口10万未満の市」の合計

リーダーの分類

問13『D.メンバーのやる気を起こさせるようにつとめている』『E.活動日以外にもサークルの仕事に時間を費やす』の各項目の回答結果から、《該当》(「あてはまる」「非常にあてはまる」の合計)または《非該当》(「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計)と答えた人を以下のように分類した。

Aタイプ：メンバー支援・自己活動タイプ

『メンバーのやる気を起こさせる』 《該当》、『活動日以外も時間を費やす』 《該当》

Bタイプ：メンバー支援積極タイプ

『メンバーのやる気を起こさせる』 《該当》、『活動日以外も時間を費やす』 《非該当》

Cタイプ：自己活動積極タイプ

『メンバーのやる気を起こさせる』 《非該当》、『活動日以外も時間を費やす』 《該当》

Dタイプ：いずれにも属さないタイプ

『メンバーのやる気を起こさせる』 《非該当》、『活動日以外も時間を費やす』 《非該当》

(2) メンバー像の考察 (提案・相談タイプ別にみたメンバーのタイプ)

メンバー調査では、問11C「サークルでは自分の意見やアイデアを出す」と問11E「リーダーによく相談する」の回答結果を用い、サークルでの係わり方にみたメンバーのタイプによるメンバー像を考察した。

Aタイプ：提案・相談ともに積極タイプ

自分の意見やアイデアを積極的に出し、リーダーにもよく相談するというタイプ。サークルに積極的に働きかけ、変えていこうという意欲的なメンバー像である。

このタイプは全体の38.0%で最も多く、サークル経験年数はあまりさほど長くないが、年齢がやや高い人が多い。「ストレスを発散したかった」から加入した人が比較的多く、サークルに加入した結果「打ちこめるものが見つかった」と感じる人が多い。

Bタイプ：提案積極・相談消極タイプ

自分の意見やアイデアを積極的に出すが、リーダーには相談しないタイプ。サークル活動の運営や企画については、最も意欲的なタイプ。

このタイプは全体の23.6%。子どもの平均年齢が高く、末子の年齢も高い人が多い。「時間があつたから」加入した人が多く、サークルでは「子育てのアイデアの交換」をよく行っている。

Cタイプ：相談積極・提案消極タイプ

リーダーによく相談するが、自分の意見やアイデアは積極的には出さないタイプ。

このタイプは全体の9.0%で最も少ない。「子育て情報を入手したかった」「友だちに誘われた」から加入した人が多く、経験年数は4タイプ中最も長い。サークル加入の成果はAタイプに次いで強く感じており、とくに「人とのつきあいがうまくなった」「配偶者が理解を示すようになった」人が多い。家族やサークルの人間関係などを重視するタイプといえよう。

Dタイプ：いずれにも属さないタイプ

上記のいずれにも属さないタイプ。このタイプは27.3%おり、平均年齢が比較的低く、末子が0～2歳という人が7割を超えている。「子どもを集団に慣れさせたかったから」、「子育て情報を入手したかったから」加入した人が多く、まだサークル加入の成果を感じられない人が比較的多くなっている(図表5-2-2～4)。

図表5-2-2 プロフィール(メンバータイプ別)

	n	内訳 (%)	問21 居住地		問23 年齢	問31 子ども の数	問31 子ども の年齢	問31 末子年齢	
			区・市	町・村	平均	平均	平均	0-2歳	3-5歳
全体	2,195	100.0	75.0	24.1	33.0歳	1.9人	4.1歳	60.5	33.7
提案・相談ともに積極タイプ	835	38.0	78.0	21.6	33.4歳	2.0人	4.4歳	55.3	36.8
提案積極・相談消極タイプ	519	23.6	76.5	22.7	33.3歳	1.9人	4.5歳	57.4	37.0
相談積極・提案消極タイプ	197	9.0	68.0	31.0	32.4歳	1.8人	3.3歳	67.5	27.9
いずれにも属さないタイプ	600	27.3	72.3	26.7	32.1歳	1.7人	3.8歳	70.2	27.2

図表5 - 2 - 3 加入の理由（メンバータイプ別）

	n	問4 加入理由						
		子どもを集団に慣れさせたかったから	遊び場を探したかったから	話し相手が欲しかったから	子育て情報を入手したかったから	友だちに誘われたから	時間があつたから	よかったからストレスを発散した
全 体	2,195	70.6	48.6	46.7	44.8	38.9	30.9	30.6
提案・相談ともに積極タイプ	835	68.3	47.1	49.3	49.0	38.2	27.9	36.3
提案積極・相談消極タイプ	519	68.4	49.9	49.1	44.5	37.0	36.0	29.9
相談積極・提案消極タイプ	197	74.7	50.5	40.8	38.5	38.5	32.0	23.7
いずれにも属さないタイプ	600	79.2	47.2	48.2	49.2	48.2	28.9	29.9

(*) 問4 加入理由は、全体の上位7項目を抜粋

図表5 - 2 - 4 サークルに加入してよかったこと（メンバータイプ別）

	n	問9B	問10A	問10B	問10C	問11C
		子育てのアイデアが多い交換することが	打ち込めるものが	興味・関心が広がった	人がうまくなった	配偶者は活動参加に理解を示すようになった
全 体	2,195	《該当》	《該当》	《該当》	《該当》	《該当》
提案・相談ともに積極タイプ	835	84.6	43.2	72.2	65.9	79.5
提案積極・相談消極タイプ	519	92.1	63.8	84.1	78.3	84.7
提案積極・相談消極タイプ	519	88.5	38.0	72.8	62.2	77.4
相談積極・提案消極タイプ	197	85.8	38.6	74.6	70.0	85.8
いずれにも属さないタイプ	600	70.3	20.0	54.7	49.8	72.4

メンバーの分類

問11『C. サークルでは積極的に自分の意見やアイデアを出す』『E. リーダーによく相談をする』の各項目の回答結果から、《該当》（「あてはまる」「非常にあてはまる」の合計）または《非該当》（「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計）と答えた人を以下のように分類した。

Aタイプ：提案・相談ともに積極タイプ

『自分の意見やアイデアを出す』 《該当》、『よく相談する』 《該当》

Bタイプ：提案積極・相談消極タイプ

『自分の意見やアイデアを出す』 《該当》、『よく相談する』 《非該当》

Cタイプ：相談積極・提案消極タイプ

『自分の意見やアイデアを出す』 《非該当》、『よく相談する』 《該当》

Dタイプ：いずれにも属さないタイプ

『自分の意見やアイデアを出す』 《非該当》、『よく相談する』 《非該当》

(3) サークル像の考察 (交流や行政支援の有無別にみたサークルタイプ)

リーダー調査では、問 11 (交流の有無) と、問 17 (行政支援の有無) の回答結果を用い、サークル像を考察した。

Aタイプ：行政支援・交流機会ともにあるタイプ

このタイプは全体の 33.8% を占め、最も多い。比較的規模の大きいサークルが多く、メンバーの参加率も高い。行政支援に対しては、満足度が最も強いが、「人的支援」、「学習研修」、「財政的支援」、「相談」などを比較的強く求めている。

Bタイプ：交流機会があるが行政支援を受けていないタイプ

このタイプは最も少なく 5.1% となっている。比較的市部に多く、規模はやや小さいサークルが多い。メンバーの参加率は 4 タイプ中最高であるが、行政支援の満足度は平均的だが、「場所の提供」や「情報支援」などをとくに強く求めている。

Cタイプ：行政支援を受けているが交流機会がないタイプ

このタイプが最も多く全体の 4 割を超える 41.2% となっている。規模は今回調査のほぼ平均に近く、メンバーの参加率も同様である。行政支援の満足度は、4 タイプ中最も低くなっている。

Dタイプ：行政支援・交流機会ともないタイプ

このタイプは 18.7% となっている。サークル規模が小さく、メンバーの参加率も 4 タイプ中では低い。行政支援の満足度は半数程度。支援内容では「人的支援」、「学習・研修」よりむしろ「情報支援」を強く望んでいる。(図表 5 - 2 - 5, 6)。

図表 5 - 2 - 5 サークルのプロフィール (サークルタイプ別)

	n	内訳 (%)	問1A	問1C		問3A	問18
			サークルの規模 (メンバー総数)	サークルの拠点地		メンバーの参加率	行政支援の満足度
			平均	市部*1	町・村部	《該当》	《満足派》*2
全体	571	100.0	60.6人	58.3	34.0	79.7	66.2
行政支援・交流機会ともにあるタイプ	193	33.8	67.0人	60.0	33.0	81.3	80.0
交流機会があるが行政支援ないタイプ	29	5.1	52.9人	68.8	36.0	89.7	64.9
行政支援あるが交流機会ないタイプ	235	41.2	59.6人	53.6	27.2	78.7	35.3
行政支援・交流機会ともないタイプ	107	18.7	48.6人	63.5	40.0	76.6	50.0

(*1)市部：問 1C「政令指定都市」、「人口30万以上の市」、「人口30～10万の市」、「人口10万未満の市」の合計

(*2)満足派：「充分満足している」、「まあ満足している」の合計

図表5 - 2 - 6 行政支援のあり方について（サークルタイプ別）

	n	問20 行政支援のあり方について (必要:「とても必要」と「少し必要」の合計)						
		A 場所の 提供	B 設備の 貸出し	C 情報 支援	D 学習・ 研修	E 人的 支援	F 財政的 支援	G 相談
全 体	571	96.7	94.9	76.6	82.2	90.9	74.9	89.4
行政支援・交流機会ともにあるタイプ	193	98.4	95.8	94.9	83.5	90.2	81.3	92.2
交流機会あるが行政支援ないタイプ	29	100.0	89.6	93.1	75.8	79.3	68.9	75.9
行政支援あるが交流機会ないタイプ	235	96.6	96.2	89.3	74.1	82.5	77.4	91.9
行政支援・交流機会ともないタイプ	107	97.2	96.2	90.7	64.4	71.0	70.1	85.9

サークルの分類

問 11 他のサークルとの交流の有無と問 17 行政からの支援の有無の各問の回答結果から、サークルのタイプを以下のように分類した。

Aタイプ：行政支援・交流機会ともにあるタイプ

他のサークルとの交流 「ある」、行政からの支援 「受けている」

Bタイプ：交流機会があるが行政支援を受けていないタイプ

他のサークルとの交流 「ある」、行政からの支援 「受けていない」

Cタイプ：行政支援を受けているが交流機会がないタイプ

他のサークルとの交流 「ない」、行政からの支援 「受けている」

Dタイプ：行政支援・交流機会ともないタイプ

他のサークルとの交流 「ない」、行政からの支援 「受けていない」

2 子育てサークルの全体像と今後の方向

以上の結果から得られた子育てサークル像をまとめると次の通りとなる。

(1) 子育てサークルの全体像

調査からみた子育てサークルの全体像

<サークルの主な傾向>

- ・サークルの構成人員は平均60人。規模は30人未満から80人以上まで多様
- ・リーダーの評価では「参加率が高い」サークルは8割
- ・活動頻度は「月1回程度」から「週1回程度」まで、サークルによってさまざま
- ・サークルの方針を考える人は「メンバー全員で」が多く、次いで「リーダー」となっている
- ・4割近くのサークルが他のサークルとの交流機会をもっている。交流のしかたは「実際に会って」、「情報交換」、「共同の活動機会をもつ」が半数を超える
- ・多くのリーダーが、自分のサークルは情報交流が活発で、まとまっていると評価している
- ・主な相談先は「保健所・保健センター」「子育て支援センター」「公民館」など
- ・4分の3のサークルが何らかの行政支援を受けている。支援先は「公民館」、「子育て支援センター」など
- ・「場所の提供」を受けているサークルが9割。以下、「設備の貸し出し」、「相談」、「人的支援」などが続いている
- ・行政支援に対しては、満足層・不満層が半々ずつ
- ・ほとんどのサークルが今後『場所の提供』が「とても必要」と回答している。『場所』と『設備』は、現在も、今後も、支援内容としてトップに挙げられている

<リーダーの主な傾向>

- ・メンバーとの関係を大切にすることを自己評価するリーダーが多い
- ・リーダーに求められる資質は、「子ども好きであること」が1位。「活動資金を外部から獲得すること」や「働いてきた経験があること」は重要視する人が少ない
- ・民間や国からの情報が十分でない、と考えるリーダーが多い

<メンバーの主な傾向>

- ・平均年齢約33歳。女性が多い。「共働き」は少なく、ほとんどが就労経験があり、働いていない人の7割以上が就労意向をもっている
- ・子どもの平均人数は1.9人。2,3歳の幼児と7歳以上の児童が多い。子どもの平均年齢は4.1歳
- ・サークルの平均加入年数は約4年9ヶ月
- ・大半の人がサークルには「ほぼ毎回」参加
- ・サークルに加入するきっかけになったのは「自分の友だち」、加入した理由は「子どもを集団に慣れさせたかったから」が1位
- ・サークルのメンバーとは、ほとんどが「直接会って」情報交換をしている
- ・サークルでの主な活動内容は「親同士のおしゃべり」と「子どものあそびづくり」
- ・半数近くがサークルで何らかの仕事や係りを分担している
- ・サークルのメンバーとは、協調性ある接し方をしている人が多い
- ・サークル加入により、自分自身にはプラスの変化があったと感じている人が多い
- ・サークル加入により、配偶者や家族との関係に好影響があったと評価している人が多い
- ・サークルをとおしての子どもの成長は評価している人が多い
- ・サークル活動を成り立たせるためには、『活動する場所』が必要

全体結果から

基本分析から

- ・サークルの規模が小さいところは、係りが少なく、方針はメンバー全員で決めているところが多い。
- ・規模が大きいところは、係りの構成や分担の仕方が組織的になっており、活動資金は、行政からの助成金やバザーなどが多く、規模が大きいほど会費の平均額が低い。規模が大きいほど行政支援を受けているところが多い。
- ・参加率が高いサークルは、リーダーの意向がよく反映されているところが多く、メンバーのまとまりがよい。また、他サークルと共同で活動しているところが多い。

- ・区・市部は、サークル活動への参加頻度が高い。また、他のサークルとの交流が比較的多い。
- ・若い年代は、子どもの遊び場だけでなく、自分の話し相手や子育て情報の要望やストレス発散など、さまざまなサークル加入の動機を抱えている。情報交換は、携帯電話やPHS、Eメールなど、多様なツールを使っている。
- ・40代以上は、友だちに誘われて加入した人が多く、直接話すほかは電話で情報交換している。

タイプ分析から

A．行政支援・交流機会ともにあるタイプ	33.8%
B．交流機会があるが行政支援を受けていないタイプ	5.1%
C．行政支援を受けているが交流機会がないタイプ	41.2%
D．行政支援・交流機会ともないタイプ	18.7%

A．メンバー支援・自己活動タイプ	52.5%
B．メンバー支援積極タイプ	20.0%
C．自己活動積極タイプ	11.6%
D．いずれにも属さないタイプ	14.9%

A．提案・相談ともに積極タイプ	38.0%
B．提案積極・相談消極タイプ	23.6%
C．相談積極・提案消極タイプ	9.0%
D．いずれにも属さないタイプ	27.3%

(2) 子育てサークルの今後の方向と行政支援のあり方

今回の調査は、全国で活躍する子育てサークルの概要（規模や成り立ちなど）や各サークルが抱える課題と行政支援の必要性、またそこで活動するサークルメンバーの状況や意向を明らかにした初めての調査であり、子育てサークルが子育て活動の輪を広げていくために必要な行政や企業からの支援のあり方を考える貴重な資料となるものである。

今回の調査では、改めて子育てサークルの活動が工夫に満ち多様であることと、それらの多様性が、都市規模などよりも、サークル規模や成り立ちの違いによってもたらされているようすが浮き彫りとなった。また、サークルを構成するリーダーやメンバーの多くは結婚・出産などを機にいったん仕事を離れた30代前半の女性であるが、サークル加入の動機、係わり方、サークルに期待することは多様であり、それらがサークルの個性につながっていることなどもうかがえた。

そこで、最後に、サークル活動を通して子ども・家族・自分がどう成長していくのか、またサークル組織そのものがどのように充実・発展していくのか、という視点から、子育てサークルに期待される方向を3つほどあげ、それぞれの方向ごとに、調査結果のまとめと行政支援のあり方について整理する。

子育てサークルが、子育て活動と交流の場として成長していくために

今回調査においては、公共施設で活動し、現在「場所の提供」を受けているものの、今後も「場所の提供」を最も必要と考えるサークルが非常に多く、改めて、子育てサークルが場所の確保に苦勞をしているようすがうかがえる結果となった。

子育てサークルを育成していくためには、すでに活動しているサークルには継続的に、また今後活動を興したいサークルには新たに、場の提供に関する支援策が重要な課題になるといえよう。

また情報については、今後受けたい行政支援として「情報支援」を挙げるサークルが多いことから、サークル活動に関する情報ネットワークの整備や、サークル情報が一覧できる情報紙、掲示板、地域メディアの活用、インターネットのポータルサイトなども有効になろう。サークル活動や運営に関する事例集を作ることも効果的である。子育てサークルの担当や相談窓口が地域振興、保健・福祉、教育委員会、女性問題と多様である現状では、サークル情報が分散しないよう行政や地域での情報連携の工夫が重要である。

さらに、自由回答などから挙げられるような、サークルに参加できない人たちへの声かけ、ネットワークの支援、一時保育など多数支援策も考えられる。

いずれも子育てサークルが個性を伸ばし、自主的な活動を続けていくための、基盤整備や側面的支援が最も望まれているといえる。

子育てサークルが、エンパワーメントの場として成長していくために

子育てサークルには、友だちに誘われて、子どもを集団になれさせたいという動機で加入した人が多いが、親同士のおしゃべりや子どものあそびづくりなどの活動を通し、自分自身も子どもも配偶者や家族関係も、よい方向に変化したと、指摘する人が多い。しかしリーダー調査では、リーダーとしてサークルのとりまとめ、プログラムづくり、連絡調整、予算・財政など仕事が大変という意見が多く、それがリーダーのなり手不足につながっているという指摘もみられる。

「子育てサークルは親育てサークル」という自由回答もあるように、子育てサークルでの経験を「力をつける（エンパワーメント）機会」ととらえるならば、今後はサークルメンバーに対し、子育てや性別役割分業の解消などに関する学習機会の充実や、リーダーに対する企画・運営のノウハウ支援などが非常に有効である。

また、今回の調査の結果からは、サークル活動の参加者は圧倒的多数を女性が占めていることが明らかとなった。しかし、性別役割分業の解消のためには、母親だけでなく父親の子育て参加が必要である。したがって、子育てサークルの活動の中に父親をどのように参加させていくのか、男女ともに参加できるサークル活動について考えていくことが必要である。

子育てサークルが、提言・発言する活動主体として成長していくために

サークルに求める役割を「子育て活動」をとともにすることだけではない、と考える人は多く、半数近いメンバーが「子どもが成長しても参加したい」「他のサークルとネットワークしたい」と感じている。

実際、OBによる「子育て支援サークル」なども地域で活躍しているが、それ以外にも「家族で参加するサークル」や「共通する趣味を活かしたサークル」をつくりたいと考える人も少なからずみられる。

他方、リーダーは「国や民間からの情報が十分でない」と考える人が多く、「子育てサークルに対する幅広い理解」（リーダー調査自由回答より）がもっと必要だという人も多い。

今後、幼児虐待などの問題が深刻化するなかで、子育てのあり方を話し合い、子育てサークルに対する理解を深めていくために、子育てサークル相互のネットワークと情報発信や、「子育てネットワークを地域ネットワーク化」（リーダー調査自由回答より）していくようなネットワーク支援が必要になると考えられる。ネットワーク化を図るためには、サークル間の情報交換や交流の場を作るなど「開かれたサークル活動」を推進していくことが望まれる。

子育てサークルの活動に関する調査

調査票回答についてのお願い

このアンケート調査は、子育てサークルで活動するリーダーの方とサークルメンバーの方にご回答をお願いするものです。ご記入いただいたアンケート票は、2月5日(月)までに同封の返送用封筒に入れて、お近くの郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です)

お答えいただいた内容はすべて数字で処理されますので、お名前が出たり、ご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。

回答は、あてはまる番号に をつけるか、数字を記入してください。各設問によってつける数や数字を記入する数が異なりますので、そのつど書いてある記入方法に沿ってご記入ください。また、その他に をつけた場合は、適宜ご記入ください。

はじめに、あなたが所属している育児サークルについてうかがいます

問1. あなたは育児サークルに入ってどれくらいたちますか。

N=2,195

(%)

平均	56.6	ヶ月
----	------	----

問2. あなたは、どれくらいの頻度でサークルに参加していますか。

あてはまる番号に 一つ をつけてください。

N=2,195

(%)

1. ほぼ毎回	82.9	2. 2回に1回程度	11.0
3. 3回に1回程度	3.6	4. 4回に1回以下	2.3
		無回答	0.2

問3. あなたが育児サークルに入るきっかけになった人・もの・場について、

あてはまる番号に すべて をつけてください。

N=2,195

(%)

1. 自分の友だち	49.0	2. 配偶者	1.1
3. 配偶者以外の家族	3.0	4. 子どもの友だち	26.8
5. 母親学級など自治体が主催するセミナー			12.5
6. インターネット	0.4	7. 育児雑誌などの情報誌	2.5
8. ミニコミ誌	1.5	9. 自治体の広報誌	21.4
10. 公園などの遊び場	13.0	11. 趣味	1.2
12. その他	20.5	無回答	0.4

**問 4 . 育児サークル加入の理由は何ですか。
あてはまる番号にすべて をつけてください。**

N=2,195

(%)

1 . 友だちに誘われたから	38.9
2 . 時間があつたから	30.9
3 . 遊び場を探したかつたから	48.6
4 . 話し相手が欲しかつたから	46.7
5 . 子育て情報を入手したかつたから	44.8
6 . ストレスを発散したかつたから	30.6
7 . 自分の子どもと常に一緒に精神的に煮詰まっていたから	13.7
8 . 自分の子どもを集団に慣れさせたかつたから	70.6
9 . なんとなく興味があつたから	16.6
10 . その他	10.5
無回答	0.3

**問 5 . どのような方法でメンバーと情報交換をしていますか。
あてはまる番号にすべて をつけてください。**

N=2,195

(%)

1 . 直接会つて	96.5
2 . 電話	60.1
3 . 手紙またはファックス	14.2
4 . 情報誌またはミニコミ誌	4.8
5 . 電子メールやメーリングリストまたはホームページの掲示板	9.5
6 . 携帯電話やPHS	6.6
7 . その他	2.0
無回答	0.7

**問 6 . あなたは、育児サークルではどのような活動をしていますか。
あてはまる番号にすべて をつけてください。**

N=2,195

(%)

1 . 子どものあそびづくり (絵本の読み聞かせなど)	73.0
2 . 親同士のおしゃべり	87.4
3 . 父親を含む家族単位の交流	4.1
4 . 他の育児サークルとの交流	9.7
5 . 子育てに関する悩みの相談	48.2
6 . 子どもを除く家族に関する悩みの相談	9.7
7 . 情報誌の編集	7.3
8 . 資金の収集・管理	10.0
9 . 行政へのはたらきかけ	4.4
10 . その他	7.5
無回答	0.5

問7．育児サークル活動であなたが特に分担している仕事または係りはありますか。

N=2,195

(%)

1．はい	45.8	2．いいえ	53.8	無回答	0.4
------	------	-------	------	-----	-----

付問．問7で「1．はい」と答えた方にうかがいます。

分担しているのはどのような仕事または係りですか。

n=1,005

(%)

記入あり	97.6	記入なし	2.4
------	------	------	-----

問8．次のことは、どの程度あなたにあてはまりますか。

A～Gそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
(例)					
A．メンバーの意見にあわせることがある	1	②	3	4	
A．メンバーの意見にあわせることがある	24.6	61.6	10.8	2.6	0.4
B．服装や話し方など他のメンバーの雰囲気にあわせるようにする	5.0	28.8	40.3	25.4	0.5
C．サークルでは積極的に自分の意見やアイデアを出す	20.9	42.3	29.6	6.8	0.4
D．他のメンバーの子どものことが気になる	9.6	40.0	37.2	12.6	0.6
E．リーダーによく相談をする	15.9	31.2	34.4	16.6	2.0
F．メンバーに頼まれたことはできるだけひきうける	46.6	46.1	5.6	1.2	0.6
G．メンバーの中で孤立していると感じることがある	0.9	8.9	38.2	51.5	0.5

問9．育児サークルについて、A～Eそれぞれについてあてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A．子育てや家庭の悩みをメンバー間で本音で出し合える	26.2	52.4	17.7	3.4	0.3
B．子育ての方法についてアイデアを交換することが多い	31.2	53.4	13.5	1.6	0.3
C．メンバーはまとまっている	24.7	57.5	15.2	2.1	0.5
D．メンバー間に派閥のようなものがあると感じることがある	3.2	15.7	37.3	43.4	0.5
E．サークルの運営方針についてメンバー間で意見が割れることがある	1.3	11.1	46.0	41.0	0.6

問10．育児サークルをとおしてあなた自身はどのように変わりましたか。

A～Jそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A．自分が打ち込めるものが見つかった	9.8	33.4	41.6	14.5	0.6
B．自分の興味・関心が広がった	21.2	51.0	21.6	5.7	0.4
C．人とのつきあい方がうまくなった	10.4	55.5	28.9	4.6	0.6
D．自分の子どものことがよく理解できるようになった	14.8	63.1	19.4	2.4	0.4
E．自分の子どもの育て方に自信がついた	8.7	50.7	36.4	3.6	0.6
F．他の子どもとも積極的に関われるようになった	29.1	57.1	11.7	1.8	0.4
G．メンバーの気持ちを受け止められるようになった	11.6	62.6	22.7	2.6	0.5
H．親同士の間人間関係がうっとおしくなった	1.1	7.7	41.8	49.0	0.4
I．自分の子どもにかまう時間が少なくなった	2.0	9.2	38.8	49.7	0.4
J．育児に関する悩みが増えた	0.8	4.4	38.1	56.3	0.4

問11. 育児サークルに参加するようになって、配偶者や家族との関係はどのように変わりましたか。A～Dそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A. 配偶者と子育てについて話し合う機会が多くなった	17.6	47.2	26.6	8.1	0.5
B. 配偶者と子育て以外話題をするようになった	12.0	35.3	40.7	11.4	0.5
C. 配偶者はサークル活動に参加することに理解を示すようになった	41.0	38.5	14.4	5.3	0.7
D. サークル活動によって家族で過ごす時間が少なくなった	0.6	3.0	29.3	66.6	0.5

問12. 育児サークルに参加するようになってあなたのお子さまはどのように変わりましたか。A～Hそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A. 自分が夢中になれることが見つかった	9.3	39.8	40.5	9.2	1.2
B. 自分の興味・関心が広がった	22.4	55.9	16.4	4.1	1.1
C. 他の子どもとうまく遊べるようになった	28.5	53.3	14.5	2.8	1.0
D. 周囲の状況に気を配るようになった	11.8	45.7	34.7	6.7	1.1
E. 集団の中で自信をもって行動できるようになった	15.3	48.2	30.1	5.5	0.9
F. 他の子どもに積極的に声がけできるようになった	20.5	45.7	26.1	6.7	1.0
G. サークルでの親の活動に興味をもつようになった	10.8	31.3	41.7	15.3	1.0
H. 人に対する好き嫌いがはっきりしてきた	4.6	18.3	51.8	24.2	1.0

問13. あなたは、育児サークル活動を成り立たせるためには、どのような条件が必要だと考えますか。A～Nそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	絶対に必要	あると望ましい	どちらでもない	必要ない	無回答
A. 子育てへの使命感	12.0	52.4	29.1	5.6	1.0
B. 体力	30.9	55.6	11.3	1.8	0.5
C. 活動資金	17.7	57.8	17.7	6.3	0.5
D. 行政支援	35.9	53.4	8.2	2.0	0.5
E. 家族の理解	37.5	52.9	8.2	1.0	0.4
F. 時間的余裕	38.9	55.8	4.5	0.4	0.4
G. 会長のリーダーシップ	30.0	55.6	11.9	1.8	0.6
H. メンバー間で足並みを揃えること	24.0	57.4	15.8	2.1	0.7
I. 社会から認めてもらうこと	21.4	49.5	24.1	4.4	0.6
J. 自分の生活にある程度犠牲にすること	1.3	7.7	40.4	49.8	0.8
K. 活動する場所	72.7	25.1	1.2	0.3	0.7
L. 精神的ゆとり	36.1	57.4	5.4	0.6	0.5
M. サークルの規模が大きくなりすぎないこと	15.1	45.0	35.4	3.9	0.5
N. NPO*化すること	9.2	39.6	36.9	12.8	1.5

* N P O : 民間非営利団体 (Non-Profit Organization の略) のこと。保健・福祉、社会教育、子どもの健全育成を図る活動などを目的とする活動団体は、特定非営利活動促進法 (N P O 法) に定められた N P O 法人となった場合、一定の活動支援を受けることができる。

問14．今後は、育児サークルとどのように関わっていきたいと思いますか。

A～Dそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A．自分で別のサークルをつくってみたい	2.0	6.4	26.7	64.2	0.7
B．子どもが大きくなっても育児サークルに参加したい	16.2	30.5	31.1	21.8	0.5
C．今のサークルを脱退したい	2.0	4.4	19.7	73.3	0.7
D．他のサークルとネットワークしたい	9.3	34.5	31.2	24.1	0.8

付問．問14の「A．自分で別のサークルをつくってみたい」で、「1(あてはまる)」または「2(ややあてはまる)」と答えた方にうかがいます。どのような育児サークルをつくりたいですか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。

n=184

(%)

1．母親主体のサークル	42.9
2．父親主体のサークル	3.3
3．家族参加のサークル	46.7
4．パソコンを活用するサークル	11.4
5．育児情報誌と一緒に作るサークル	15.2
6．行政との間にパイプがあるサークル	17.4
7．アウトドアなど共通する趣味を活かしたサークル	46.2
8．子どもの幼稚園・保育所・学校が同じサークル	32.1
9．ファッションの好み共通するサークル	2.7
10．NPOのサークル	12.0
11．起業化するサークル	6.5
12．子ども好きが集まったサークル	34.8
13．その他	21.2
無回答	1.1

問15．あなたは日々の子育てのなかでつぎのようなことを感じることはありますか。

A～Fそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A．マスコミは子育てする母親を理解していない	13.7	47.5	32.9	4.3	1.6
B．自分の子どもが何を考えているのかわからなくなる	4.4	28.3	48.6	18.1	0.6
C．自分の子どもの扱い方がわからなくなる	6.2	37.6	38.8	16.7	0.7
D．子育てから開放されたい	19.6	42.6	26.6	10.4	0.8
E．就職したい	15.2	36.4	26.2	20.6	1.7
F．「親」としてではなく「男」あるいは「女」として見られたい	8.2	28.8	42.1	20.1	0.8

問16．あなたが育児に困ったとき参照するのはだれ（どこ）からの情報ですか。

A～Hそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=2,195

(%)

	よく参照する	ときどき参照する	あまり参照しない	参照しない	無回答
A．自分や配偶者の親	26.4	47.8	18.6	6.2	1.0
B．配偶者	40.0	40.4	14.9	3.6	1.1
C．育児書や育児雑誌	10.7	51.6	26.4	10.0	1.2
D．育児サークルのメンバーの話	30.0	63.0	5.2	0.9	0.8
E．医療関係者のコメント	13.3	59.5	21.2	4.8	1.2
F．パソコンのホームページ	1.5	10.4	20.0	66.1	2.0
G．学校の先生や保育士	11.0	45.8	21.0	21.0	1.1
H．地域の人	6.6	41.5	31.3	19.4	1.3

問17．あなたは、現在、いくつの育児サークルに入っていますか。

N=2,195 (%)

(平均 1.3) サークル	無回答	0.7
-----------------	-----	-----

問18．かつて、育児サークルをやめた経験はありますか。

N=2,195 (%)

1 . はい	14.8	2 . いいえ	84.6	無回答	0.6
--------	------	---------	------	-----	-----

付問．問18で「はい」と答えた方、それはどうしてだったのですか。
ご自由にお書きください。

n=325 (%)

記入あり	98.8	記入なし	1.2
------	------	------	-----

n=325

問19．育児サークルの活動を続けていくうえで、苦労している点をご自由にお書き
ください。

N=2,195 (%)

記入あり	55.9	記入なし	44.1
------	------	------	------

問20．育児サークルに関して要望や意見がございましたら、ご自由にお書きください。

N=2,195 (%)

記入あり	38.0	記入なし	62.0
------	------	------	------

さいごに、あなたご自身やご家族のことについてうかがいます

問21．お住まいはどちらですか。

N=2,195

(%)

都府県	山形県	10.6	群馬県	9.5	埼玉県	9.4	東京都	11.1	石川県	6.3
	三重県	4.8	滋賀県	8.2	大阪府	10.8	広島県	12.1	香川県	9.2
	熊本県	7.7	その他	0.1					無回答	0.1
区市町村	東京23区	2.9	市	72.1	町	22.8	村	1.3	無回答	0.8

問22．あなたの性別

N=2,195

(%)

1．女	99.7	2．男	0.1	無回答	0.2
-----	------	-----	-----	-----	-----

問23．あなたの年齢

N=2,195

平均	33.0歳
----	-------

問24．ご結婚なさっていらっしゃいますか。

N=2,195

(%)

1．未婚	0.2	2．配偶者あり	99.2	3．死別・離別	0.3	無回答	0.3
------	-----	---------	------	---------	-----	-----	-----

問25．結婚している方におたずねします。共働きでいらっしゃいますか

n=2,177

(%)

1．はい	11.1	2．いいえ	88.7	無回答	0.2
------	------	-------	------	-----	-----

付問．問25で「1．はい」に つけた方にうかがいます。

お二人の収入はどちらの方が多いですか。

n=241

(%)

1．配偶者の方が多	91.7	2．本人の方が多	2.5	3．ほぼ同じ	5.0	無回答	0.8
-----------	------	----------	-----	--------	-----	-----	-----

問26．さしつかえなければ、あなたの最終学歴をお答えください。

N=2,195

(%)

1．小学校・中学校	0.8	2．高等学校	33.8	3．短大・高専	33.9
4．大学	16.0	5．大学院	0.6	6．専門学校	14.0
				無回答	1.0

問27．あなたのご職業は何ですか。

N=2,195

(%)

1．会社員	1.8	2．会社役員	0.0	3．公務員・団体職員	0.7
4．教員	0.1	5．専門職	1.9	6．自営業・家族従業	2.8
7．農林水産業	0.2	8．サービス業	1.7	9．専業主婦（夫）	86.2
10．その他	3.1			無回答	1.5

付問．問27で「9．専業主婦（夫）」以外に をつけた方におたずねします。
あてはまる就業形態に一つ をつけてください。

n=271

(%)

1．フルタイム	16.2	2．パート・アルバイト	45.4		
3．育児休暇中	4.8	4．その他	15.1	無回答	18.5

問28．継続してお仕事をしていらっしゃるかどうかがあります。

N=2,195

(%)

1．継続して仕事をしている	4.4
2．現在は仕事をしているが、かつて中断したことがある	7.3
3．仕事に就いた経験はあるが、現在は就いていない	77.4
4．仕事に就いた経験はない	1.2
無回答	9.6

付問1．問28で「2．現在は仕事をしているが、かつて中断したことがある」または、「3．仕事に就いた経験はあるが、現在は就いていない」に をつけた方にうかがいます。仕事をお辞めになった理由・きっかけは何ですか。

n=1,860

(%)

1．結婚	35.1	2．妊娠・出産	51.9	3．育児	10.9
4．配偶者の転勤	4.6	5．本人の転勤	0.1	6．介護	0.6
7．仕事上の理由	1.4	8．会社等雇用先の都合	1.1	9．その他	2.4
				無回答	5.2

付問2．問28で「3．仕事に就いた経験はあるが、現在は就いていない」または、「4．仕事に就いた経験はない」に をつけた方にうかがいます。今後就職したいとお考えですか。

n=1,726

(%)

1．就職したい	20.0
2．条件が合えば就職したい	56.4
3．就職するつもりはない	7.7
4．わからない	10.5
無回答	5.4

問29. 次のことに費やす時間は平均して1日(平日)どのくらいですか。 (%)

	あなたご本人						配偶者						
	1時間未満	1~2時間	2~3時間	3~4時間	4時間以上	無回答	1時間未満	1~2時間	2~3時間	3~4時間	4時間以上	無回答	
N=2,195							n=2,177						
A. 家事	0.7	7.1	23.4	27.2	39.9	1.8	86.6	4.5	0.5	0.1	0.3	8.1	
B. 育児	1.5	3.8	6.2	6.7	79.4	2.4	50.4	31.6	8.8	2.0	1.3	5.8	
C. 介護	60.0	0.9	0.3	0.0	0.5	38.3	60.7	0.3	0.0	0.0	0.0	38.9	
D. 趣味	63.8	23.5	4.1	0.9	0.3	7.4	52.5	24.1	7.9	2.2	1.7	11.7	

問30. あなたと同居なさっていらっしゃる方、すべてにをつけてください。

N=2,195 (%)

1. 配偶者	97.6	2. 子ども	98.5
3. 父母(本人方 配偶者方)	22.6	4. その他	5.5
		無回答	0.4

問31. お子様はおいくつですか。年齢を記入してください。また、育児サークルに入っているお子様については、年齢をで囲んでください。

N=2,195 (%)

0歳	10.3	1歳	21.7	2歳	34.5	3歳	37.1	4歳	19.4
5歳	16.3	6歳	13.5	7歳以上	31.4			無回答	0.8
加入している子の人数		平均	1.0人						

問32. いざというときに子どもを預かってくれる人や施設が近所にありますか。

N=2,195 (%)

1. 友人・知人	35.4	2. 祖父母	66.4	3. 親戚	8.3
4. 一時預かり保育所	12.9	5. 一時預かり託児所	6.8	6. その他	3.3
7. ない	10.3			無回答	0.9

問33. 男の子と女の子の育て方について、ご自身の考えに近いものの番号に一つをつけてください。

N=2,195 (%)

1. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがいい	4.3
2. なるべく同じように育てた方がよいと思うが、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがいい	53.9
3. 男の子も女の子も同じように育てた方がよい	36.7
4. わからない	4.6
無回答	0.4

長時間にわたりご協力ありがとうございました。

子育てサークルの活動に関する調査

リーダー様調査票

調査票回答についてのお願い

このアンケート調査は、子育てサークルで活動するリーダーの方にご回答をお願いするものです。ご記入いただいたアンケート票は、**2月5日(月)**までに同封の返送用封筒に入れて、お近くの郵便ポストにご投函ください。(切手は不要です)

お答えいただいた内容はすべて数字で処理されますので、お名前が出たり、ご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。

回答は、あてはまる番号に をつけるか、数字を記入してください。各設問によってつける数や数字を記入する数が異なりますので、そのつど書いてある記入方法に沿ってご記入ください。また、その他に をつけた場合は、適宜ご記入ください。

問1. はじめに、貴サークルのことについてうかがいます。

(%)

A. メンバー

N=571

総数	(平均 60.6)名	無回答	4.2
うち 子どもの数	(平均 32.7)名		6.3
母親の数	(平均 27.5)名		4.7
父親の数	(平均 3.3)名		48.9

家族数	(平均 28.4)家族		12.1

(%)

B. 発足時期

N=571

平成2年以前	16.5	平成3～7年	26.3	平成8年	8.6
平成9年	12.4	平成10年	11.4	平成11年	10.9
平成12年以降	6.1				

C. サークルの拠点地

N=571

(%)

1. 政令指定都市	15.1	2. 人口30万以上の都市	12.1
3. 人口30～10万の都市	18.0	4. 人口10万未満の都市	13.1
5. 町	31.5	6. 村	2.5
		無回答	7.7

D. サークルの拠点となる地域の様子(もっとも近いものの番号に一つ)

N=571

(%)

1. 新興の住宅地	29.1	2. 古くからの住宅地	45.0
3. 商業地	7.0	4. 工場が多い	0.9
5. 農・林・漁業中心	8.1	6. その他	8.6
無回答	1.4	無回答	7.9

問2. メンバーのなかにはどのような地域に住んでいる人が参加していますか。
あてはまる番号にすべてをつけてください。

N=571

(%)

1. 同じ区や市町村内の同じ地区	72.9
2. 同じ区や市町村内の異なる地区	42.7
3. 同じ都道府県で異なる市町村	13.8
4. 異なる都道府県	2.6
5. 異なる国	0.9
無回答	0.4

問3. 貴サークルでは、次のようなことがどのくらいあてはまりますか。

A～Hそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=571

(%)

(例)	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
A. サークル活動へのメンバーの参加率が高い	1	2	3	4	
	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A. サークル活動へのメンバーの参加率が高い	27.7	52.0	17.5	1.9	0.9
B. メンバーの転出入がよくある	8.9	31.0	39.4	19.6	1.1
C. メンバー間で役割分担が決まらないことがよくある・	3.9	14.7	38.4	41.2	1.9
D. メディア等の媒体で紹介されたことがある	21.0	17.0	13.8	46.2	1.9
E. 地域の行政担当者とはなるべく連絡をとるようにしている	22.2	28.2	21.9	26.3	1.4
F. 地域の市民団体とはなるべく連絡をとるようにしている	9.1	20.1	31.0	38.7	1.1
G. 地域のボランティアとはなるべく連絡をとるようにしている	6.5	17.0	26.6	49.0	0.9
H. 地域の行政担当者から協力を求められる	13.7	28.0	25.6	31.7	1.1

問4．貴サークルはどれくらいの頻度で開かれていますか。

A・Bそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

A．サークルの係りを集めた活動

N=571 (%)

1．月1回程度	28.0	2．月2回程度	22.6	3．週1回程度	23.5
4．週2回以上	2.3	5．その他	20.3	無回答	3.3

B．係り以外のメンバーも含めた活動

N=571 (%)

1．月1回程度	21.9	2．月2回程度	25.7	3．週1回程度	31.5
4．週2回以上	1.9	5．その他	11.7	無回答	7.2

問5．貴サークルの1回の活動時間は平均でどれくらいですか。

N=571 (%)

平均 約 (2) 時間 (0) 分	無回答	0.5
-----------------------	-----	-----

問6．貴サークルはどのような場所で活動していますか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。

N=571 (%)

1．公園	48.2
2．児童館	27.3
3．子育て支援センター	14.0
4．幼稚園，保育所等	17.7
5．メンバーの家	13.7
6．デパートやスーパー	1.1
7．公民館	55.2
8．女性センター	3.7
9．体育館	8.8
10．習い事教室	0.4
11．動物園	5.4
12．遊園地	2.6
13．その他	29.1
無回答	0.2

問7～問12では、貴サークルの運営についてうかがいます

問7. メンバーで分担する仕事または係りについてうかがいます。

A. どのような種類の係りや仕事がありますか。
 あてはまる番号にすべてをつけてください。

N=571 (%)

1. 会長	62.9	2. 副会長	40.3	3. 会計	66.7
4. 企画	30.1	5. 広報	16.8	6. 機関誌等の編集	15.6
7. 連絡調整	31.5	8. 買い出し	28.5		
9. その他	31.2			無回答	5.1

B. どのように役割分担を決めていますか。
 あてはまる番号にすべてをつけてください。

N=571 (%)

1. 立候補制	28.9
2. リーダー（会長または副会長）が指名する	21.7
3. 前任者が指名する	18.4
4. ローテーションにする	30.3
5. 担当者を変えない	8.8
6. その他	25.6
無回答	5.6

C. 役割を分担したメンバーは、うまくこなしているとおもいますか。
 あてはまる番号に一つをつけてください。

N=571 (%)

1. 全員がよくやっている	70.8
2. 一部をのぞく全員がよくやっている	10.2
3. 一部の人のみよくやっている	8.9
4. ほとんど全員がやっていない	2.6
無回答	7.5

問8. 貴サークルの方針の決め方についてうかがいます。

A. サークルの方針を考えるのは、主にだれですか。

N=571 (%)

1. サークルのリーダー（役職名：)	31.3
2. サークル内の委員会（委員会名：)	10.2
3. メンバー全員で	41.0
4. 特に決まっていない	15.1
無回答	2.5

B . サークルの方針についてメンバーに説明していますか。

N=571

(%)

1 . はい	86.7	2 . いいえ	10.7	無回答	2.6
--------	------	---------	------	-----	-----

C . サークルの方針について、リーダーの意向はどの程度反映されますか。

N=571

(%)

1 . ほぼ全面的に反映される	29.4
2 . かなり反映される	50.6
3 . 少し反映される	11.9
4 . 反映されない	2.5
無回答	5.6

**問 9 . どのようにサークルの活動資金をみつめていますか。
あてはまる番号にすべて をつけてください。**

N=571

(%)

1 . メンバーからの会費 (月あたり平均 421円)	65.7
2 . バザーなど日用品の販売	14.4
3 . 行政からの助成金	26.6
4 . 行政以外からの助成金	7.0
5 . 自己資金の投入	7.4
6 . サークルが発行している情報誌の売り上げによる収入	1.1
7 . サークルが発行している情報誌への広告収入	0.2
8 . 銀行などの金融機関からの借金	0.0
9 . その他	17.2
無回答	3.3

問10 . サークル活動に関する情報を集めるときに、どのような情報源を利用していますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。

N=571

(%)

1 . 新聞	29.1
2 . 書籍	29.2
3 . 子育て情報誌	44.0
4 . サークル発行の雑誌・会報	17.2
5 . ホームページ (インターネット)	8.4
6 . 自治体の発行する広報誌 (市報など)	40.6
7 . テレビ	16.8
8 . ラジオ	3.2
9 . 子育て支援センター	33.3
10 . その他	23.1
無回答	4.6

問11．他のサークルとの交流はありますか。

N=571

(%)

1．ある	39.2	2．ない	60.4	無回答	0.4
------	------	------	------	-----	-----

付問．問11で「1．ある」と答えた方にうかがいます。他のサークルとは、どのような交流がありますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

n=224

(%)

1．共同で活動をつくる機会がある	56.3
2．実際に会って情報交換をする機会がある	58.5
3．パソコン上で情報交換をする機会がある	5.4
4．雑誌などの誌上で意見交換をしている	3.6
5．メンバーは直接知らないが情報を入手するようにしている	25.4
6．その他	15.2
無回答	0.4

問12．貴サークルの雰囲気についてうかがいます。

A～Eそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=571

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A．子育てや家庭の悩みをメンバー間で本音で出し合える	31.9	52.7	12.3	1.8	1.4
B．子育ての方法についてアイデアを交換することが多い	40.8	48.3	8.8	0.7	1.4
C．メンバーはまとまっている	33.6	52.5	11.4	1.1	1.4
D．メンバー間に派閥のようなものがあると感じる	1.4	15.4	30.6	51.1	1.4
E．サークルの運営方針についてメンバー間で意見が割れることがある	1.9	9.8	39.2	47.5	1.6

問13～問16では、あなたご自身についてうかがいます

問13. 次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか。

A～Eそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=571

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A. サークル運営にあたってはリーダーシップを発揮できていると思う	18.0	48.2	27.1	5.4	1.2
B. メンバーに対して積極的に話しかけるようにつとめている	47.8	44.1	6.1	1.4	0.5
C. メンバー全体の共通理解を図るよう に心がけている	38.5	51.7	7.5	1.6	0.7
D. メンバーのやる気を起こさせるよう につとめている	28.0	44.5	22.8	3.7	1.1
E. 活動日以外にもサークルの仕事に時 間を費やす	26.6	37.7	23.6	11.2	0.9

問14. 子育てサークルのリーダーには、どのような 資質 が必要だとお考えですか。

A～Iそれぞれについて、あてはまる番号一つずつをつけてください。

N=571

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A. メンバー一人ひとりの特性を 見いだすこと	28.4	44.5	22.4	3.3	1.4
B. 活動を外部にアピールできる こと	20.3	38.7	33.3	6.5	1.2
C. メンバーに具体的な指示が与 えられること	36.4	44.8	14.2	3.2	1.4
D. 裏方に徹すること	21.9	42.6	27.8	5.6	2.1
E. メンバー間の人間関係をと りもつこと	38.0	42.6	16.3	2.1	1.1
F. メンバーの相談相手になれる こと	39.8	44.0	13.3	1.8	1.2
G. 活動資金を外部から獲得して くること	6.0	15.1	36.6	40.6	1.8
H. 子ども好きであること	53.6	35.0	7.5	2.6	1.2
I. 働いていた経験があること	8.8	22.2	39.1	28.4	1.6

問15．次のA～Dそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=571

(%)

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
A．子育てサークルに参考となる国や行政からの情報は十分に流通している	4.7	22.9	46.1	25.6	0.7
B．子育てサークルに参考となる民間からの情報は十分に流通している	3.0	24.9	52.5	18.7	0.9
C．子育てサークルに入りたくても入れない母親が多いと思う	37.3	42.4	16.6	2.8	0.9
D．子育てサークルに入りたくても入れない父親が多いと思う	30.6	21.7	31.3	15.1	1.2

問16～問21では、貴サークルの受けている行政支援についてうかがいます

問16．あなたが子育てサークルの活動について相談するときの行政窓口はどこですか。
あてはまる番号にすべてをつけてください。

N=571

(%)

1．教育委員会	7.0	2．母子保健担当部署	13.8
3．労働政策担当部署	0.4	4．児童相談所	2.3
5．福祉担当部署	13.3	6．女性政策担当部署	0.7
7．公民館	29.2	8．保健所・保健センター	32.0
9．児童館・児童センター	20.8	10．女性センター・婦人会館	5.1
11．子育て支援センター	31.0	12．その他	14.5
		無回答	3.9

問17．あなたのサークルが活動する上で、行政からの支援を受けていますか。

N=571

(%)

1．受けている	75.0	2．受けていない	23.8	無回答	1.2
---------	------	----------	------	-----	-----

付問1．問17で「1．受けている」と答えた人におたずねします。
どこからの支援ですか。

n=428

(%)

1．教育委員会	6.8	2．母子保健担当部署	9.3
3．労働政策担当部署	0.0	4．児童相談所	0.0
5．福祉担当部署	15.0	6．女性政策担当部署	0.5
7．公民館	31.8	8．保健所・保健センター	20.6
9．児童館・児童センター	18.5	10．女性センター・婦人会館	3.0
11．子育て支援センター	23.6	12．その他	13.8
		無回答	2.6

付問2. 問17で「1. 受けている」と答えた人におたずねします。
 どのような支援ですか。A～Gについてお答えください。

A. 公民館や保健センター、児童センターなどの「場所」の提供を受けていますか。

n=428 (%)

1. はい	93.7	2. いいえ	6.3	無回答	0.0
-------	------	--------	-----	-----	-----

上記のAで「1. はい」と答えた方におたずねします。

それはどんな場所ですか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

n=401 (%)

1. 公民館	56.6	2. 保健センター・保健所	17.5	3. 児童館・児童センター	28.4
4. 保育園	16.2	5. 幼稚園	4.5	6. 生涯学習センター	3.2
7. 体育館	3.5	8. 社会教育センター	1.2	9. 女性センター	4.5
10. その他	14.0			無回答	1.0

同じく、Aで「1. はい」と答えた方におたずねします。

提供される場所はいつも決まっていますか。

n=401 (%)

1. いつも決まっている	66.3	2. だいたい決まっている	29.9		
3. 一度限り	0.2	4. その他	2.2	無回答	1.2

B. 遊具やコピー機など「設備の貸し出し」を受けていますか。

n=428 (%)

1. はい	79.2	2. いいえ	20.6	無回答	0.2
-------	------	--------	------	-----	-----

Bで「1. はい」と答えた方におたずねします。どのような設備ですか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。

n=339 (%)

1. 遊具	69.3	2. 体操器具	15.3	3. 印刷機	26.5
4. コピー機	46.6	5. ビデオデッキ	26.0	6. 調理器具	23.0
7. ピアノ	18.3	8. 教材ビデオ	7.1	9. 紙芝居	35.7
10. 絵本・図書	58.1	11. その他	16.8	無回答	0.3

C. サークル活動の活動費の補助や印刷費、託児費用などの「財政的支援」を行政から受けていますか。

n=428 (%)

1. はい	41.4	2. いいえ	57.5	無回答	1.2
-------	------	--------	------	-----	-----

Cで「1. はい」と答えた方におたずねします。
 あてはまる番号にすべてをつけてください。

n=177 (%)

1. 活動費の補助(年額 平均 54,075 円)	62.1	2. 文具代	19.2
3. 印刷費用	33.9	4. 託児費用	10.2
5. 郵送費	11.3	6. 保険代	6.2
7. その他	15.3	無回答	2.3

D. 子育てや家庭教育の専門家に話をしてもらったり、アドバイスや遊びの指導などの「人的支援」を行政から受けていますか。

n=428 (%)

1. はい	57.5	2. いいえ	41.4	無回答	1.2
-------	------	--------	------	-----	-----

Dで「1. はい」と答えた方におたずねします。どのような人ですか。
 あてはまる番号にすべてをつけてください。

n=246 (%)

1. 保健婦	56.1	2. 栄養士	19.9
3. 保育士・幼稚園教諭	36.6	4. 図書館司書	2.8
5. 家庭児童相談員	6.5	6. カウンセラー	4.9
7. 子育てアドバイザー	20.7	8. 子育てサポーター	17.5
9. その他	25.2	無回答	1.6

E. 子育てサークルに役立つ情報の提供や、市の広報誌にサークルを紹介するなどの「情報提供」を受けていますか。

n=428 (%)

1. はい	53.0	2. いいえ	45.3	無回答	1.6
-------	------	--------	------	-----	-----

Eで「1. はい」と答えた方におたずねします。
 どのような支援か具体的にご記入ください。

n=227 (%)

記入あり	93.0	記入なし	7.0
------	------	------	-----

F. 子育てサークルのメンバーに対する学習会や研修会、リーダー研修などの「学習機会の提供」を受けていますか。

n=428 (%)

1. はい	41.8	2. いいえ	57.0	無回答	1.2
-------	------	--------	------	-----	-----

G. サークル活動をしていく上での悩みに「相談」に乗ってくれる行政担当者はいますか。

n=428

(%)

1. はい	61.9	2. いいえ	36.0	無回答	2.1
-------	------	--------	------	-----	-----

問18. 子育てサークルに対する行政からの支援に満足していますか

N=571

(%)

1. 充分満足している	9.5	2. まあ満足している	38.9
3. あまり満足していない	29.9	4. まったく満足していない	16.6
		無回答	5.1

問19. 行政担当者は子育てサークルの活動を理解していると思いますか。

N=571

(%)

1. とても理解している	25.9	2. 少し理解している	39.6
3. あまり理解していない	20.5	4. まったく理解していない	8.8
		無回答	5.3

問20. 子育てサークルに対してどのような行政支援が必要だと思いますか。

A～Hのそれぞれについて、あてはまる番号に一つずつをつけてください。

N=571

(%)

	とても必要	少し必要	あまり必要でない	まったく必要でない	無回答
A. 場所の提供 ----->	90.2	6.5	1.4	0.2	1.8
B. 設備の貸し出し ----->	72.3	22.6	2.5	0.2	2.5
C. 財政的支援 ----->	43.1	33.5	18.4	2.6	2.5
D. 人的支援 ----->	41.0	41.2	13.8	1.1	3.0
E. 情報支援 ----->	51.1	39.8	5.6	0.5	3.0
F. 学習・研修 ----->	32.0	42.9	20.5	1.8	2.8
G. 相談 ----->	53.1	36.3	7.4	0.4	3.0

付問. 問20のA～Gのほかに、行政から子育てサークルに対してどのような支援が必要だと思いますか。具体的にお書きください。

N=571

(%)

記入あり	40.8	記入なし	59.2
------	------	------	------

さいごに、貴サークルの現状と課題について、あなたのご意見をお聞かせください。

問21. 子育てサークルのリーダーとして苦労されている点について、ご自由にお書きください。

N=571

(%)

記入あり	82.3	記入なし	17.7
------	------	------	------

問22. 現在、貴サークルで課題になっている点について、ご自由にお書きください。

N=571

(%)

記入あり	70.8	記入なし	29.2
------	------	------	------

長時間にわたりご協力ありがとうございました。